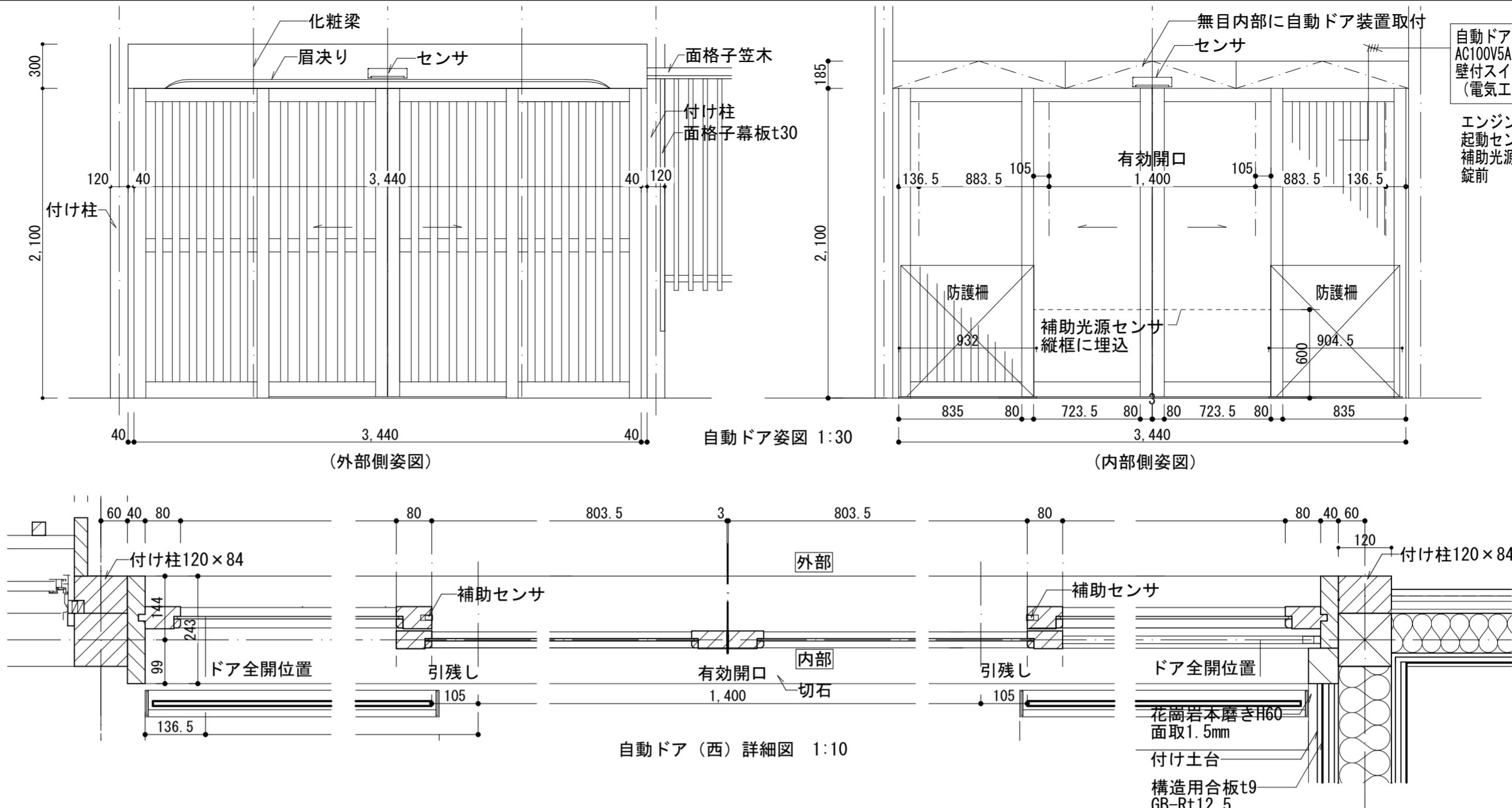
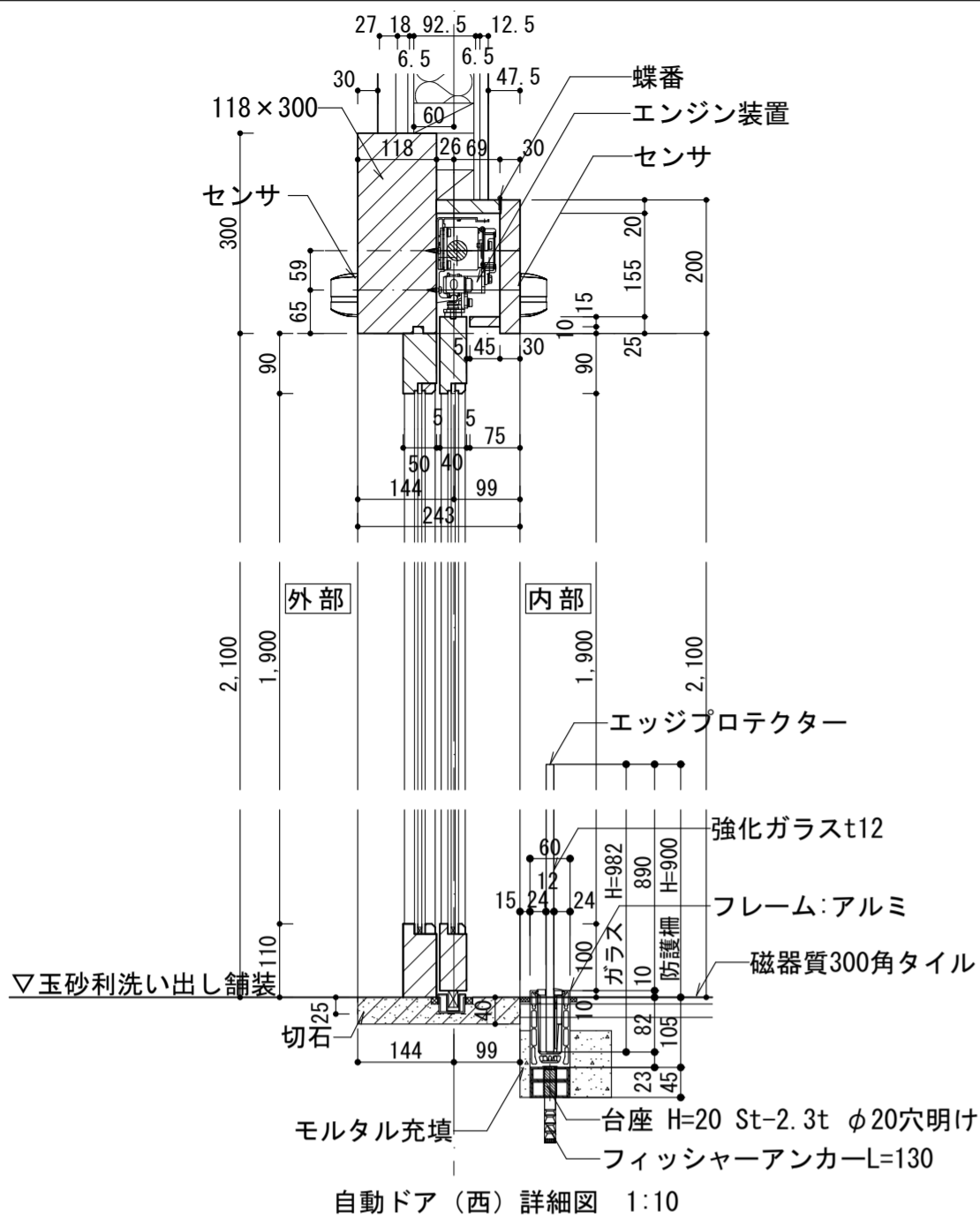


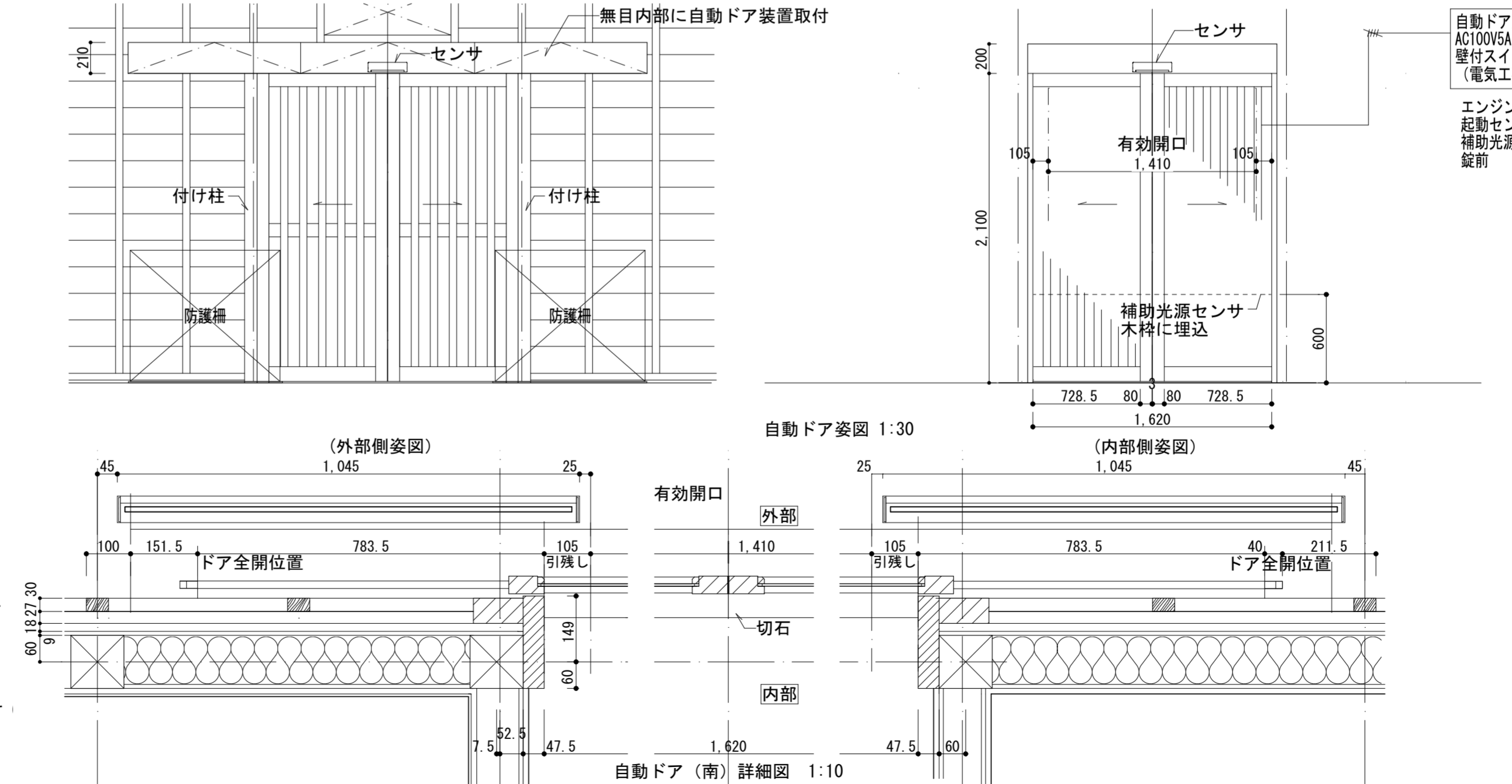
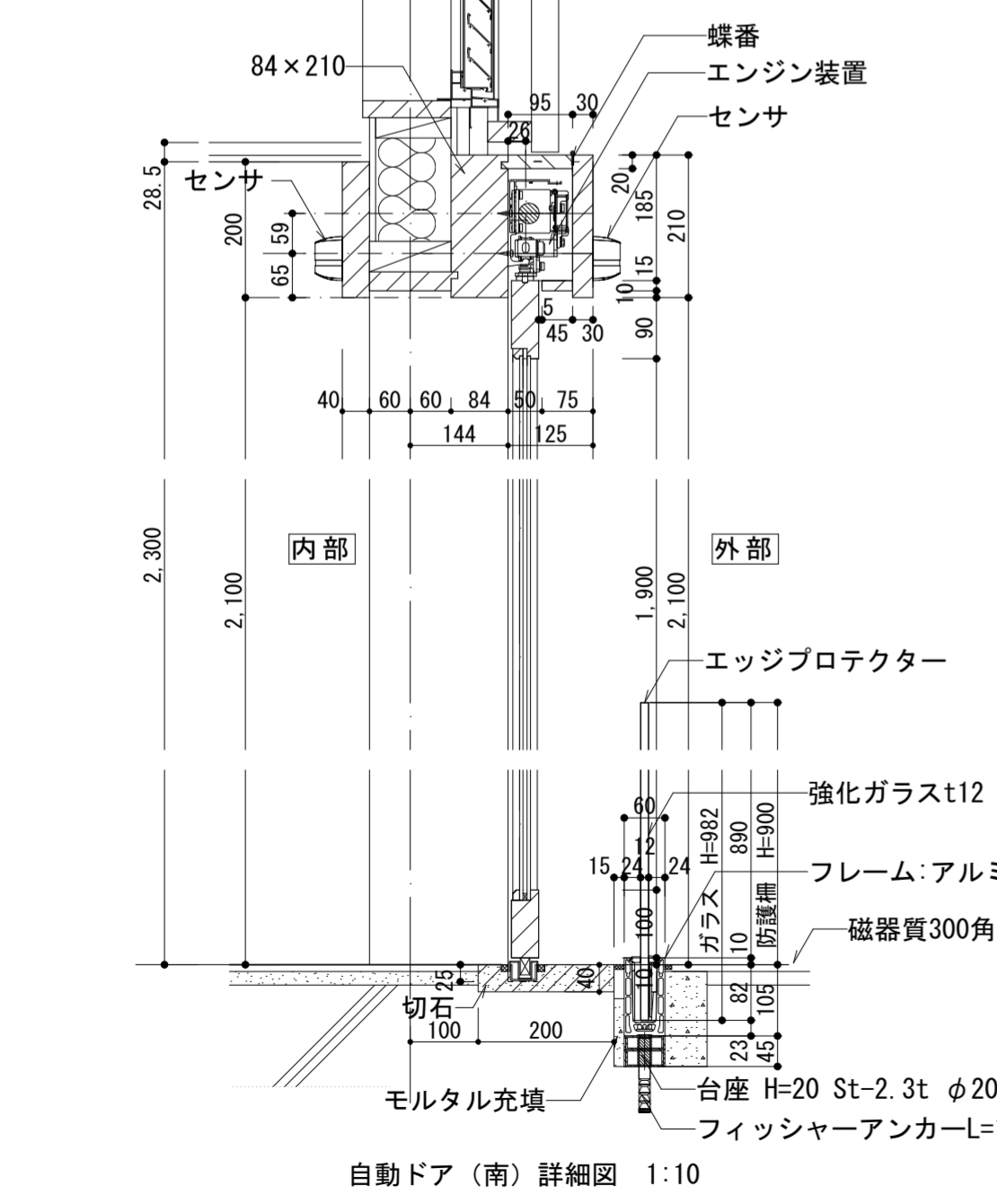




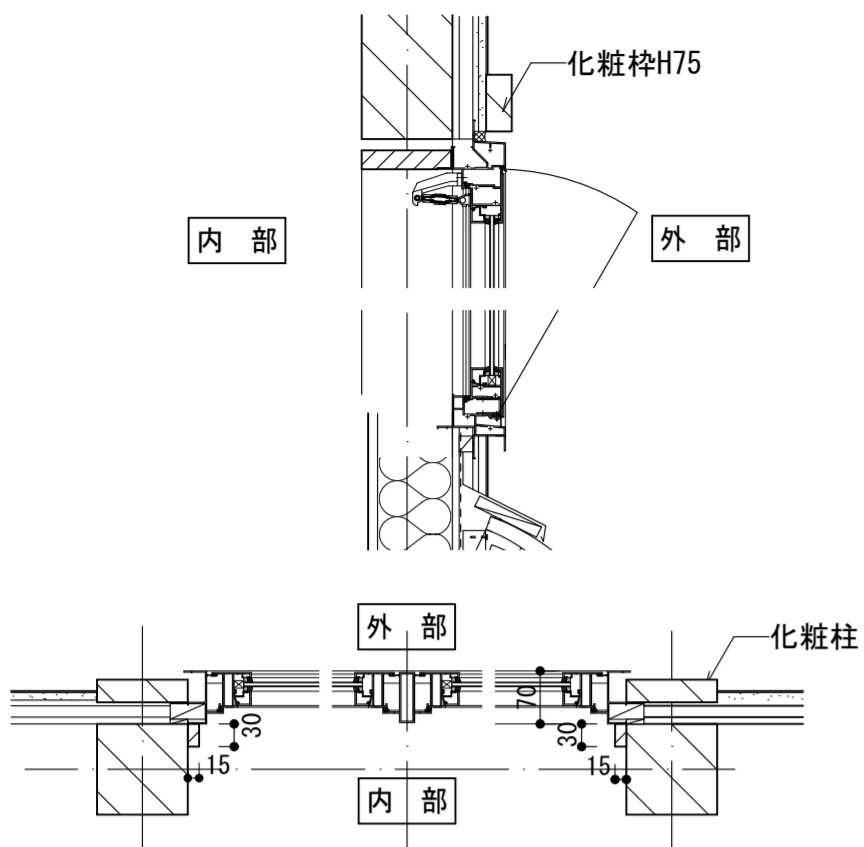
D-13 自動ドア（西）詳細図



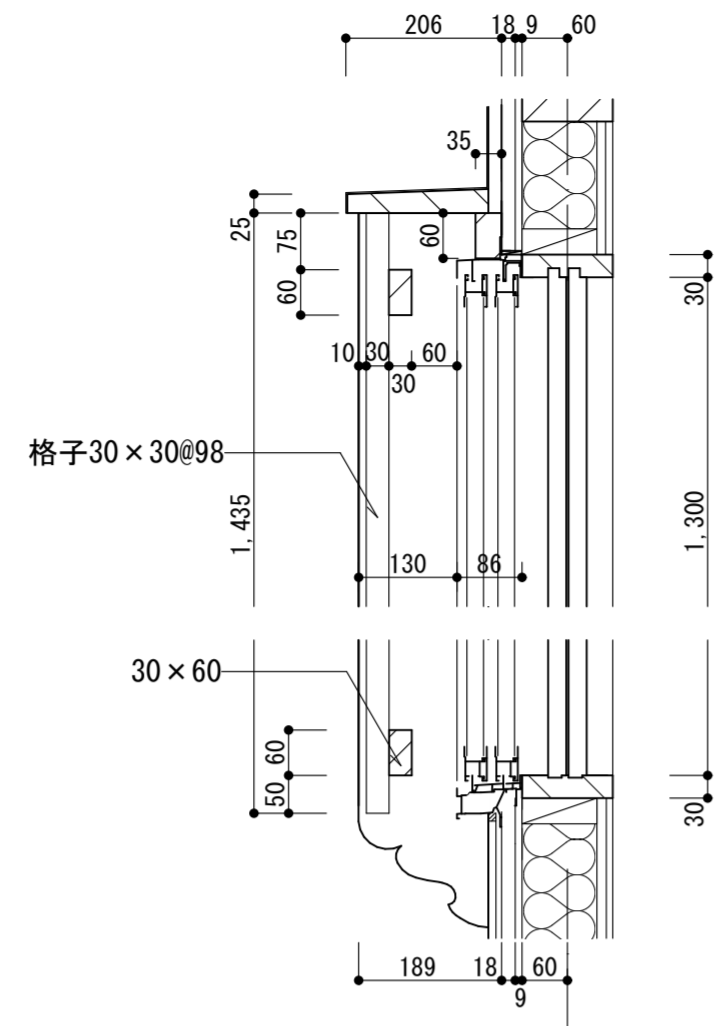
D-14 自動ドア（南）詳細図



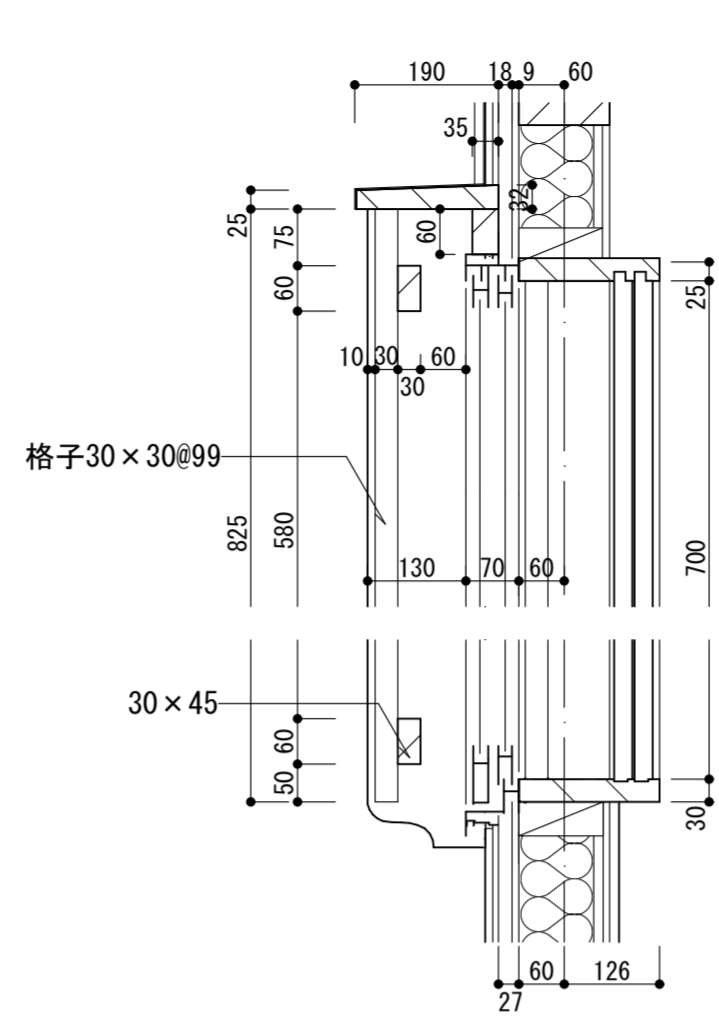
D-15 排煙窓納まり詳細図 1:10



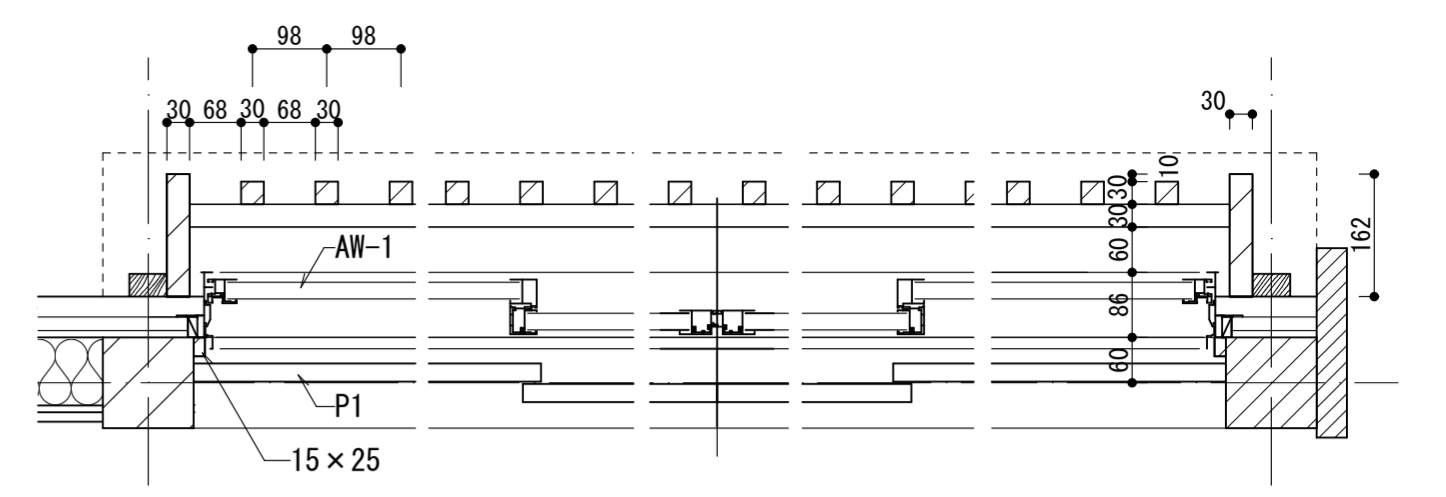
D-16 1階面格子詳細図 1:10



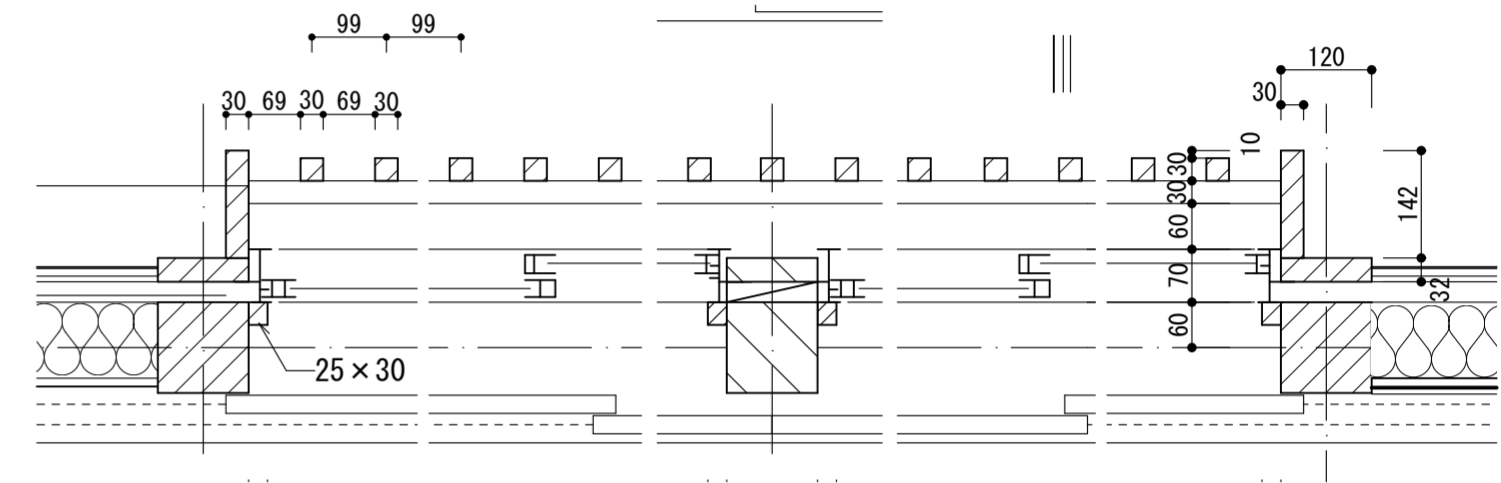
D-17 2階面格子詳細図 1:10



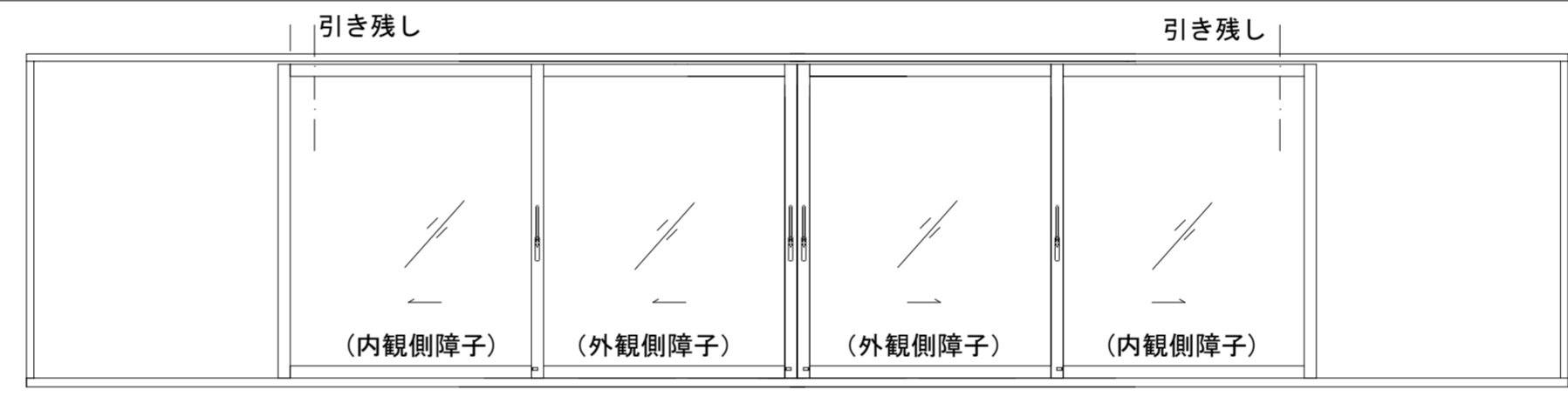
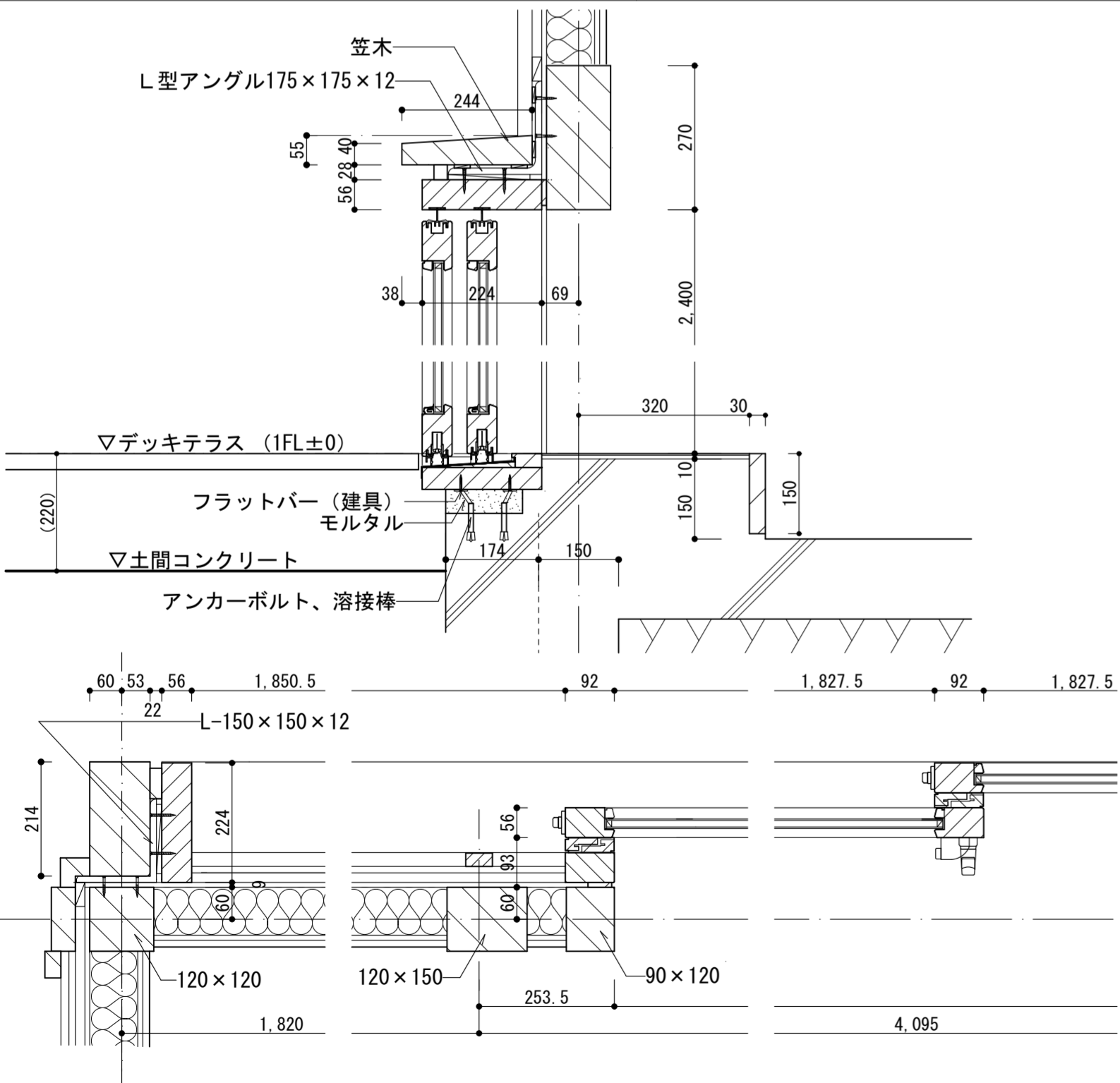
AW-1・AW-2・障子・1階面格子詳細図 1:10



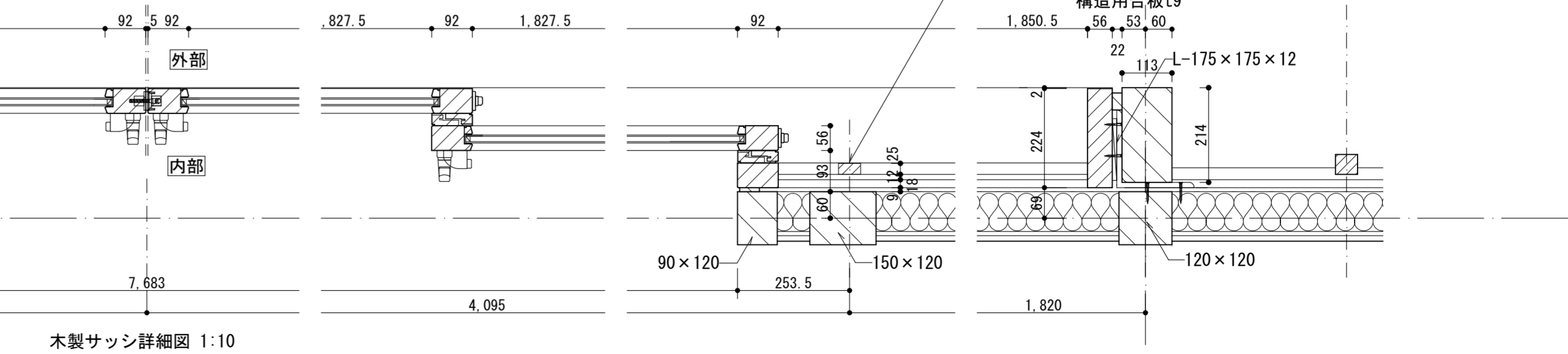
AW-6・2階面格子詳細図 1:10



D-18 木製サッシ詳細図 1:10



4枚引き分け			
金物・仕様	品番	金物・仕様	品番
材種	米ヒバ	引戸システム	GU社：ヘーベシーベ ステンレスハンドルDIRIGENT
ガラス	強化PT4-A12-LowE4	金物・錠	シリンダー装着タイプ 仕上ダークブロンズ
塗装	シッケンズHLSe (クリアー)		片面レバーハンドル、外部引手
網戸	プリーツ網戸 (建築工事)		

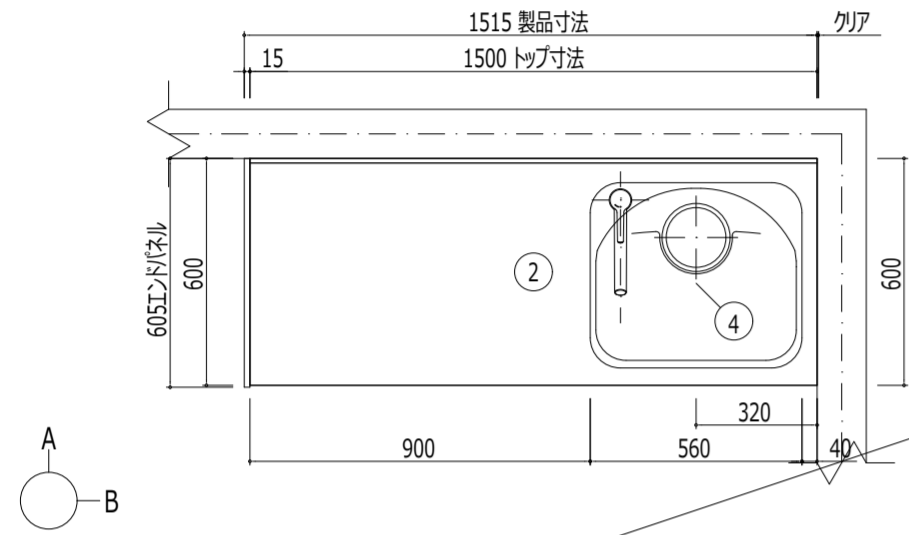




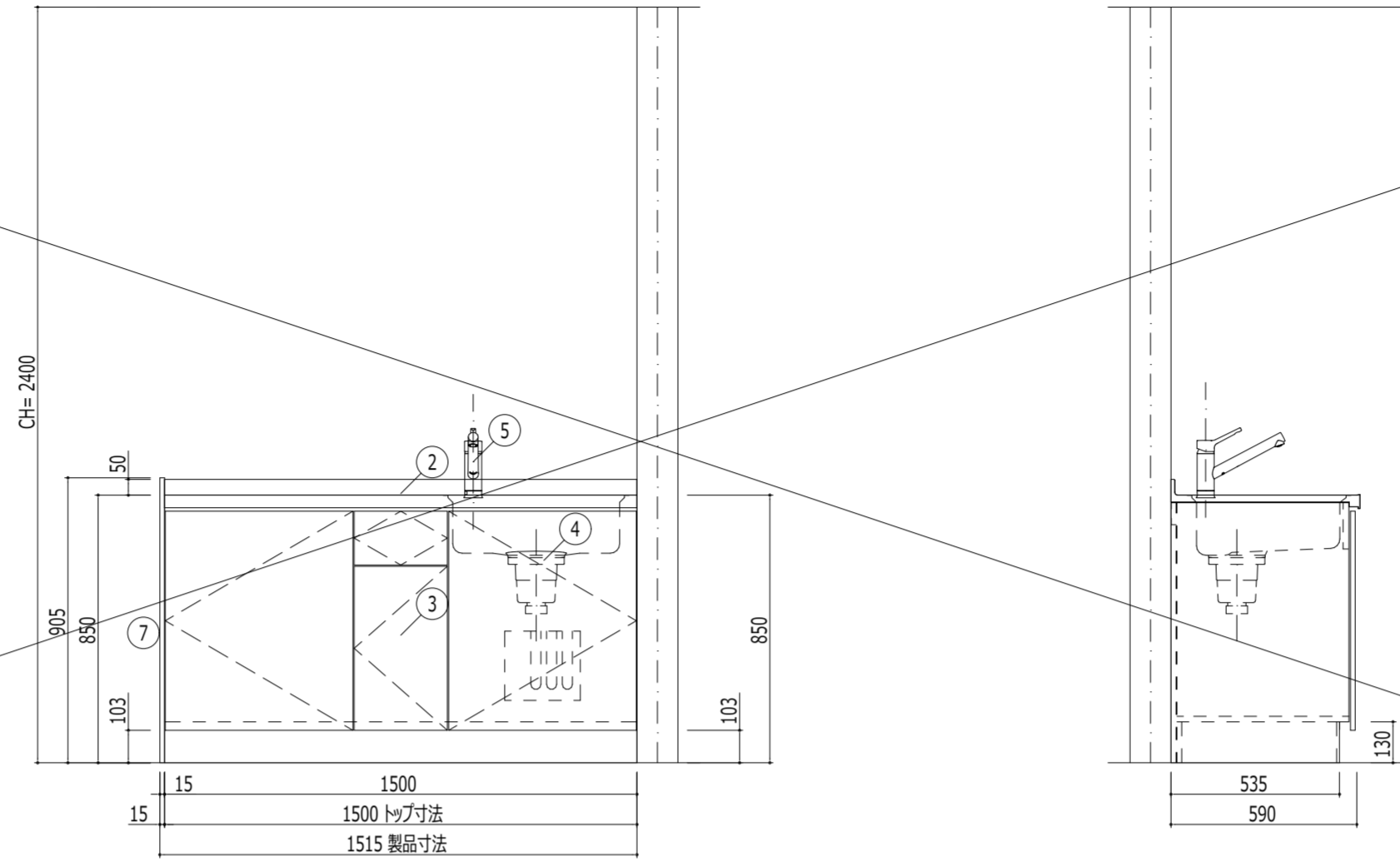
授乳室 コンパクトキッチン詳細図 1:20

品名	品番	数	備考
1 I型・D600・人天トップ	MWZFAI15J0WB6QR	1	ベシック_一体_コンロ無_点検口無
2 I型ワークトップ・D600	TIBQWM150A0YLOR	1	【QW】ベシックホワイト
3 人天用一体キャビ	MWF3S150ABWB6QR	1	ベシック_別冊無/コンロ無_点検口無
4 ラウンド56シンク	AOYL	1	水栓穴あり_まな板スタンドなし
5 P34/シングルバー水栓	SFWL420SYXJG2N	1	ルマーレス_エコハンドル_一般地用
6 止水栓セット品番	SLF3SV(470)KJG	1	(ドライバー式)
7 エンドパネル・キッチン用	MEQ060X090DWB6/	1	D600_フロアキャビネット用

※品番・型番はすべて同等品とする。



平面図



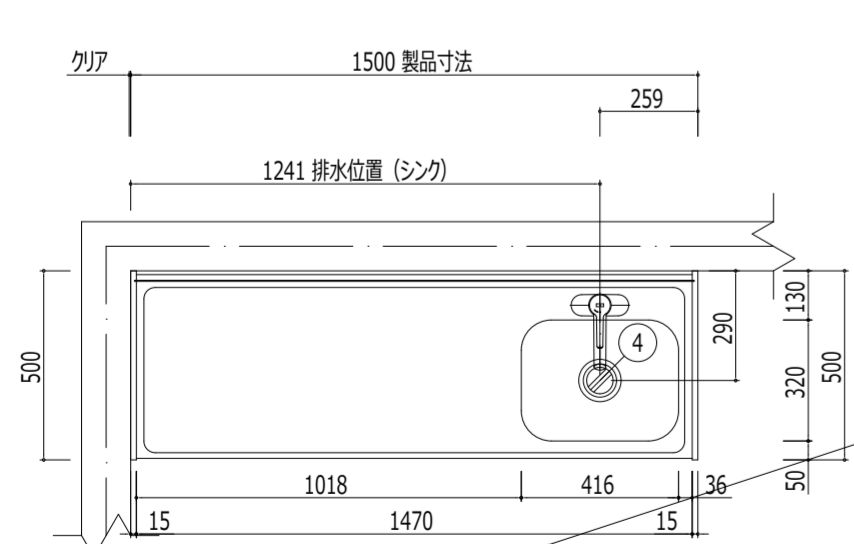
A面

B面

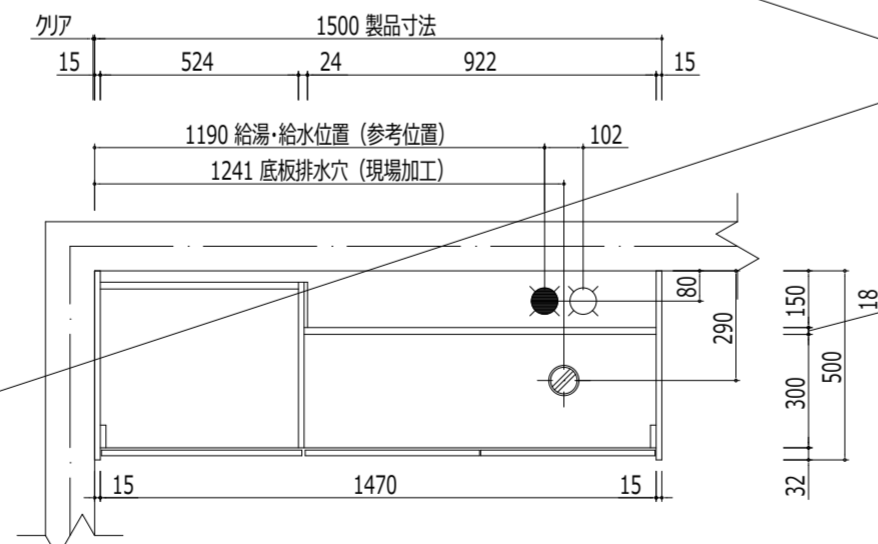
控え室 ミニキッチン詳細図 1:20

品名	品番	数	備考
ミニ扉タイプ150cm	DMK15HEWE1NNR	1	一般地_シングルバー_加熱機器なし
ミニキッチン下台150cm	DMK1501ENW2R	1	扉タイプ(加熱機器なし)・2穴
ミニキッチン用150cm	DMKE1502HR	1	(下台のみスペース)
ステンレスシンク		1	ステンレスシンク
2穴シングルバー水栓	SFWL438SYJG	1	ルマーレス_エコハンドル_一般地用
止水栓セット品番	SLF3SV(420)KJG	1	(ドライバー式)

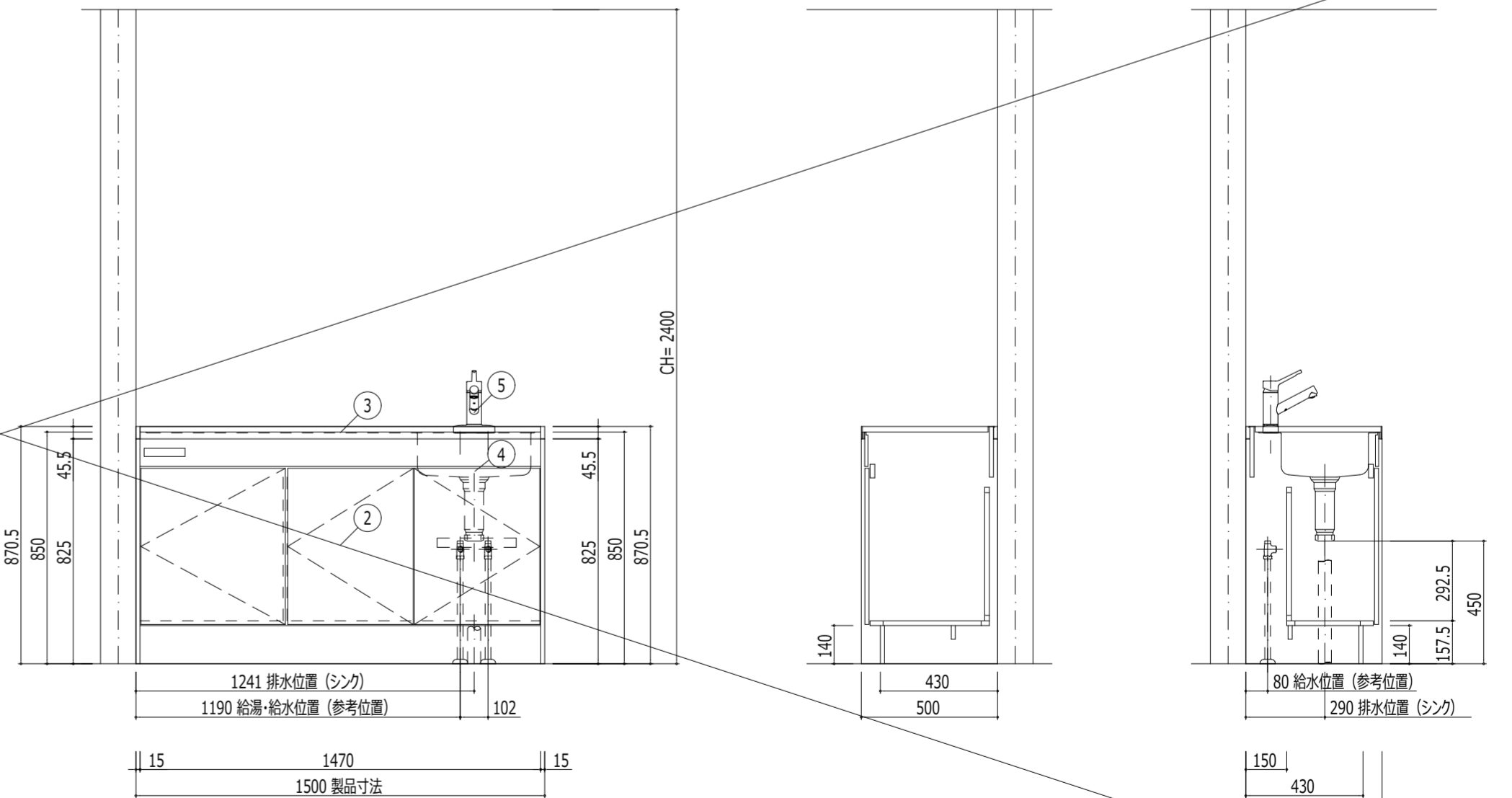
※品番・型番はすべて同等品とする。



平面図



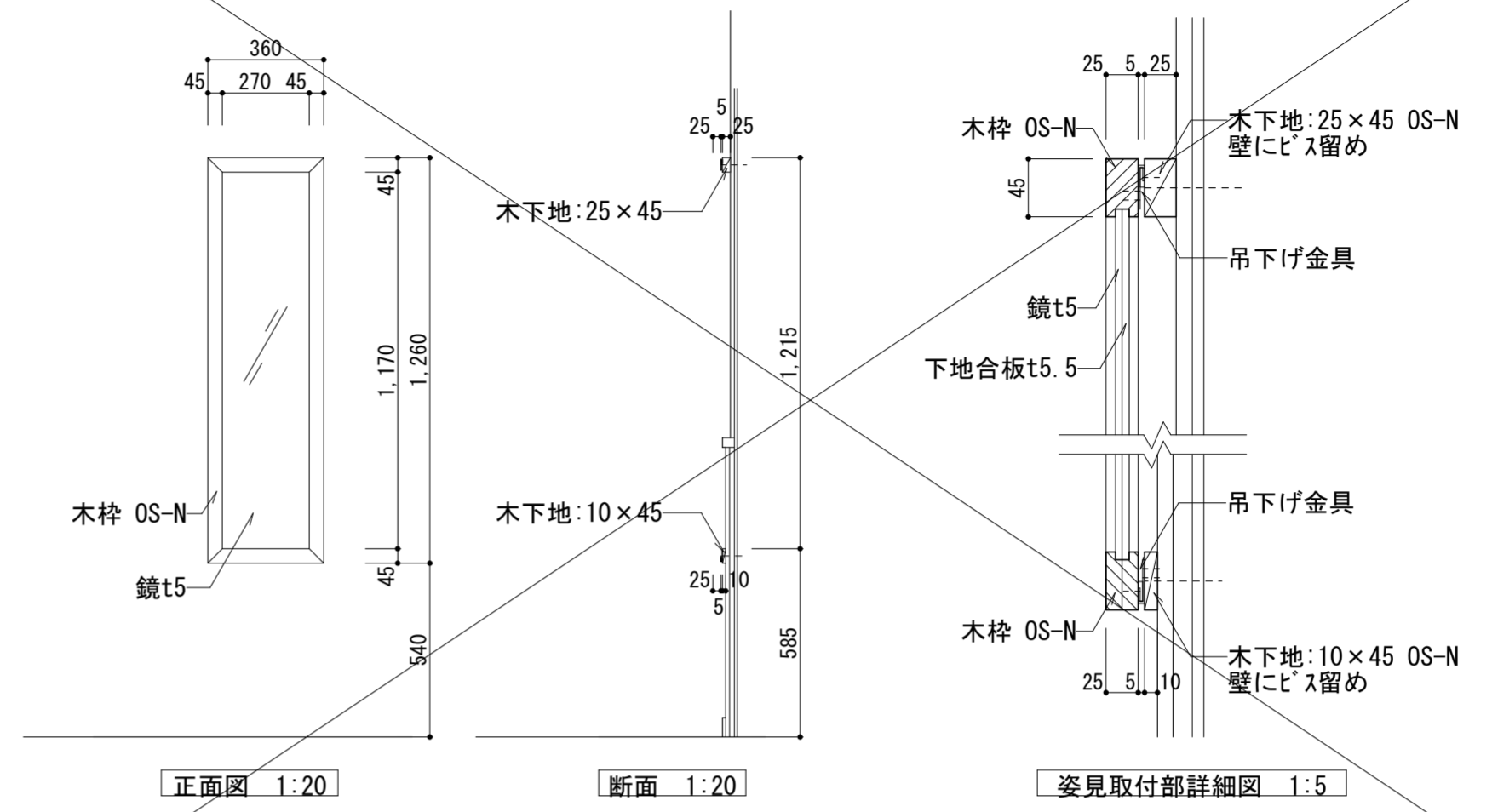
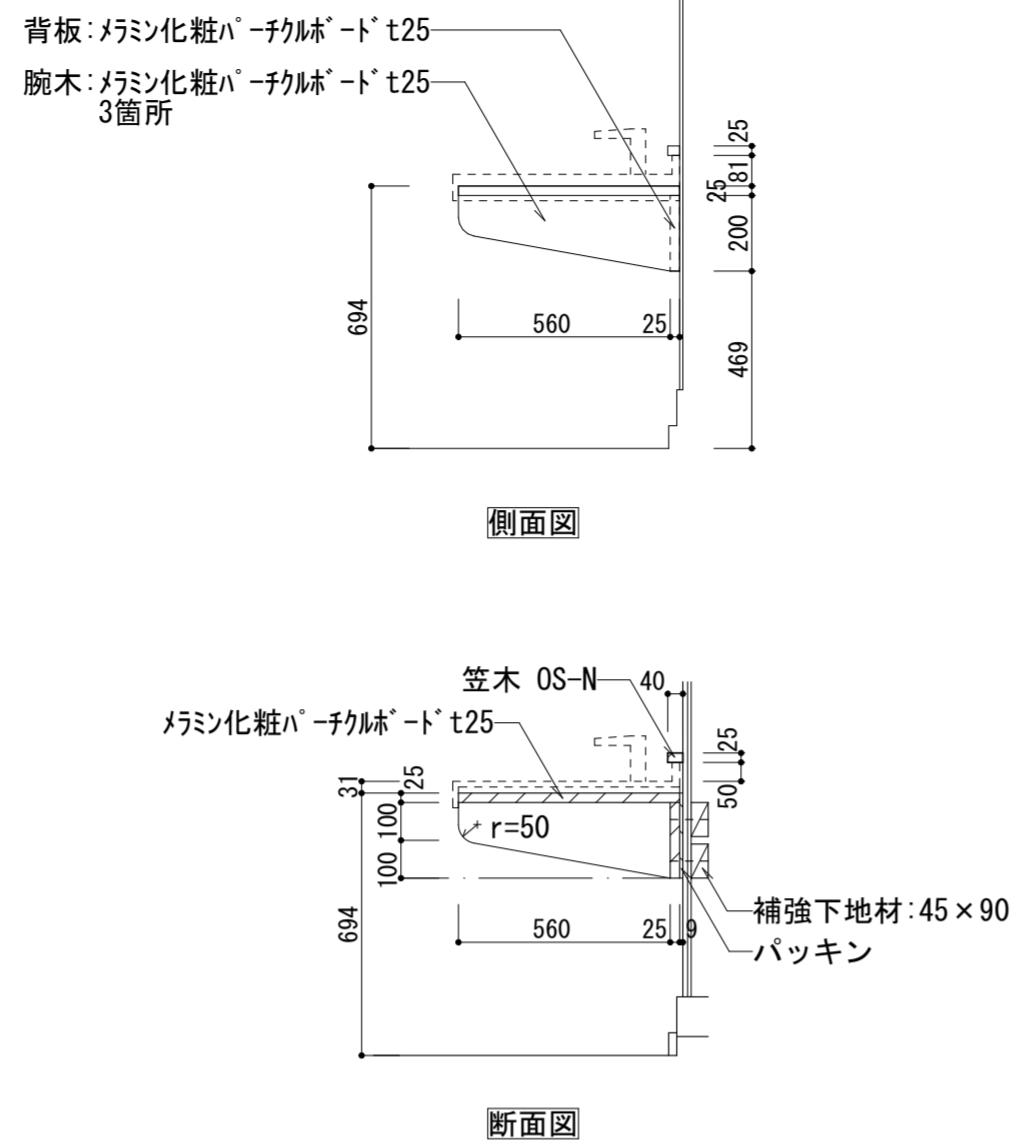
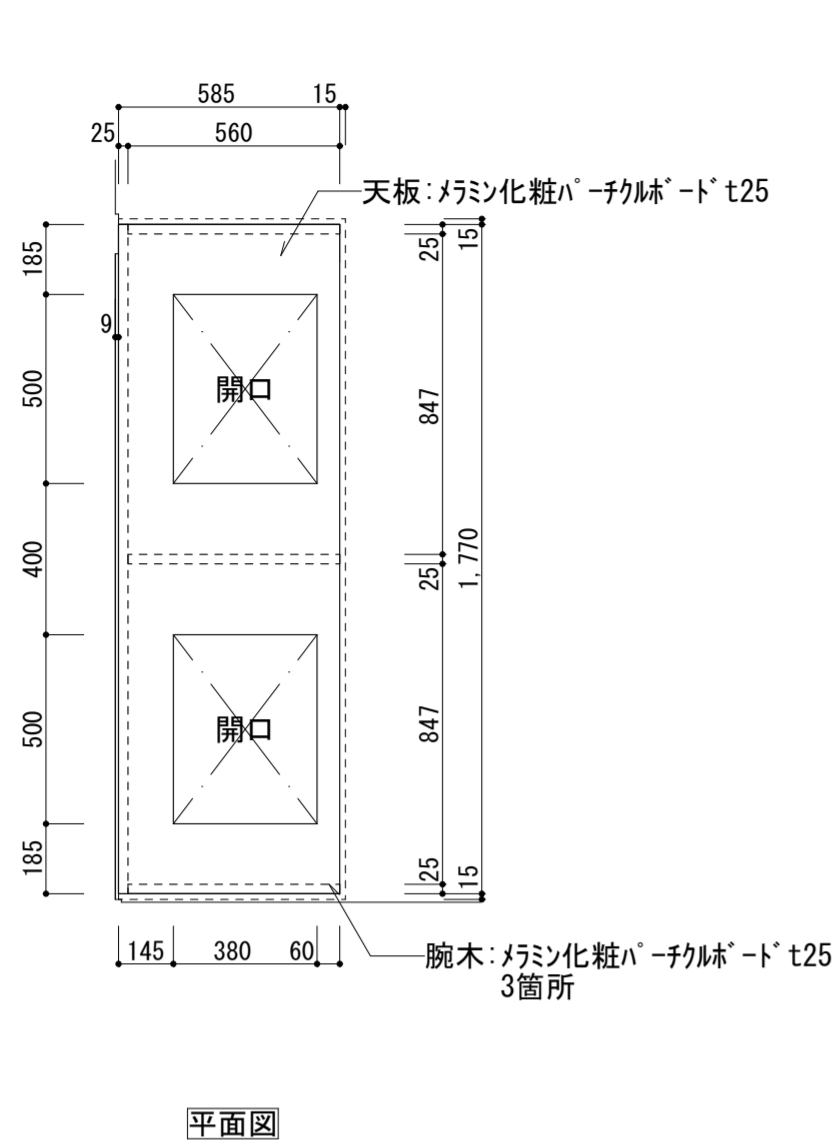
下台平面図



A面

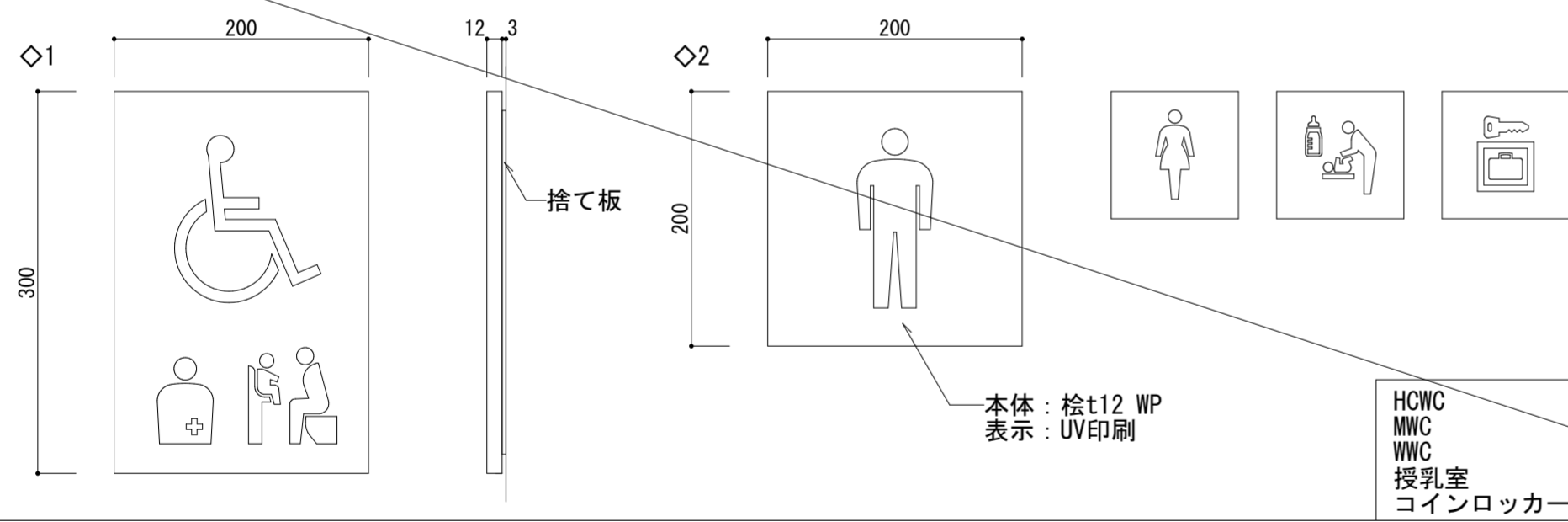
B面

C面

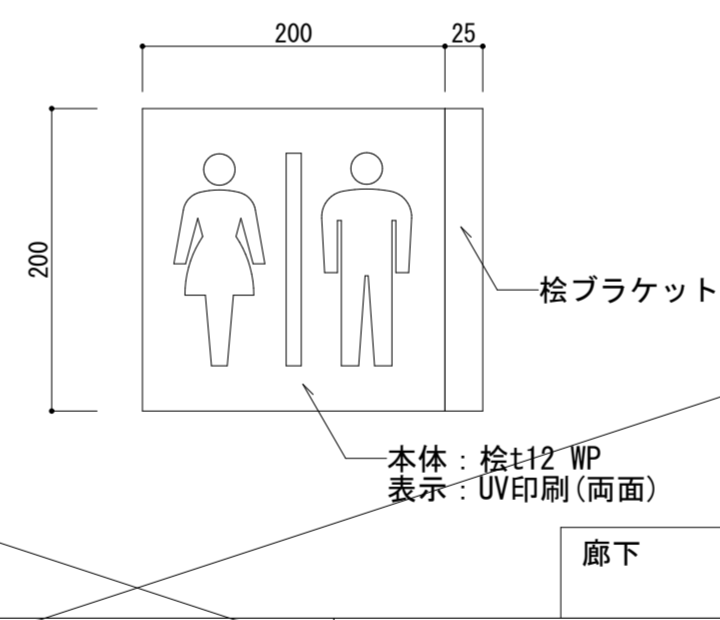


サイン計画 1:5

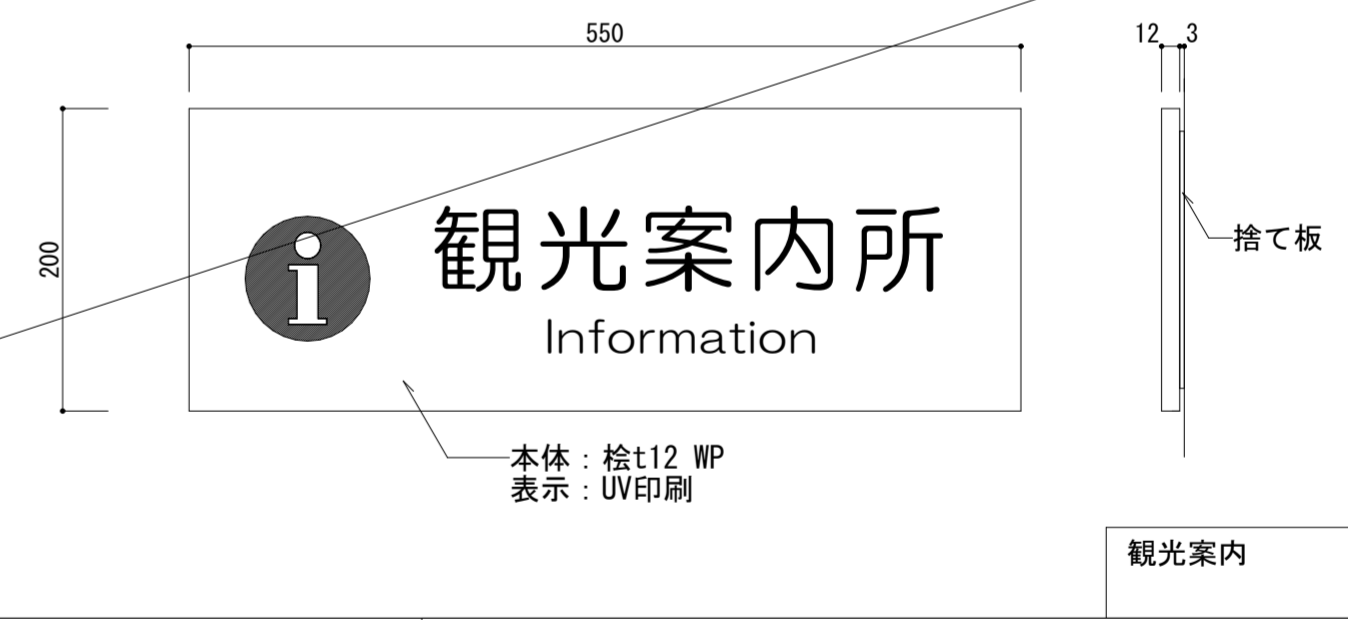
◇1 ◇2 ピクトサイン(平付)



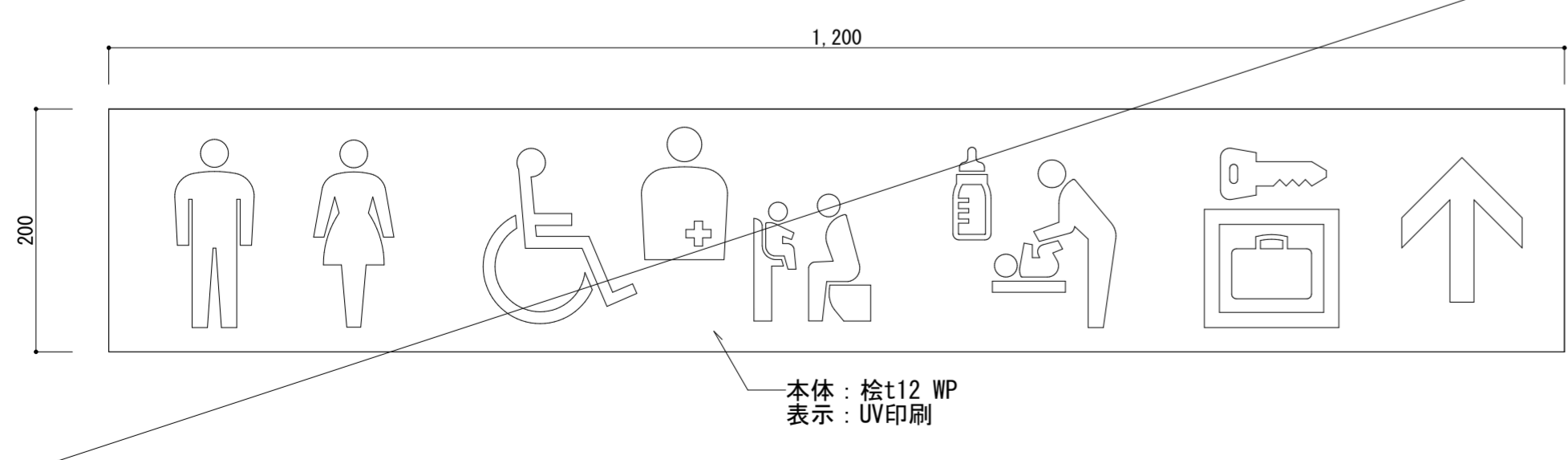
◇3 ピクトサイン(突出)



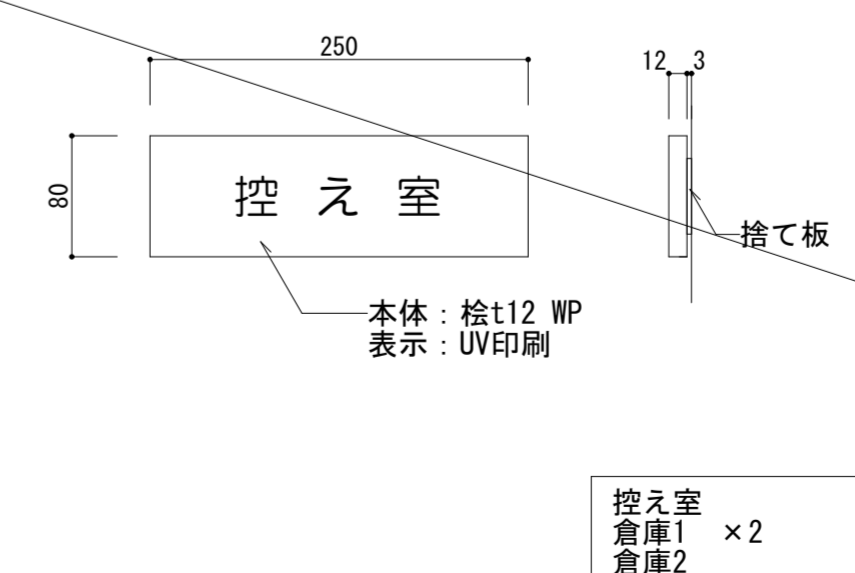
◇4 室名サイン(平付)



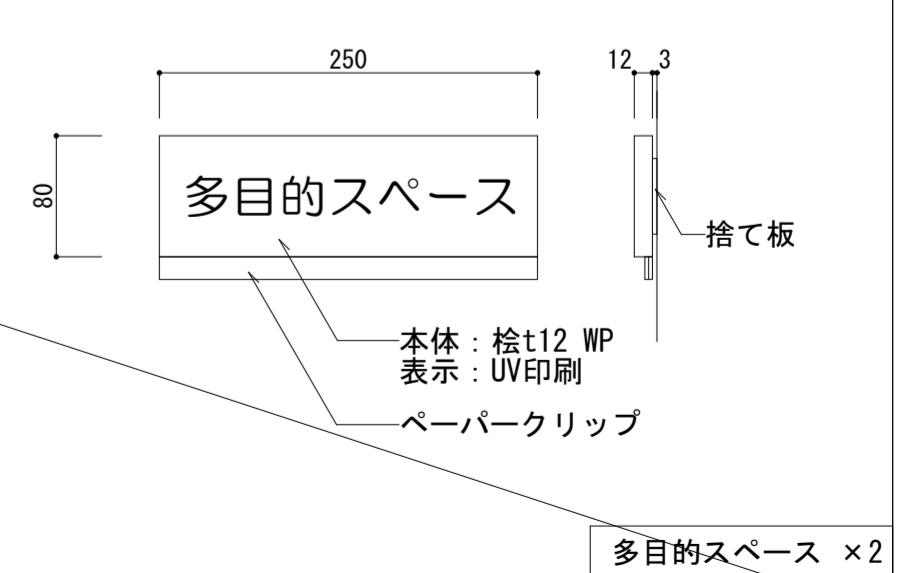
◇5 誘導サイン(平付)

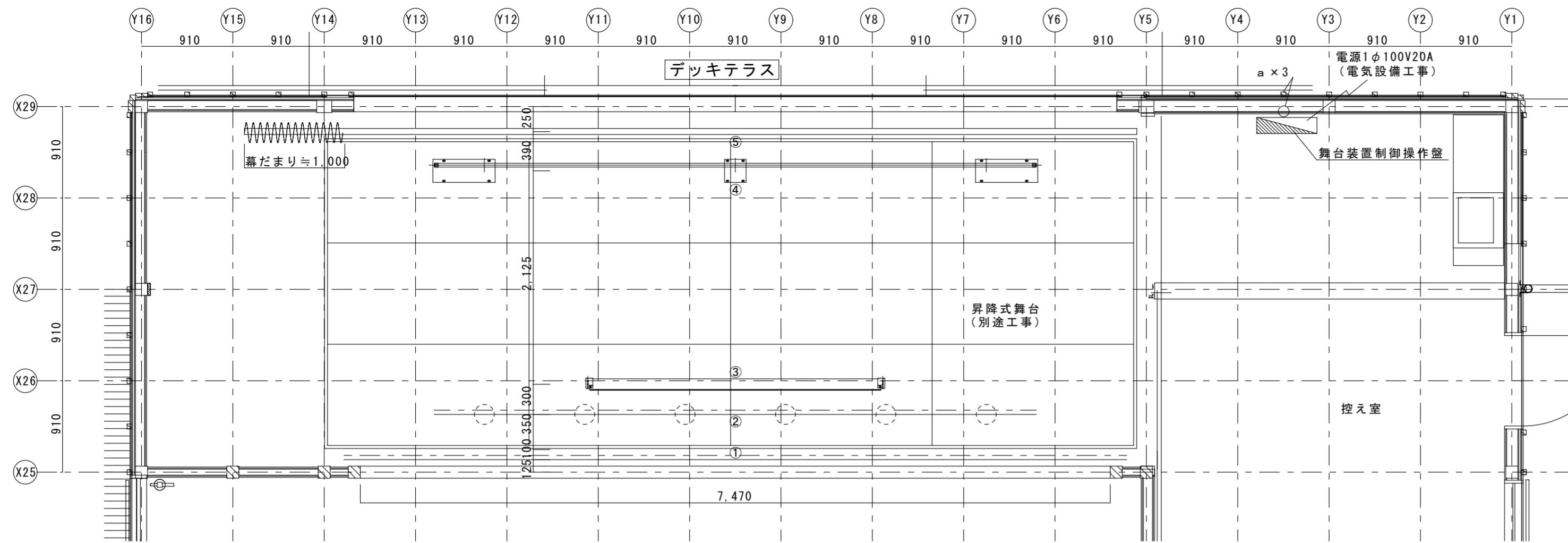


◇6 室名札(平付)

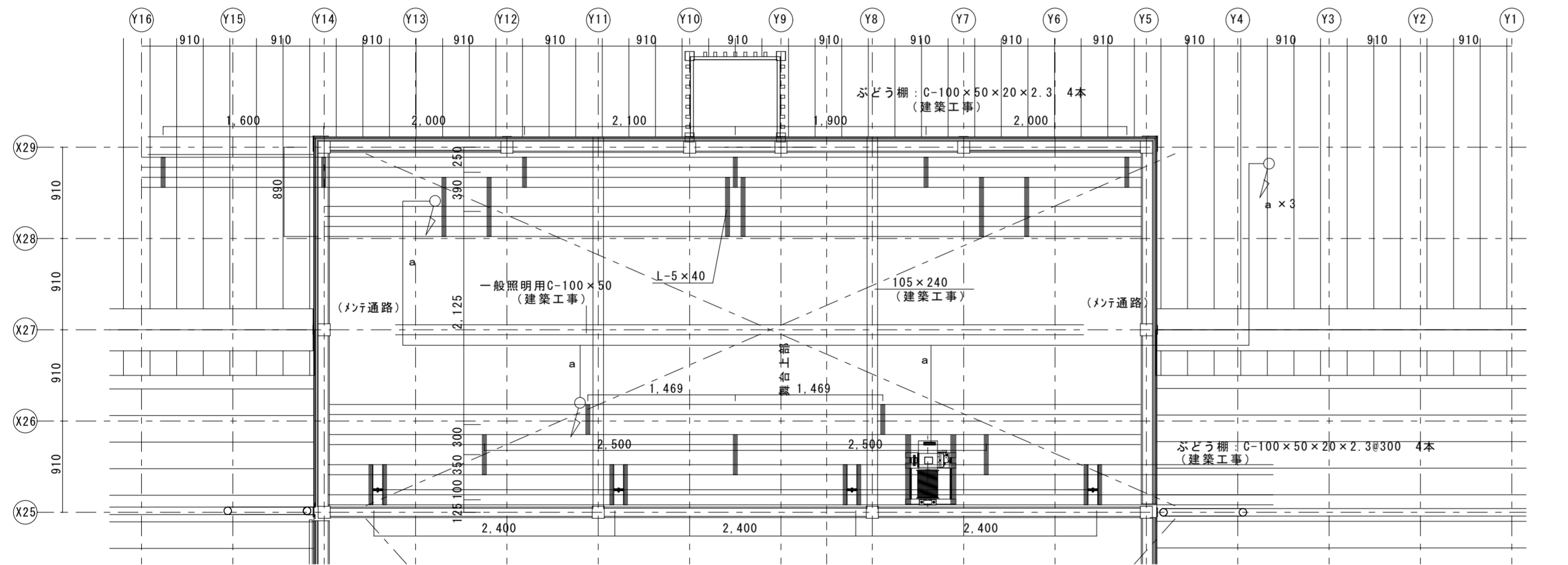


◇7 室名札(平付)

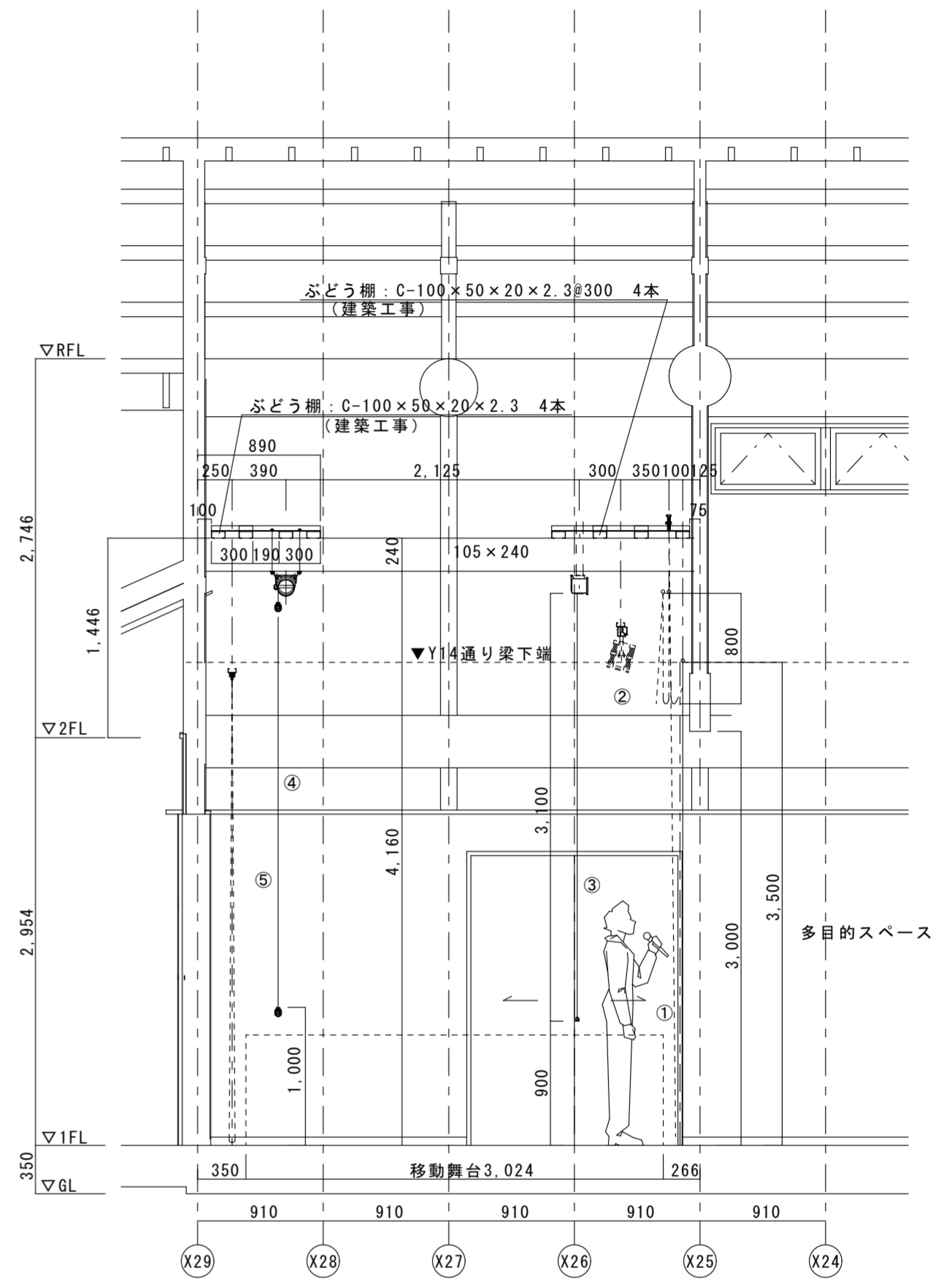




舞台吊物装置取付平面図 1/40



ぶどう棚装置取付平面図 1/40



舞台吊物装置取付断面図 1/40

電気配管配線表

a (CVV 2-5c (PF22)  
CVV1.25-4c (PF22))

※電気1次側の配管配線工事は電気設備工事

※ぶどう棚：C-100×50×20×2.3は建築工事  
(メンテ通路含む 取付ピッチ注意)  
※ぶどう棚への点検通路(タラップ等)は建築工事

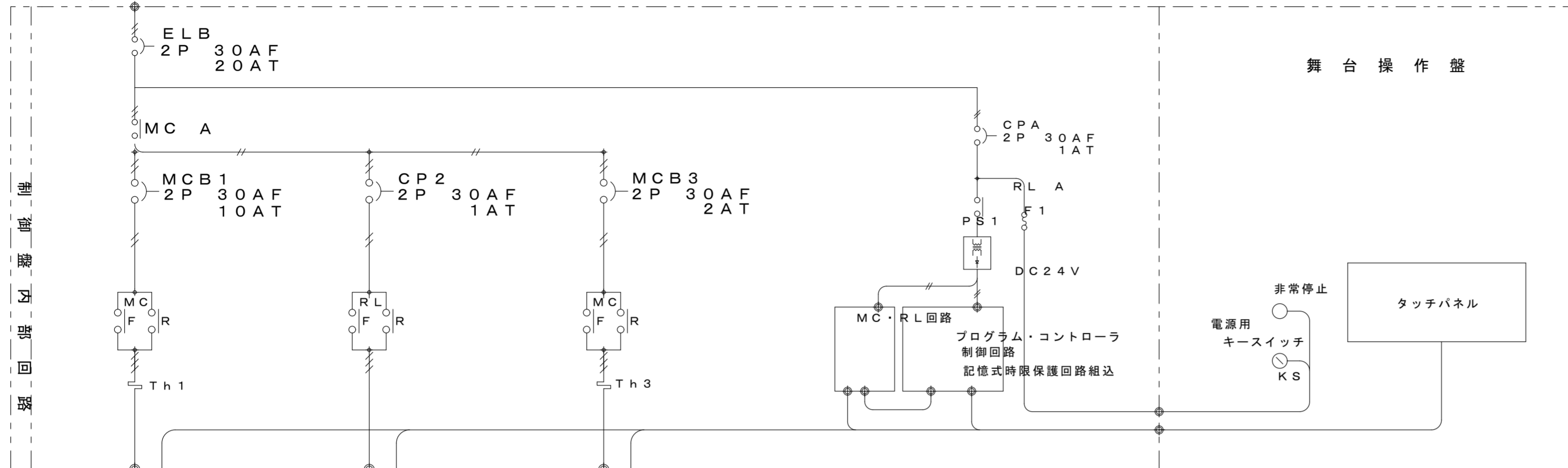
舞台幕仕様表

名称	寸法(W×H)	数量	操作方式	吊点	舞台吊物装置仕様	舞台幕仕様	棚上荷重	棚下荷重	
1 緞帳(五ツ折り)	7,800×3,500	1式	電動昇降	4	1φ100v400wブレーキ付モーターウォーム減速ワイヤー直巻式90φ枝滑車 2.5mmワイヤー たたみ上げ式C鋼材60×30 10mmボルト吊下げ式ライティングレール取付	ジャガード織り(幸光)ヒダなし裏付き150mmフレンジ(別途工事)	140	50	
2 照明用バトン	L-6,000	1吊	固定吊	3	1φ100v100wブレーキ付モーター10mmボルト吊下げ固定		3	45	
3 スクリーン	3,863×3,100(イメージ寸法)	1式	電動昇降	2	1φ100v200wブレーキ付モーター10mm寸切ボルト吊下げ固定 ワイヤー.3mm 38φパイプ	オールホワイト地 160インチ(16:9)対応	2	38	
4 美術バトン	L-6,000	1吊	電動昇降	3	1φ100v200wブレーキ付モーター10mm寸切ボルト吊下げ固定	吊荷重40kg	56	45	
5 バック幕	9,800×3,350	1組	手動開閉	6	ロープ引き式(下手に幕だまり)大型レール C型鋼材台付 10mmボルト吊下	天照産業(TS-36F) 1.5倍ヒダ(別途工事)	5	40	
備考	電気1次側の配管配線工事は電気設備工事。ぶどう棚は建築工事。							206	218
								424kg	



電気系統図

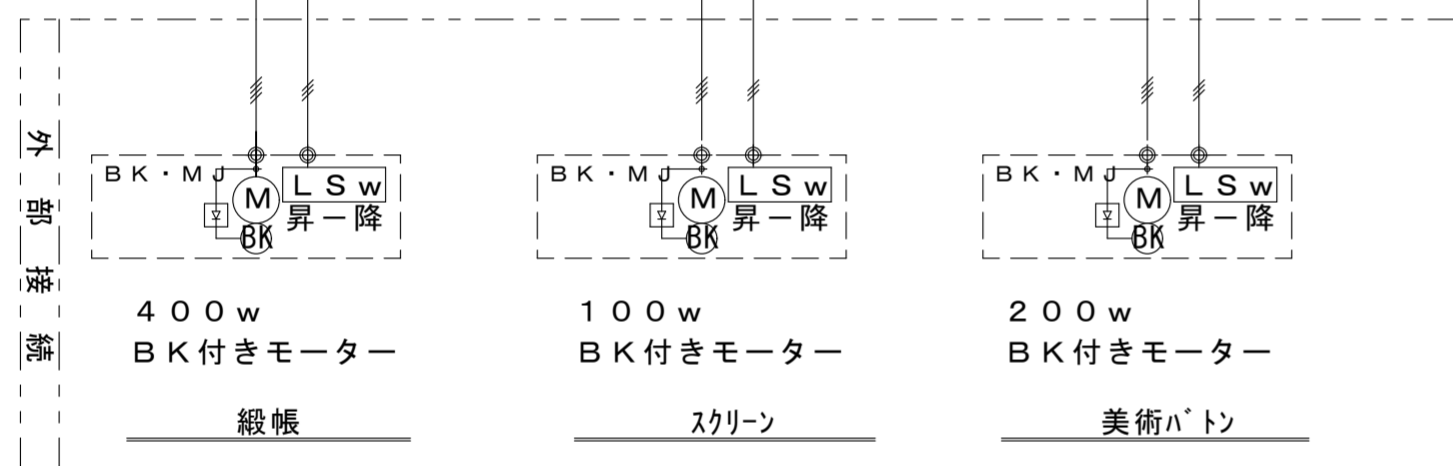
電源 (1次側別途工事)  
1φ2w 100V 50Hz



電気配線種別

- ① CVV 2<sup>φ</sup> - 5C×1
- ② CVV 1.25<sup>φ</sup> - 4C×1

\* 電気配管配線の1次側は電気設備工事



システム内容

- \* キースイッチ式電源入切。
- \* 液晶パネルによるタッチ式動作。
- \* 非常停止ボタンによる一斉停止。
- \* リミットスイッチによる上限、下限の自動停止。
- \* 記憶式カウンタータイマー回路による時限保護。(電源カット)
- \* 漏電ブレーカ及びモーターブレーカ使用による保護。
- \* インターロック式電磁開閉器による可逆運転。
- \* サーマルの過負荷感知保護。
- \* 同時可動不可とする。

舞台照明電源盤

取付姿図 S=1/8

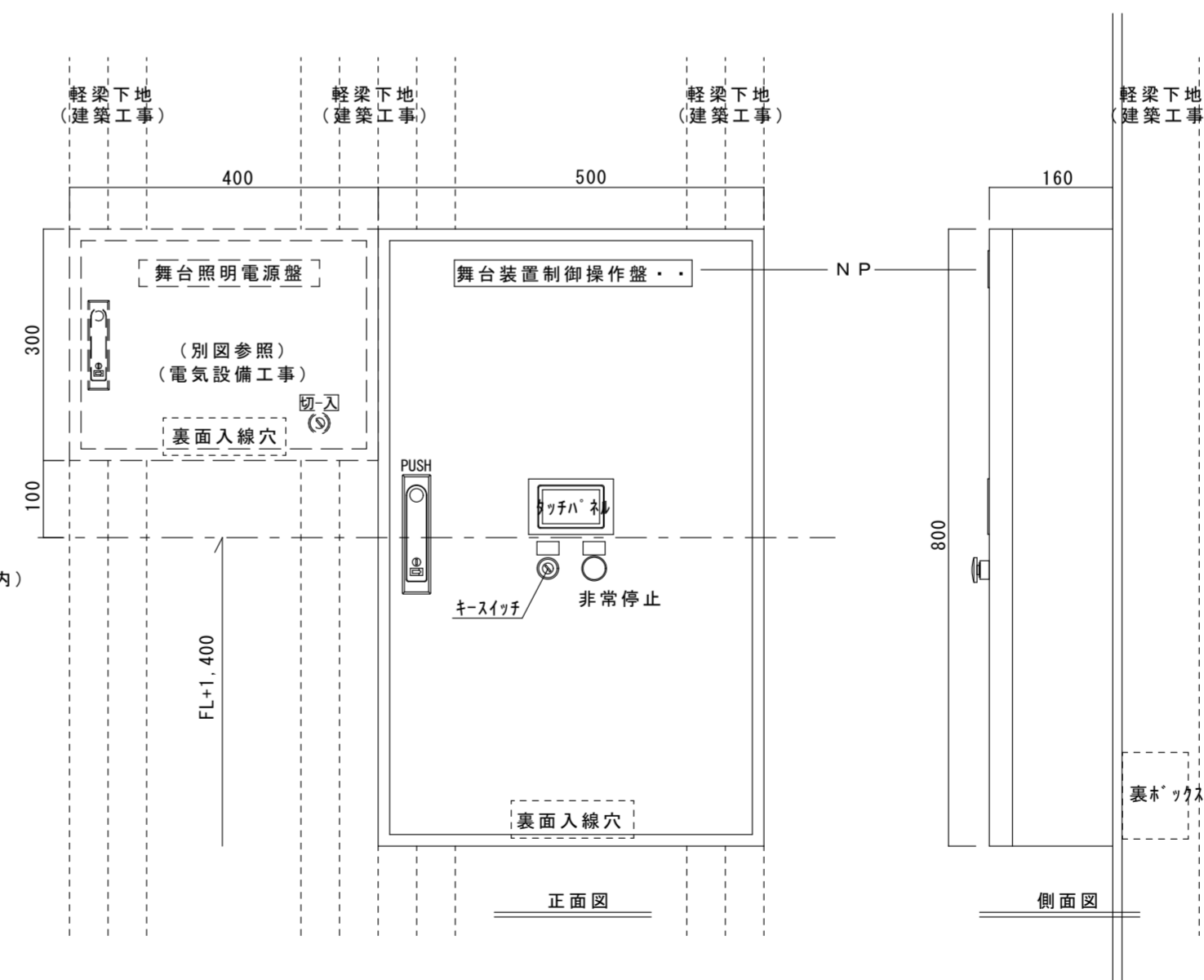
盤ボックス : 日東S16-43

W H D  
400×300×160

色 : 2.5Y9/1 又は指定色

N P : ネームプレート

※取付位置等は打合せによる(控え室内)



舞台装置制御操作盤

取付姿図 S=1/8

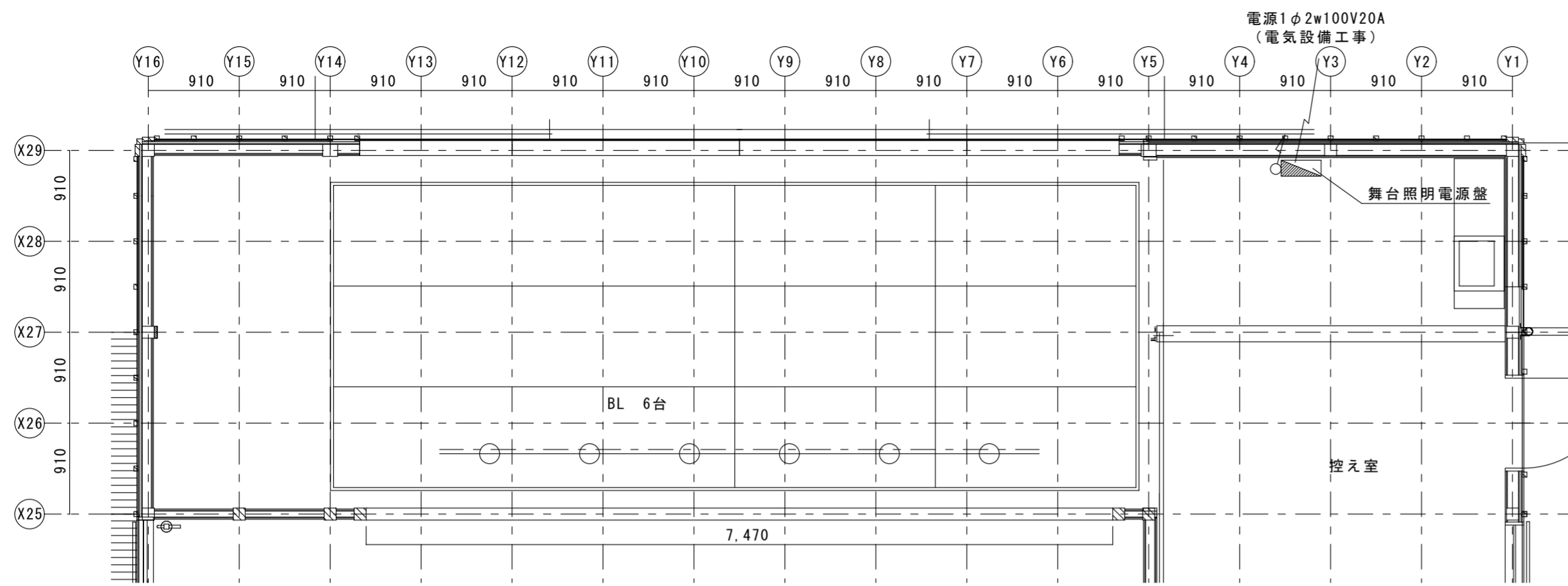
盤ボックス : 日東S16-58

W H D  
500×800×160

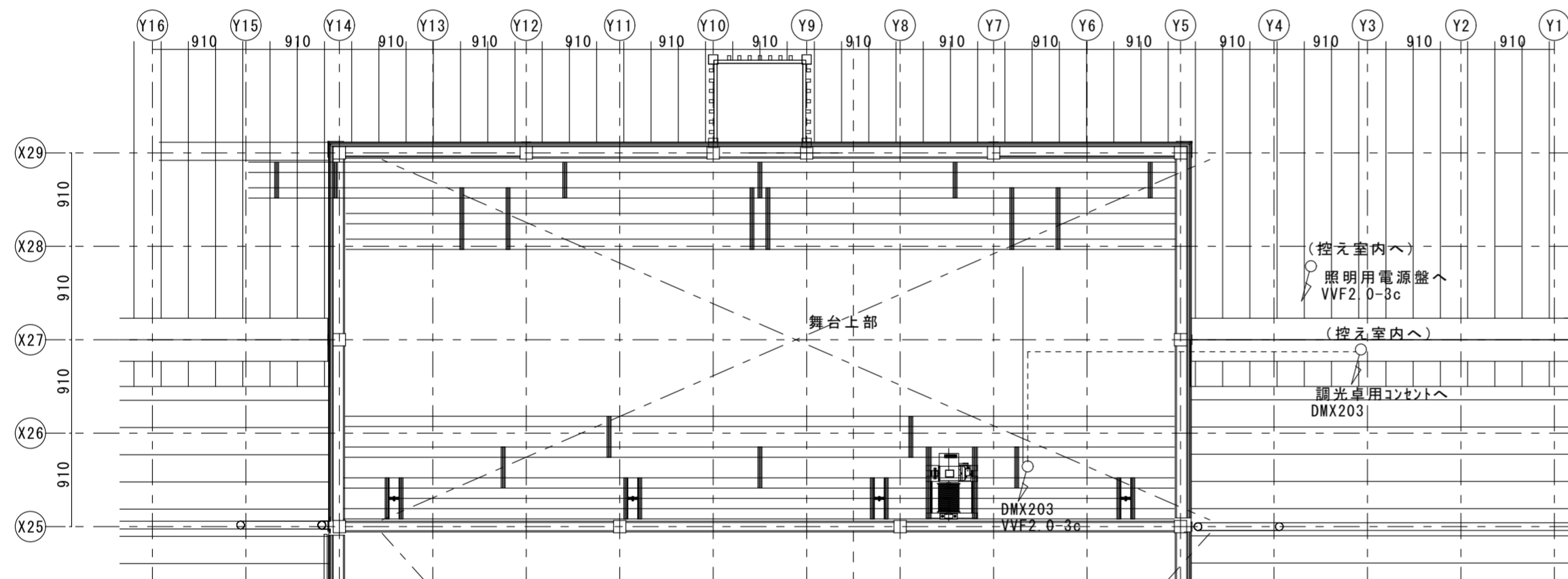
色 : 2.5Y9/1 又は指定色

N P : ネームプレート

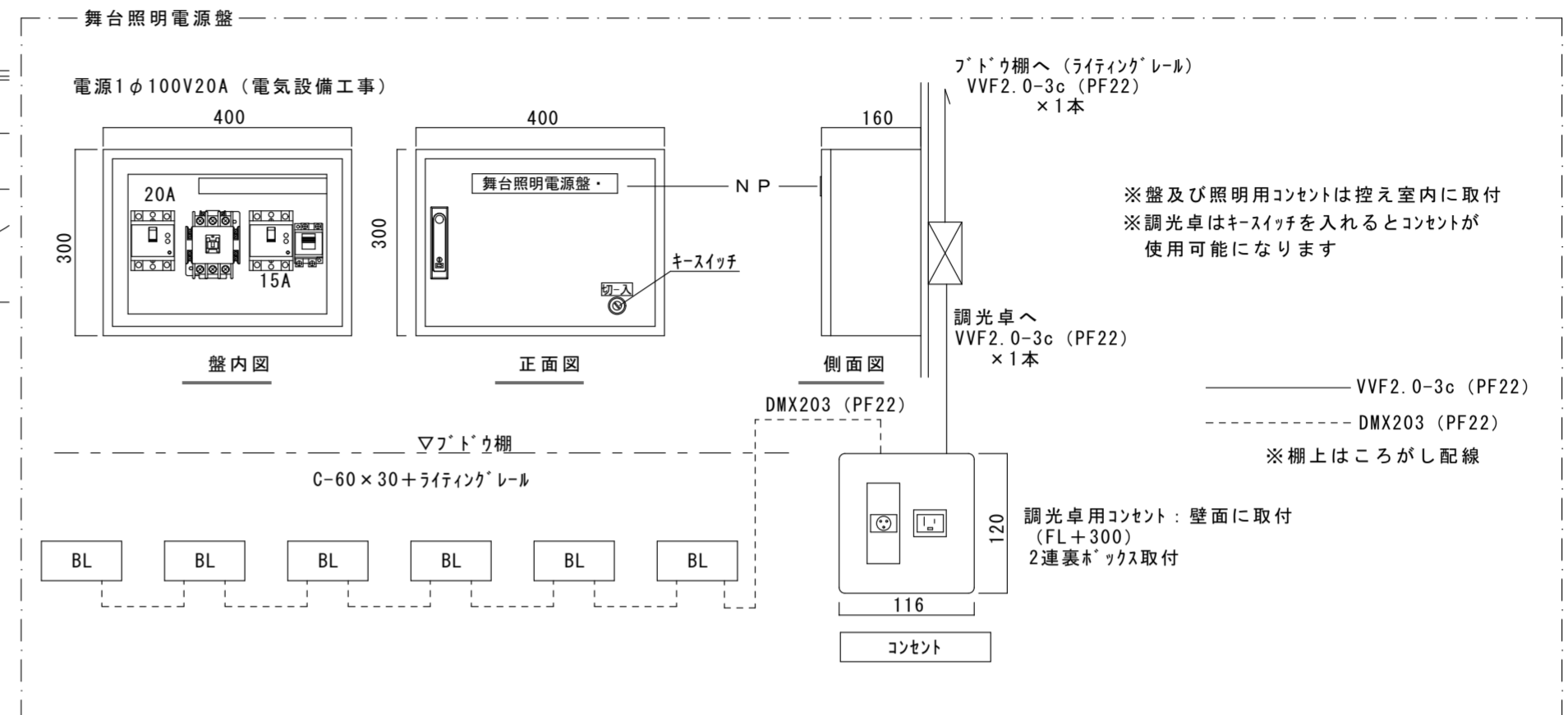
※取付位置等は打合せによる(控え室内)



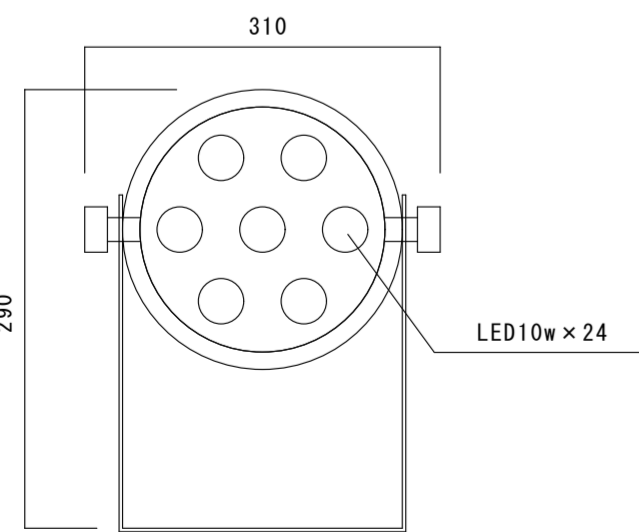
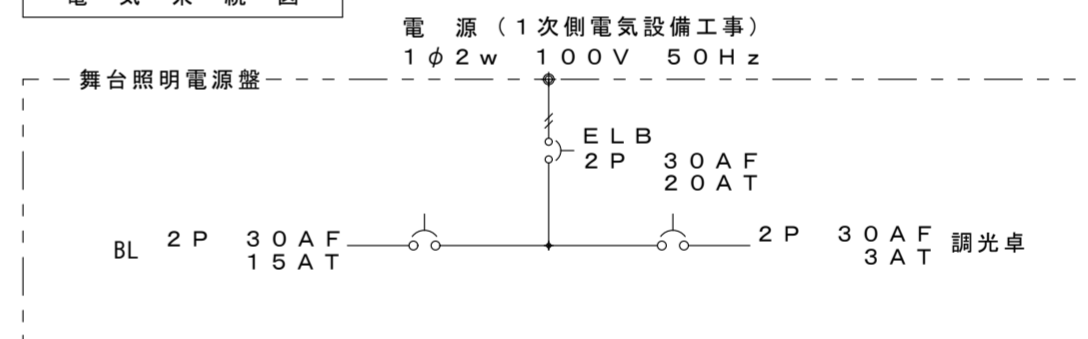
舞台吊物装置取付平面図 1/50



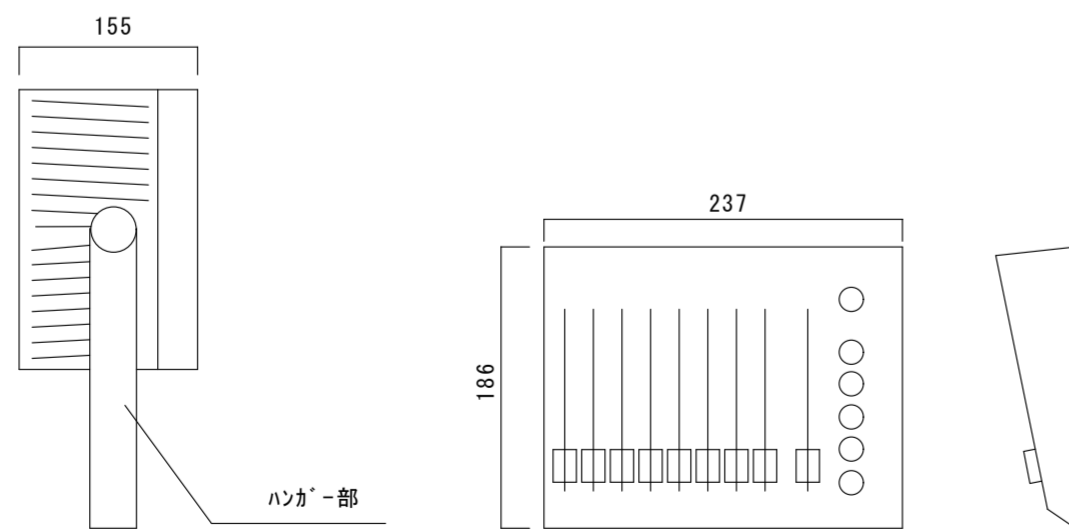
ぶどう棚装置取付平面図 1/50



電気系統図



ELF-PAR56QUAD 1/5



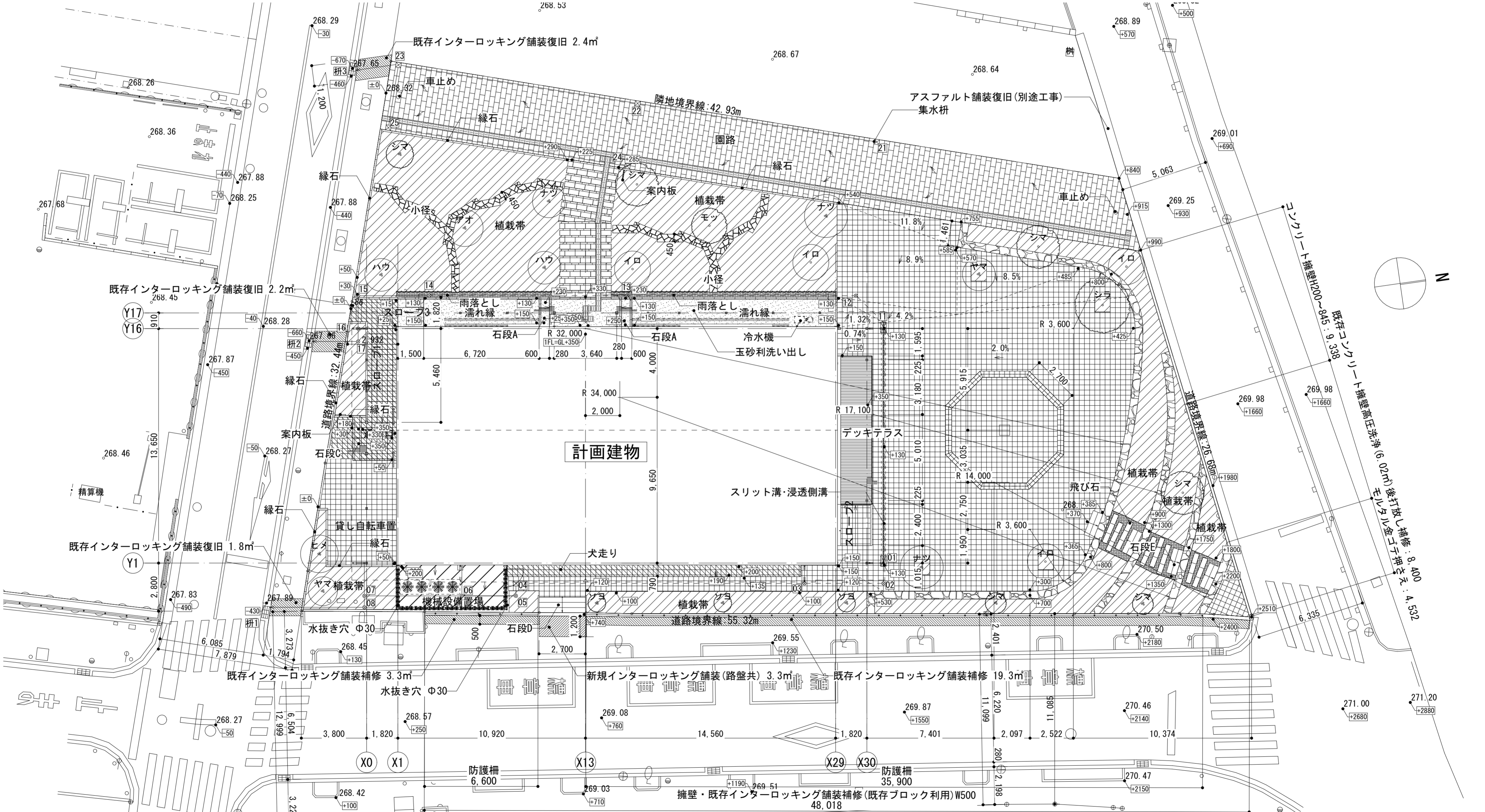
調光卓 1/5

照明器具仕様表

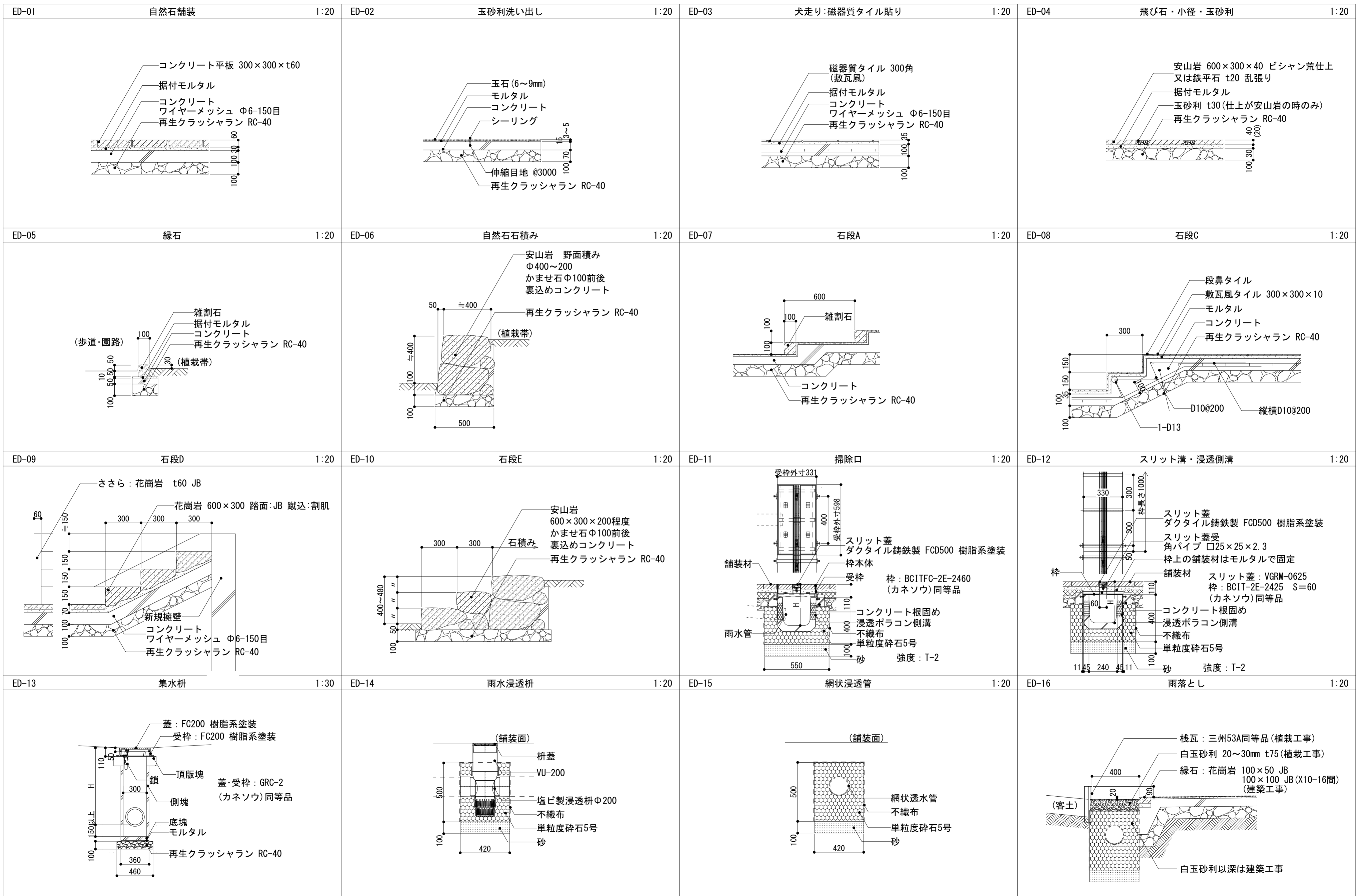
照明	型番	仕様	数量	回路数	容量 (KVA)	概算重量 (kg)	ケーブル、配管	備考
スポットライト BL	ELF-PAR56QUAD	電源100V ライティングレール取付 LED180w 黒色	6	1	1.08	5.25×6	・DMX203 ・VVF2.0-3c	吊下げ式
調光卓	OCX-804 (237W×186D×53H)	電源100V 5A 調光チャンネル8ch	1			1.5		使用時取付
舞台照明電源盤	日東 S16-43 (400W×300H×160D)	主幹1φ2W AC100V NFB2P 30AF/20A 2回路用 電磁開閉器付 (電源キ-用)	1	1				壁掛型

※電気1次側の配管配線工事は電気設備工事。

凡例												
	花崗岩 600×300×40 ビシャン荒仕上 芋目地張り : [ED-01]	161㎡		自然石石積み 安山岩 : [ED-06]	73.2m		小径 鉄平石 t20 乱張り : [ED-04] (植栽工事)	14.1㎡		雨落とし : [ED-16] (植栽工事)	22.4m	
	花崗岩 600×300×40 JB 芋目地張り	20.2㎡		自然石石積み 安山岩 : [ED-06]	358㎡		磁器質点字床タイル 300×300	188枚		硬質塩化ビニル管 VP	Φ100 Φ150	47.2m 23.6m
	花崗岩 600×100×40 JB ボーダー張り : [ED-01]	40.5㎡		玉砂利 : [ED-04] (植栽工事)	6.1㎡		集水柵 : [ED-13]	6箇所		網状透水管 高密度ポリエチレン製(2/3開口) MPΦ150 : [ED-15]	47.9m	
	磁器質タイル300角貼り : [ED-03]	平 役物 32.3㎡ 26.6m		緑石 花崗岩100×100×600 : [ED-05]	雑割 JB 57.5m 5.4m		掃除口 : [ED-11]	2箇所		既存インターロッキング舗装 (既存ブロック再利用) 補修(ブロックのみ) 復旧(路盤材共)	22.6㎡ 6.4㎡	
	機械基礎 : コンクリート金ゴテ押さえ	17.0㎡		飛び石 安山岩600×300×40 ビシャン荒仕上 : [ED-04] (植栽工事)	4.3㎡		スリット溝蓋 U字側溝 : [ED-12]	13.0m		新規インターロッキング(路盤材共)	3.3㎡	



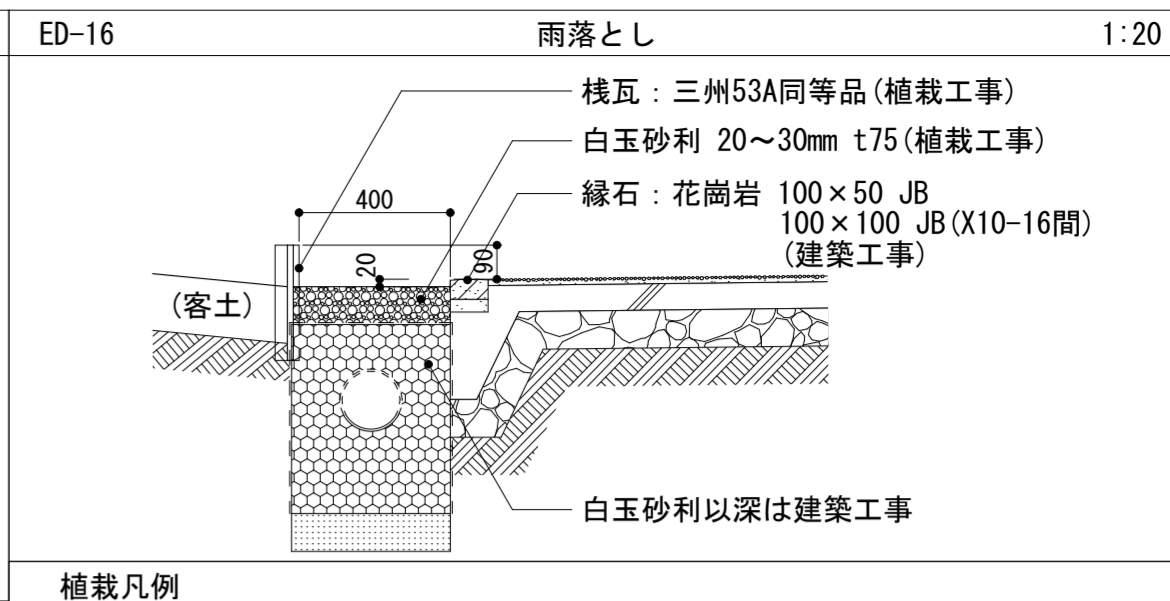
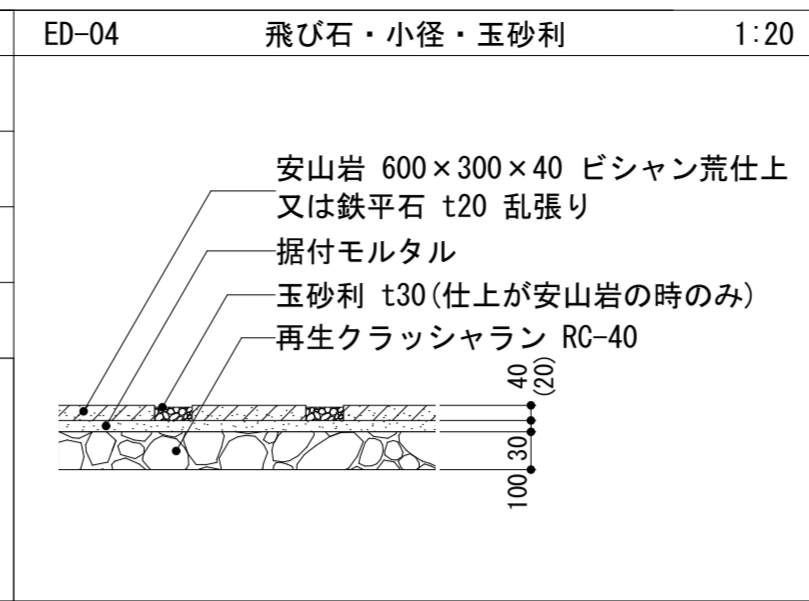
<b>株式会社 馬場設計</b> 山梨県知事登録(製)第1-30888号 一級建築士 大臣登録第267504号 管理建築士 代田 一郎	・+***は設計GLからの高さを示す。 ・植栽帯の地盤高さは表記の寸法から200mm下がりとする。	管理技術者 宮澤 昌文 一級建築士 第225432号 主任技術者 鬼頭 繁樹 一級建築士 第225730号	担当作図者 清水 岳 一級建築士 第364527号 株式会社馬場設計 (製)第1-30888号	設計年月 2023.3 縮尺 A2:150, 1:100 A4:上記の50%	甲府城周辺歴史文化交流施設建設(建築主体)工事 外構図	区分 建築意匠 No. 48
	擁壁・既存インターロッキング舗装補修(既存ブロック利用)W500 48,018		防護柵 35,900		既存インターロッキング舗装補修 19,300	



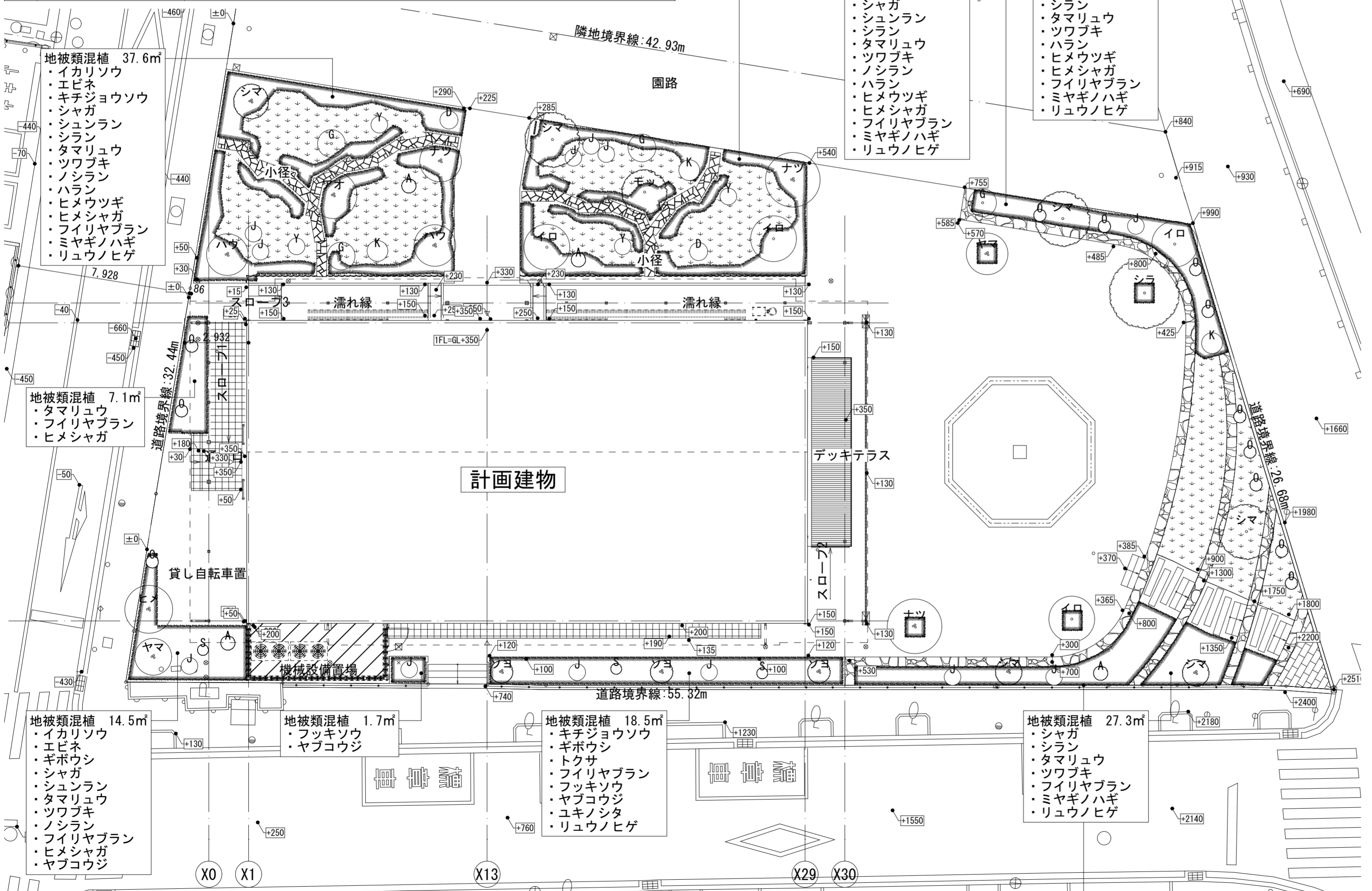


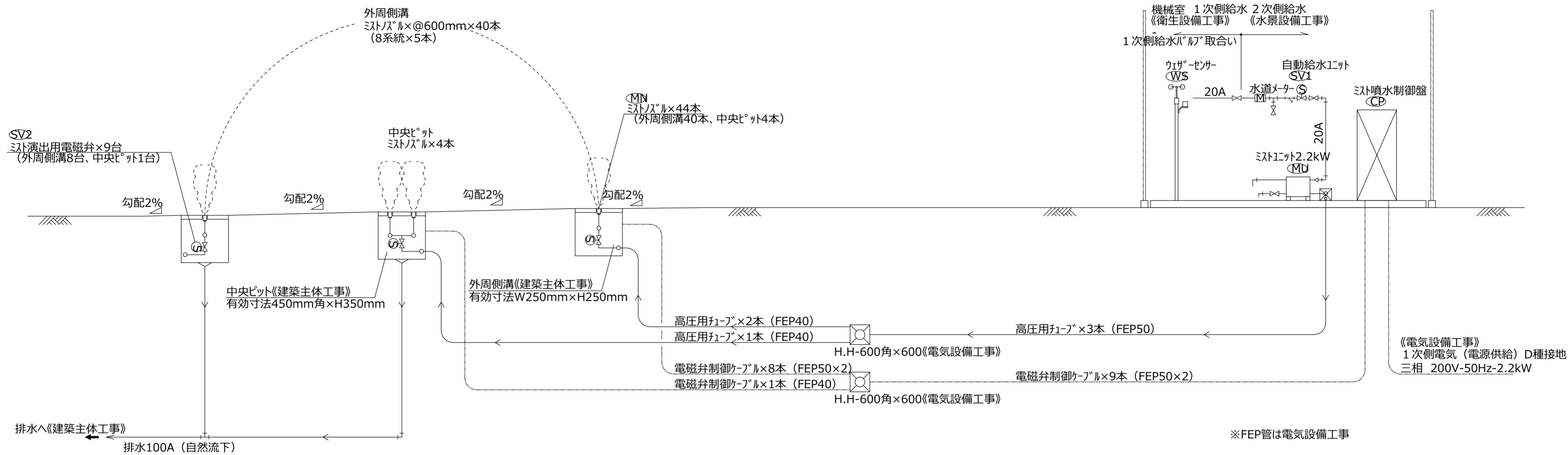
① 樹木の植栽基盤整備	芝及び地被類 (23.2.2~3) (表23.2.1~2)
適用	有効土層の厚さ(cm) 工法 整備範囲
※行う ・行わない	※20 ※B種 ○D種 ※植栽範囲 ・図示
樹木 (23.2.2~3) (表23.2.1~2)	整備範囲
樹木の樹高(m)	有効土層の厚さ(cm) 工法
・12以上	※100 ・ ※A種
・7超~12未満	※80 ・ ※B種
・3超~7以下	※60 ・ ※C種
・3以下	※50 ・ ※D種
工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高から有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。	○葉張りの範囲 ただし、低木は植栽範囲 ・図示
② 植込み用土	※現場発生土の良質土 ○客土(※畑土 ・黒土) (23.2.3)
④ 支柱材	※杉の焼丸太(間伐材)㊦ ・真竹 (23.3.2)
5. 幹巻き用材料	※幹巻き用テープ ・わら及びこも (23.3.2)
⑥ 芝張り	種類 ○こうらい芝 ・野芝 (23.4.2)

凡例	ED-04 飛び石・小径・玉砂利 1:20	ED-16 雨落とし 1:20
玉砂利: [ED-04]	6.1㎡	
飛び石 花崗岩600×300×40 ピシャン荒仕上: [ED-04]	4.3㎡	
小径 鉄平石 t20 乱張り: [ED-04]	14.1㎡	
雨落とし: [ED-16]	22.4㎡	
客土量		
地被類部分	55.7m3	※樹木の鉢穴、上部200mm
樹木 3m超~7m以下	5.1m3	分の客土は地被類部分
樹木 3m以下	0.6m3	に含む
計	61.4m3	



植栽凡例							
記号	樹種	H	C	W	数量	単位	備考
アオ	アオダモ	3.5	0.15	-	1	本	ハツ掛
イロ	イロハモミジ	3.0	0.15	1.2	4	本	ハツ掛
シマ	シマトネリコ	3.0	0.12	0.8	2	本	ハツ掛
		4.0	0.25	1.8	4	本	ハツ掛
シラ	シラカシ	5.0	0.3	1.5	1	本	二脚鳥居(添木なし)
ソヨ	ソヨゴ(株立)	2.0	-	0.6	3	本	添え柱
ナツ	ナツツバキ(株立)	3.5	0.21	-	3	本	二脚鳥居(添木なし)
ハウ	ハウチワカエデ(株立)	4.0	-	2.0	2	本	ハツ掛
ヒメ	ヒメシャラ	4.0	0.21	1.0	1	本	ハツ掛
モツ	モッコク	2.5	-	0.8	1	本	添え柱
ヤマ	ヤマボウシ(株立)	3.5	0.21	1.8	2	本	ハツ掛
J	アジサイ	0.5	3本立	-	12	鉢	寄植え
A	アセビ	0.8	-	0.5	4	本	
O	オオムラサキツツジ	0.5	-	0.5	12	本	
G	ガマズミ	1.0	-	-	4	本	
K	コデマリ	1.0	3本立	-	3	本	
S	センリョウ	0.4	-	-	9	本	寄植え
D	ドウダンツツジ	1.0	-	0.5	2	本	
Y	ヤマブキ	0.8	3本立	-	4	本	
	地被類	H	状態	コンテナ径			36鉢/㎡
	イカリソウ			10.5	75	鉢	
	エビネ			10.5	75	鉢	
	キチジョウソウ	3芽立		10.5	72	鉢	
	ギボウシ			10.5	24	鉢	
	シャガ	3芽立		10.5	126	鉢	
	シュンラン			10.5	110	鉢	
	シラン	球			120	鉢	
	タマリユウ	5芽立	7.5		3238	鉢	
	ツワブキ	0.5	3枚葉	10.5	96	鉢	
	トクサ	5本立		10.5	16	鉢	
	ノシラン	3芽立		12.0	66	鉢	
	ハラシ	3枚葉		12.0	54	鉢	
	ヒメシャガ	3芽立		10.5	58	鉢	
	ヒメウツギ	0.3		12.0	108	鉢	
	フィリヤブラン	3芽立		10.5	228	鉢	
	フッキソウ	3芽立		9.0	484	鉢	
	ホトトギス			10.5	40	鉢	
	ミヤギノハギ	3芽立		10.5	48	鉢	
	ユキノシタ	株		9.0	180	鉢	
	ヤブコウジ	3芽立		9.0	48	鉢	
	リュウノヒゲ	5芽立		9.0	350	鉢	
	高麗芝べた張り				123	㎡	





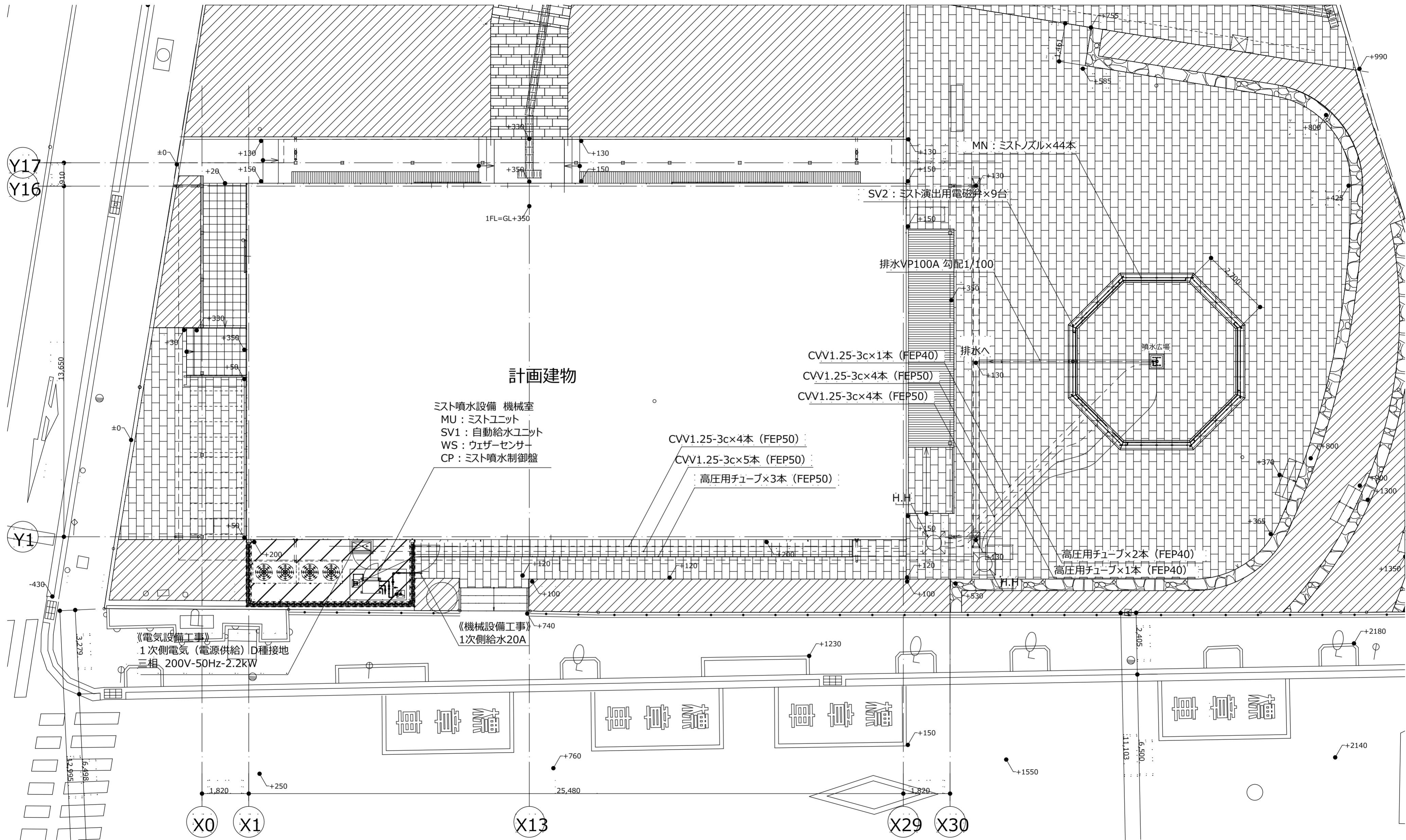
機器表 (水景設備)

記号	名称	仕様	数量	備考
MU	ミストユニット	送水量11.6L/min 2.2kW-200V-50Hz	1台	
MN	ミストノズル	DS-MN-LNN 6Mpa-190cc/min	44本	
SV1	自動給水ユニット	20A電磁弁付き	1組	
SV2	ミスト演出用電磁弁	15A 高圧用	9台	
WS	ウェザーセンサー	感雨 風速	1基	
CP	ミスト噴水制御盤	屋外自立型	1面	
三相 200V-50Hz-2.2kW				

主な工事区分

区分	水景設備	衛生設備	電気設備	建築	備考
ミスト配管	○				
配管掘削埋め戻し			○		
躯体、仕上げ、スリーブ				○	
側溝、側溝蓋				○	
1次側電気 (電源供給) D種接地			○		制御盤内端子取合い
2次側電気	○				制御盤以降各機器まで
1次側給水		○			1次側給水バルブまで
2次側給水	○				1次側給水バルブ取合い
機器基礎				○	
排水	○			○	桝取合い
ハンドホール			○		

※システムについては、(株)ドゥサイエンス同等以上とする。



計画建物

ミスト噴水設備 機械室  
 MU: ミストユニット  
 SV1: 自動給水ユニット  
 WS: ウェザーセンサー  
 CP: ミスト噴水制御盤

CVV1.25-3c x 4本 (FEP50)  
 CVV1.25-3c x 5本 (FEP50)  
 高圧用チューブ x 3本 (FEP50)

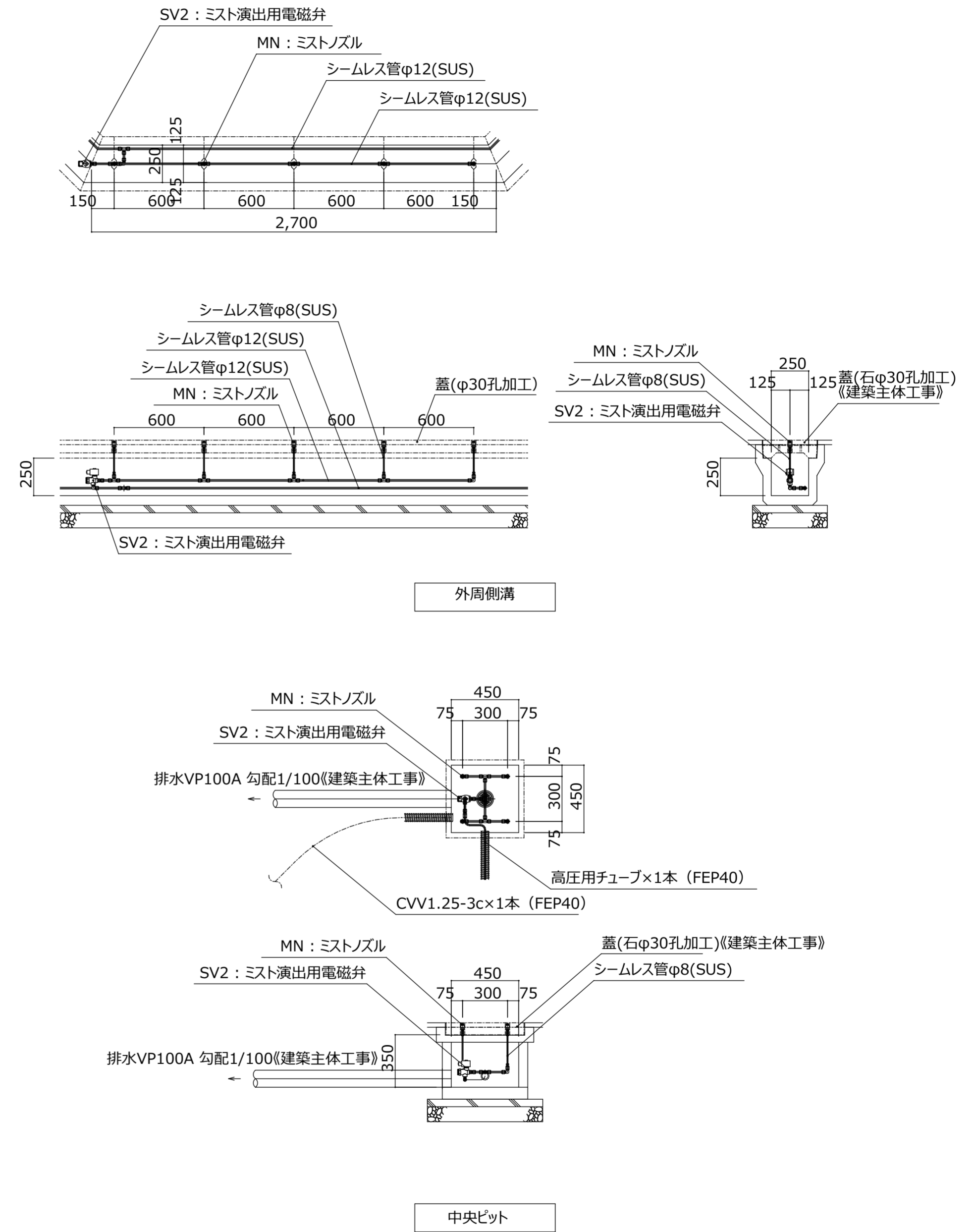
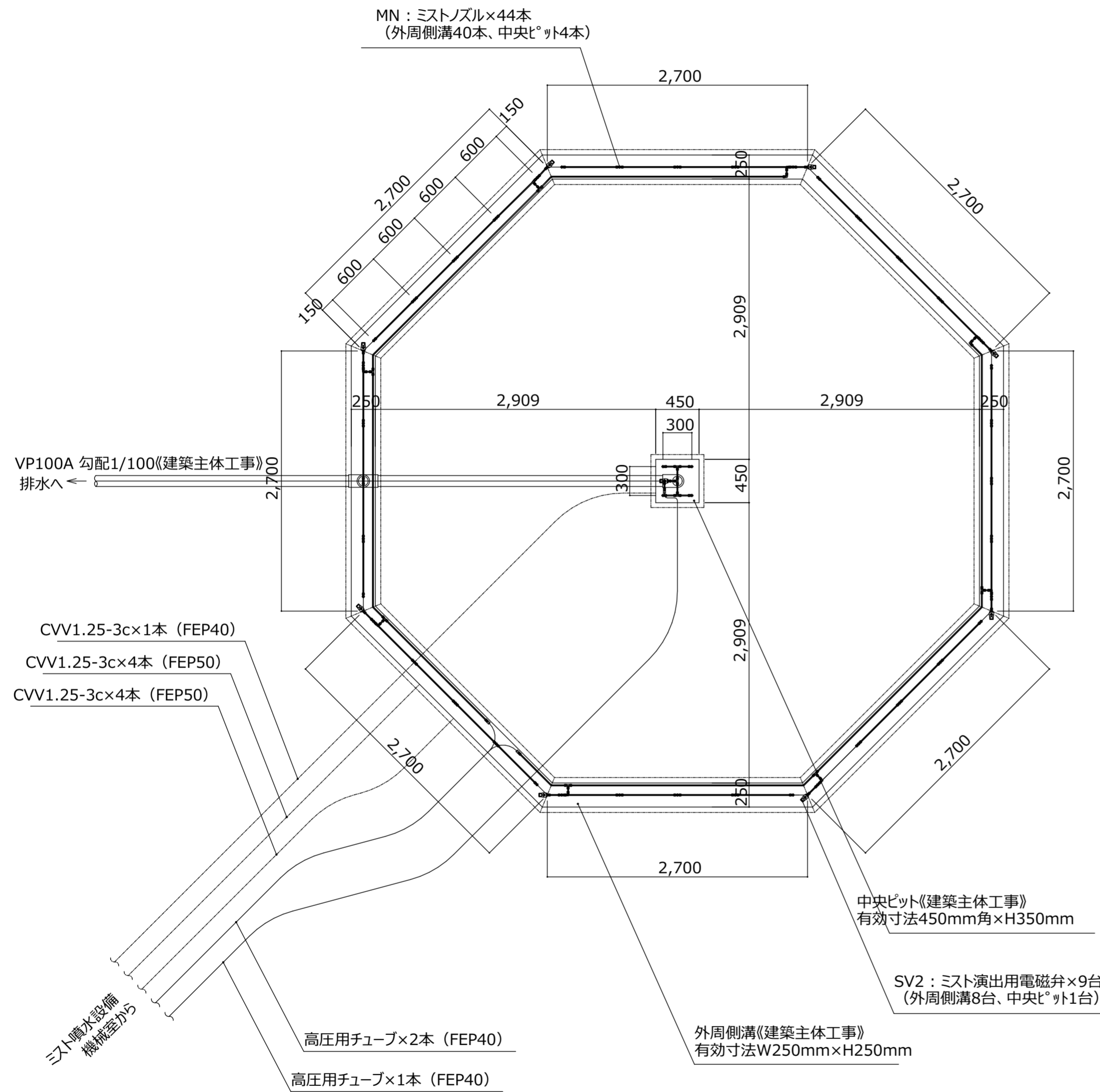
CVV1.25-3c x 1本 (FEP40)  
 CVV1.25-3c x 4本 (FEP50)  
 CVV1.25-3c x 4本 (FEP50)

高圧用チューブ x 2本 (FEP40)  
 高圧用チューブ x 1本 (FEP40)

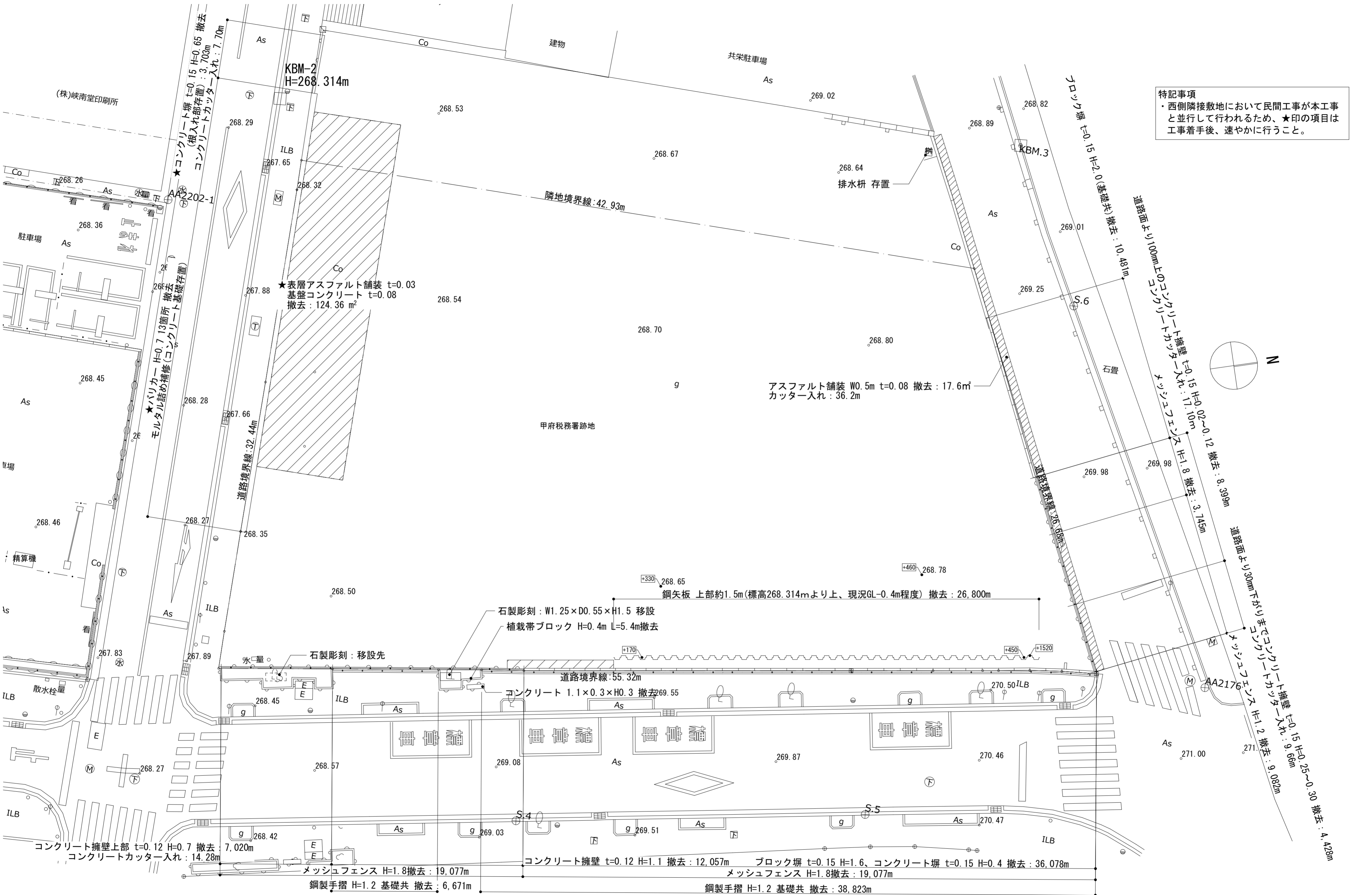
《電気設備工事》  
 1次側電気 (電源供給) D種接地  
 三相 200V-50Hz-2.2kW

《機械設備工事》  
 1次側給水20A





特記事項  
 ・西側隣接敷地において民間工事が本工事と並行して行われるため、★印の項目は工事着手後、速やかに行うこと。





■採光面積・換気面積・開口面積算定表(表中の有効開口面積は次頁の有効開口面積 建具表参照)

階	室名	居室	平均天井高さ(mm)	床面積A(m <sup>2</sup> )	法第28条1項の採光計算											法第28条2項の換気計算											令128条3-2の窓その他開口部を有しない居室等の開口計算											室名			
					令111条1項の窓その他開口部を有しない居室等の開口計算											必要換気面積(A/20)											令128条3-2の窓その他開口部を有しない居室等の開口計算														
					必要採光面積(A/5or20)	建具記号	面積	×	数	小計	有効開口面積合計	×	採光補正係数	計	判定	必要換気面積(A/20)	建具記号	面積	×	数	小計	有効開口面積合計	判定	必要開口面積(A/50)	建具記号	面積	×	数	小計	有効開口面積合計	判定										
1	事務室 物販 観光案内 休憩スペース 情報発信 企画展示 体験スペース	居室	4,763	113.45	20	5.673	AW1	3.315	×	2	=	6.630	18.650	×	3	55.950	OK	5.673	AW1	1.376	×	2	=	2.752	8.742	OK	2.269	AW1	0.000	×	2	=	0.000	2.271	OK	事務室 物販 観光案内 休憩スペース 情報発信 企画展示 体験スペース					
							AW2	1.320	×	1	=	1.320																													
							AW3	7.284	×	1	=	7.284																													
						AW6	1.148	×	2	=	2.296																														
						AW7	0.560	×	2	=	1.120																														
1	多目的スペース 舞台	居室	5,945	127.53	20	6.377	AW1	3.315	×	2	=	6.630	28.515	×	3	85.545	OK	6.377	AW1	1.376	×	2	=	2.752	26.879	OK	2.551	AW1	0.000	×	2	=	0.000	8.377	OK	多目的スペース 舞台					
							AW6	1.148	×	3	=	3.444																													
							AW8	0.000	×	8	=	0.000																													
						WW1	18.441	×	1	=	18.441																														
1	控え室	居室	2,400	19.88	20	0.994	AW4	2.080	×	1	=	2.080	2.080	×	3	6.240	OK	0.994	AW4	0.949	×	1	=	0.949	2.839	OK	0.398	AW4	0.365	×	1	=	0.365	0.815	OK	控え室					
							AD2	1.890	×	1	=	1.890																													
2	倉庫2	居室	2,400	33.06	20	1.653	AW7 AD3	0.560	×	1	=	0.560	0.560	×	3	1.680	OK	1.653	AW7 AD3	0.560 0.468	×	1	=	0.560 0.468	1.028	NG	0.661	AW7 AD3	0.560 0.465	×	1	=	0.560 0.465	1.025	OK	倉庫2					
							AW6'	1.148	×	1	=	1.148	1.148	×	3	3.444	OK	0.548	AW6'	0.549	×	1	=	0.549	0.549	OK		AW6'	0.408	×	1	=	0.408	0.408	OK						
2	倉庫3	居室	2,400	10.95	20	0.548	AW6'	1.148	×	1	=	1.148	1.148	×	3	3.444	OK	0.548	AW6'	0.549	×	1	=	0.549	0.549	OK		AW6'	0.408	×	1	=	0.408	0.408	OK	倉庫3					

※採光補正係数について (d/H)×10-1

・最もHの大きくなる1階の窓中心高さにおいて H=1.564

・dは上記の開口部において、いずれもd>0.767となる →よって 補正係数=3

※倉庫機械換気計算

・必要換気量V=20Af/N=20×33.06/3=220.4m<sup>3</sup>/h

・換気扇換気量(EF-2)=300m<sup>3</sup>/h →よってOK

■有効開口面積 建具表

建具記号	採光計算(m, m <sup>2</sup> )										建具記号	換気計算(m, m <sup>2</sup> )										建具記号	開放できる部分(天井から下方80cm以内の距離にある部分)(m, m <sup>2</sup> )										建具記号					
	H	W	数量	H	W	数量	H	W	数量	計		H	W	数量	H	W	数量	H	W	数量	計		H	W	数量	H	W	数量	計									
AW1	(1.300 × 2.550 × 1 + × × + × × ) =	3.315	AW1	(1.300 × 1.059 × 1 + × × + × × +) =	1.376	AW1	(0.000 × 1.059 × 1 + × × + × × ) =	0.000	AW1																													
AW2	(1.100 × 1.200 × 1 + × × + × × ) =	1.320	AW2	(1.100 × 0.530 × 1 + × × + × × +) =	0.583	AW2	(0.100 × 0.530 × 1 + × × + × × ) =	0.053	AW2																													
AW3	(2.100 × 3.469 × 1 + × × + × × ) =	7.284	AW3	(2.100 × 1.519 × 1 + × × + × × +) =	3.189	AW3	(0.000 × 1.519 × 1 + × × + × × ) =	0.000	AW3																													
AW4	(1.300 × 1.600 × 1 + × × + × × ) =	2.080	AW4	(1.300 × 0.730 × 1 + × × + × × +) =	0.949	AW4	(0.500 × 0.730 × 1 + × × + × × ) =	0.365	AW4																													
AW5	(0.450 × 1.100 × 1 + × × + × × ) =	0.495	AW5	(0.450 × 1.100 × 1 + × × + × × +) =	0.495	AW5	(0.450 × 1.100 × 1 + × × + × × ) =	0.495	AW5																													
AW6	(0.700 × 1.640 × 1 + × × + × × ) =	1.148	AW6	(0.700 × 0.785 × 1 + × × + × × +) =	0.549	AW6	(0.700 × 0.785 × 1 + × × + × × ) =	0.549	AW6																													
AW6'	(0.700 × 1.640 × 1 + × × + × × ) =	1.148	AW6'	(0.700 × 0.785 × 1 + × × + × × +) =	0.549	AW6'	(0.520 × 0.785 × 1 + × × + × × ) =	0.408	AW6'																													
AW7	(0.350 × 0.800 × 2 + × × + × × ) =	0.560	AW7	(0.350 × 0.800 × 2 + × × + × × +) =	0.560	AW7	(0.350 × 0.800 × 2 + × × + × × ) =	0.560	AW7																													
AW8	( × × + × × + × × ) =	0.000	AW8	(0.350 × 0.800 × 2 + × × + × × +) =	0.560	AW8	(0.350 × 0.800 × 2 + × × + × × ) =	0.560	AW8																													
WW1	(2.400 × 7.684 × 1 + × × + × × ) =	18.441	WW1	(2.400 × 7.500 × 1 + × × + × × +) =	18.000	WW1	(0.300 × 7.500 × 1 + × × + × × ) =	2.250	WW1																													
AD2	(2.100 × 0.900 × 1 + × × + × × ) =	1.890	AD2	(2.100 × 0.900 × 1 + × × + × × +) =	1.890	AD2	(0.500 × 0.900 × 1 + × × + × × ) =	0.450	AD2																													
AD3	( × × + × × + × × ) =	0.000	AD3	(0.780 × 0.600 × 1 + × × + × × +) =	0.468	AD3	(0.775 × 0.600 × 1 + × × + × × ) =	0.465	AD3																													

■有窓・無窓階判定のための有窓開口面積 建具表

建具記号	H			W			数量			有効面積(m <sup>2</sup> )	対象の窓形式	ガラス	フィルム	床からの高さ(m)
	H	W	数量	H	W	数量	H	W	数量					
AW3	(2.100 × 1.519 × 1 + × × + × × ) =	3.189	引違い	Low-E3+A6+P3	なし	0.000								
WW1	(2.400 × 7.500 × 1 + × × + × × ) =	18.000	引違い	Low-E4+A12+T4	なし	0.000								

※算定に用いた開口部はすべて直径1m以上の円が内接することができる開口部(または、W=0.75m、H=1.2m以上の開口部)とする。

■階別有効開口部算定表

階	建具記号	有効面積(m <sup>2</sup> )			階	建具記号	有効面積(m <sup>2</sup> )			
		有効面積(m <sup>2</sup> )	数量	計(m <sup>2</sup> )			有効面積(m <sup>2</sup> )	数量	計(m <sup>2</sup> )	
1	AW3	3.189	×	1	=	3.19	2			
	WW1	18.000	×	1	=	18.00				
1階合計				21.19	2階合計				0.00	

■有窓・無窓階判定

階	階床面積B(m <sup>2</sup> )	有効開口部算定	有効開口部(m <sup>2</sup> )	必要開口部B/30(m <sup>2</sup> )	判定
2	52.18	階別有効開口部算定表による	0.00	1.74	NG

→1階のみ有窓階

# 構造設計標準仕様

## 1. 建築物の概要

(1) 工事名称	(仮称) 甲府城周辺歴史文化交流施設建設(建築主体) 工事
建築場所	山梨県甲府市丸の内一丁目地内
(2) 工事種別	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 増改築 <input type="checkbox"/> 改築
(3) 構造種別	木造 (W)
(4) 階数	2階建
(5) 主要用途	集会場
(6) 屋上附属物	なし
(7) 特別な荷重	なし
(8) 付帯工事	なし
(9) 増築計画	なし
(10) 構造計算ルート	X方向 壁量計算 Y方向 壁量計算

令第39条の規定 (屋根ふき材等)

■ 屋根ふき材、内装材、外装材、帳壁その他これらに類する建築物の部分及び広告塔、裝飾等その他建築物の屋外に取り付けるものは、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃によって脱落しないものとする。

■ 屋根ふき材、外装材及び屋外に面する帳壁の構造は、構造耐力上安全なものとする。

令第129条の2の3の事項

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

■ 建築設備 (昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。

■ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの (以下「屋上水槽等」という。 ) は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

□ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支柱を設けたものを除き、90cm以下とすること。

□ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

■ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備 (給湯設備を除く。 ) は、

■ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

■ 建築物の部分を通ずる配管等においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

■ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

■ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等地震その他の震動及び衝撃の緩和のための有効な措置を講ずること。

□ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等については、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

□ 給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

※ 「給湯設備」 建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等の給湯設備に該当するものを除いたもの

□ 昇降機については、

□ 昇降機の荷重を建築物本体へ考慮した設計を行う。

□ 昇降機の受け材が直接取り付く梁、小梁、床等の安全性等の設計を行う。

## 2. 仕様材料

(1) コンクリート	※品質基準強度に温度補正値を加えた呼び強度が3N/mm <sup>2</sup> の場合40N/mm <sup>2</sup> (JIS規格品) とする						
種	適用箇所	種類	設計基準強度 F <sub>c</sub> -N/mm <sup>2</sup>	品質基準強度 F <sub>c</sub> -N/mm <sup>2</sup>	スラブ cm	比重	備考
共通	捨コンクリート	普通	18	18	15	2.3	
	土間コンクリート	普通	18	18	15	2.3	
	基礎、基礎梁 柱、梁、床、壁	普通	21	21	15	2.3	
	外構						
	押えコンクリート						
混和剤	JIS規格品						

※設計基準強度が36を超えるコンクリートについては、着工前に生コン工場の材料認定書を確認検査機関に提出すること

(2) コンクリートブロック (CB)

□A種 □B種 □C種 厚さ □100、 □120、 □150、 □190

(3) 鉄筋	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	SD295A	D16 以下	基礎・スラブ等	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手 <input type="checkbox"/> ガス圧接継手 <input type="checkbox"/> 特殊継手
	SD345	D19~D25		
高強度せん断補強筋				

(4) 鉄骨	種類	径	使用箇所	現場溶接	備考
鋼材	SSC400	C-100*50*20*2.3	ブドウ棚	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

(5) ボルト

□ 高力ボルト □ 普通: F10T □ 特殊: S10T □ 垂鉛付: F8T 認定品 ( □M16、 □M20 )  
□ 中ボルト 高力ボルトすべり係数試験 □ 要 □ 否  
高力ボルト導入強力確認試験 □ 要 □ 否

■ アンカーボルト M12、M16 SS400  
□ 頭付スタッドボルト φ H= mm 使用箇所 ( 柱 大梁 小梁 )  
φ H= mm 使用箇所 ( 柱 大梁 小梁 )

## 3. 地盤

(1) 地盤調査資料

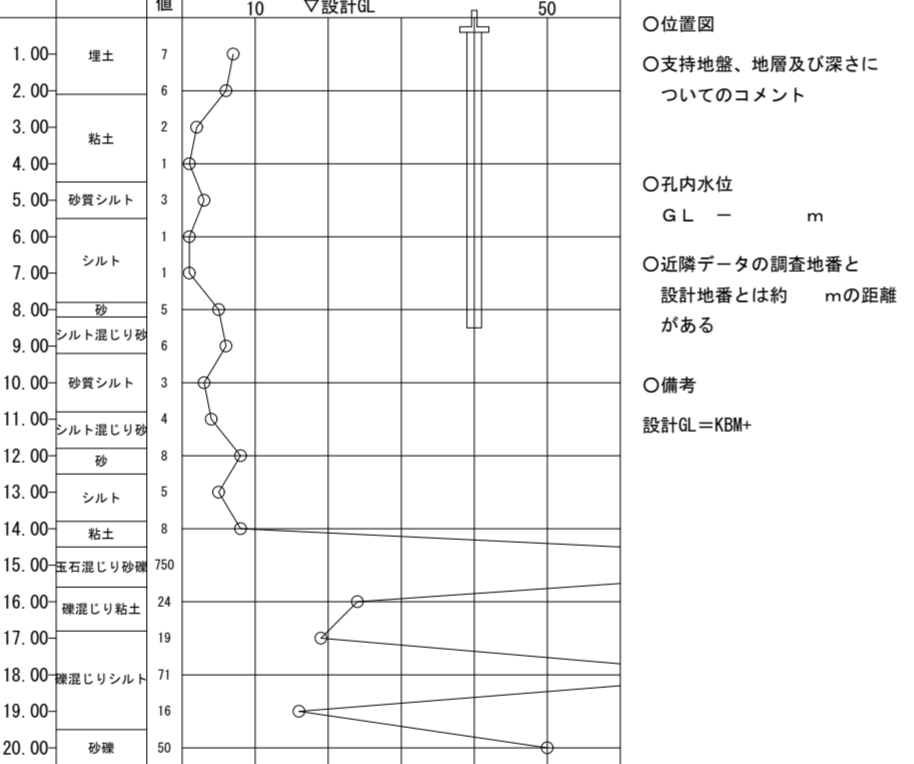
■ 有 ( ■ 敷地内 □ 近隣 ) ■ ボーリング調査 □ 平板載荷試験 □ 水平地盤反力係数の測定  
□ スクリューウエイト貫入試験 □ 現場透水試験 □ 土質試験 ■ 液状化判定  
追加地盤調査 □ 有 □ 無

(2) 地盤調査計画

■ ボーリング調査 □ スクリューウエイト貫入試験 □ 水平地盤反力係数の測定 □ 液状化の検討  
□ 土質試験 □ 物理検査 □ 平板載荷試験 □ 試験掘 ( 支持層の確認 )

(3) 地盤調査及び試験の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。  
(基礎・杭の位置を明記すること)

(4) ボーリング調査、土質構成



○ 調査地番

○ 位置図

○ 支持地盤、地層及び深さについてのコメント

○ 孔内水位  
GL - m

○ 近隣データの調査地番と設計地番とは約 mの距離がある

○ 備考  
設計GL=KBM+

## 4. 地業工事

(1) 地盤調査資料

□ ベタ基礎 ■ 布基礎 □ 独立基礎 □ 試験掘 □ 有 □ 無  
深さGL-8.50m 支持層-シルト混じり砂 長期許容支持力度 40KN/m<sup>2</sup> 載荷試験口有 ■ 無

(2) 表層改良工法

工法	材料	施工方法	備考
柱状改良	セメント固化材		

杭仕様 □ 施工計画書承認 □ 施工結果報告書

試験杭 ( □ 有 □ 無 ) ( □ 打ち込み ・ 載荷 ) 本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭先端深さ (m)	本数	特記事項
Φ600		8.5m		( ) 内の数値は階地低減された支持力を示す

## 5. 鉄筋コンクリート工事

(1) 鉄筋コンクリート工事

■ コンクリートは、JIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS (2009)による。

□ 耐久設計基準強度 F<sub>d</sub>=□一般・■標準、□長期、□超長期とする。

■ セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。

■ 水セメント比は5%以下とする。また、単位水量は185kg/m<sup>3</sup>以下、空気量は4.5%、単位セメント量は270kg/m<sup>3</sup>以上とする。

■ 地中壁の水セメント比は5%以下とする。また、単位水量は200kg/m<sup>3</sup>以下、空気量は4.5%、単位セメント量は360kg/m<sup>3</sup>以上とする。

□ 設計基準強度が36Nを超える場合の水セメント比は5%以下とする。また単位水量は175kg/m<sup>3</sup>以下、空気量は4.5%、単位セメント量はできるだけ小さい値とする。塩化物イオン0.3kg/m<sup>3</sup>以下。

■ 調合計画は工事開始前に工事監督者の承認を得ること。

■ 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監督者の承認を得ること。

■ フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。

測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一資料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

■ 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5 T-603) は、現場中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が150m<sup>3</sup>を超える場合は150m<sup>3</sup>ごとまたは、その塊ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4通用に3本を用いる。※高強度コンクリートの場合は150m<sup>3</sup>を100m<sup>3</sup>と換算する。また、圧縮強度の1回の検査は一台につき3個づつ採取した9個の供試体で行う。

■ ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技師または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は15分、25℃以上の場合は120分以上とする。

■ コンクリートの打ち込み及び締固め方法についてはJASS5 (2009) 7第7.5、7.6による。

■ コンクリートの打継ぎ処理はJASS5 (2009) 7第7.3による。

■ コンクリートの養生についてはJASS5 (2009) 8節による。

□ 36Nを超える高強度コンクリートについてはJASS5 (2009) 19節による。ただし、調合強度決定の材料は56日、強度管理材料は63日とする。

(2) 鉄筋

■ 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASS5 (2009)による。

□ 高強度せん断補強筋はJIS G3137に規定される種1号選用品とする。

■ 鉄筋の加工寸法、加工形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定常長さは「配筋要領図」による。

■ D19未満は、すべて重ね継手とする。継手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。

□ ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200箇所を超えるときは、200箇所ごと) に1回行い、1回の試験は5本以上とする。

外観検査 □ 有 □ 無、引張試験 □ 有 □ 無、超音波探傷試験 □ 有 □ 無

□ SD490においては必ず施工前試験を圧接に従事する全ての圧接技量資格者に対して行うこと。

また、SD490の圧接部は超音波探傷試験を全数において行うこと。

■ 柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、■ H型 (夕型) □ W型 (溶接型) □ S型 (スパイラル型) とする。

■ コンクリート及び鉄筋の試験は第4条の試験機関で行うこと。

試験機関名 工事監督者の指定による  
代行業者名  
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(3) 型枠

■ 材料 合板厚12mmを標準とする。 ■ 施工はJASS5による。

■ 型枠存置期間

種別 部位	せき板				支柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下		はり下		はり下	
セメント 種類 ※ 乾燥状態での平均値	早強ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント 普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	
	コンクリート面	15℃以上 5~15℃ 5℃未満	2 3 5	3 5 8	4 6 10	6 8 16	8 12 15	17 25 28 28
	コンクリートの圧縮強度	5N/mm <sup>2</sup> 高強度は3N/mm <sup>2</sup>		設計基準強度の50%		設計基準強度の100%		

注) 1 片持ばり、底、スパン9.0m以上のはり下は、工事監督者の指示による。  
注) 2 大ばりの支柱の覆りかえは行わない。また、その他の支柱の場合も原則として行わない。  
注) 3 支柱の覆りかえは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。  
注) 4 覆りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材、または、これに代わるものを置く。  
注) 5 支柱の覆りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って覆りかえしてはならない。  
注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監督者の指示による。

## 6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

□ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」  
□ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」  
□ (社) 鉄骨建設業界「突合せ継手の食い違いのずれの検査・補強マニュアル」

(2) 工事監督者の承認を必要とするもの

□ 製作工場 ■ 製作要領書 ■ 工作図 ■ 施工計画書  
■ 材料規格証明書又は試験成績書  
■ 鋼材 □ 高力ボルト □ 特殊ボルト □ 取付スタッド  
■ 社内検査表

(2) 工事監督者の承認を必要とするもの

■ (印以外の項目の検査については、工事監督者に報告すること)

□ 現寸検査 □ 組立・開先検査 □ 製品検査  
□ 建方検査

(4) 接合部の溶接は下記によること

□ 東京都アーク溶接工事管理規程 (建築構造設計指針第12章)  
□ 鉄骨造等の建築物の工事に關する東京都取扱要綱 (建築構造設計指針第12章)  
□ 日本建築学会「溶接工事規程、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX」  
□ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

(5) 接合部の検査

□ 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監督者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監督者	
□ 突合せ溶接部	超音波探傷試験	%	%	%	国土交通省告示第1464号に關する溶接部の検査
	外観 (目視) 検査	%	%	%	
	マクロ試験 ー その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監督者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

注1) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。  
注2) 現場溶接は超音波探傷試験を100%行うこと。

□ 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを産金外縁2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないまでよい。

□ 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

(6) 防錆塗装

■ 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで覆われる以外の部分とする。

錆止めペイントは、JIS K5621、2回塗りを標準とする。

□ 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

□

## 7. 設備関係

■ 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。

■ 設備機器の架台及び基礎については工事監督者の承認を得ること。

■ 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

■ 給湯設備は風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。

## 8. その他

■ 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。

■ 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監督者に報告すること。

■ 必要に応じて記録写真を撮り保管すること。



株式会社 馬場設計  
山梨県知事登録(製)第1-30888号  
一級建築士 大臣登録第267504号 管理建築士 代田 一郎

管理技術者 宮澤 昌文  
一級建築士 第225432号  
主任技術者 鬼頭 繁樹  
一級建築士 第225730号

担当作図者 渡邊 須美樹  
一級建築士 第238035号  
株式会社木構堂  
一級建築士事務所登録 岐阜県12343号

設計年月 2023.3  
52-022

縮尺 A2:  
A4: 上記の50%

甲府城周辺歴史文化交流施設建設(建築主体) 工事  
構造設計標準仕様

区分 建築構造  
No. 01

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

## 1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用し、特記事項は「国土交通省大臣官房官庁 官庁部局整備公共建築工事共通仕様書」平成( )年度版に準ずる。  
住宅瑕疵担保履行法による設計施工基準に準拠する必要がある場合はこれを優先する。

(2) 記号  
d...異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 d...異形棒鋼の最大径 D...部材の成 R...直径  
@...間隔 r...半径 e...中心線 l<sub>0</sub>部材の内寸法距離 h<sub>0</sub>部材間の内寸法高さ  
ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S, HOOP...補強帯筋 φ...直径又は丸鋼

## 2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折まげ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブ筋同時に打ち込む形のみ用いる。 キャップタイ キャップタイ
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内寸法R	SR235: R≥3d SD295A-SD295B-SD345: (D16以下)R≥3d, (D19以上)R≥4d SD390: R≥5d			

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235, SD295A SD295B, SD345	16φ以下 D16 19φ以上 D19	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235, SD295A SD295B, SD345 ( )内はSD390	16φ以下 D16 19φ~25φ D19~D25 28φ~32φ D29~D38	4d以上(5d以上) 6d以上(6d以上) 8d以上(8d以上)

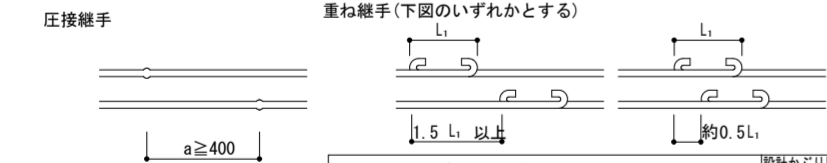
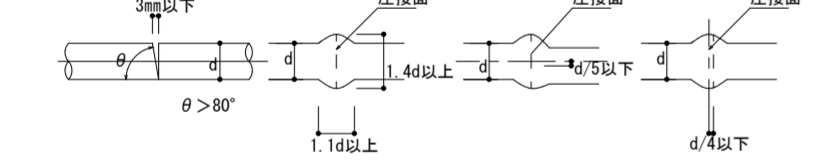
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ (定着長さは設計図書による。特記の無い場合は下記による)

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ		定着及び重ね継手の長さ (L <sub>1</sub> )
		一般 (L <sub>0</sub> )	下ば筋 (L <sub>2</sub> ) 小梁 スラブ	
SR235	21 ~ 27	35d フックつき	25d フックつき 15d フックつき	35d フックつき 45d フックつき
	18	45d フックつき		
SD295A SD295B SD345 ( )内はSD390	21 ~ 27	35d または 25d フックつき (40d または 30d フックつき)	25d または 15d フックつき 10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき (45d または 35d フックつき) 45d または 35d フックつき
	18	40d または 30d フックつき		

継手

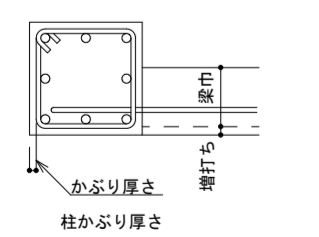
1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が5mmを超える場合は、圧接としてはならない

ガス圧接形状



(4) かぶり厚さ (単位: mm)

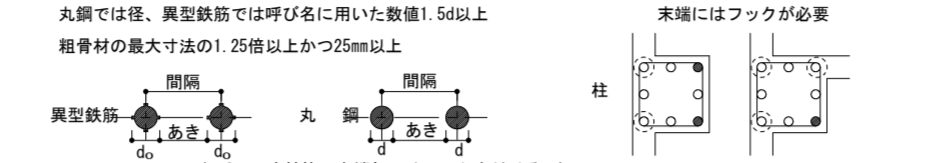
ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所に付いても最小かぶり厚さを確保する。



部位	設計かぶり厚さ(最小かぶり厚さ) (mm)	
	屋内	屋外
屋根スラブ	30	20
床スラブ	40 <sup>(1)</sup>	30(20)
非耐力壁	40	30
耐力壁	50 <sup>(2)</sup>	40 <sup>(2)</sup> (30)
柱	50 <sup>(3)</sup>	40
擁壁	50	40
土に接しない部分	柱・はり・スラブ・耐力壁	50 40 <sup>(4)</sup>
土に接する部分	基礎・擁壁	70 60 <sup>(4)</sup>

(注)  
1. 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事管理者の承認を受けて30mmとすることができる。  
2. 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事管理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
3. コンクリートの品質及び施工法に応じ、工事管理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
4. 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。  
5. ( )内は仕上げがある場合。  
6. 鉄筋加工時の磨り厚さは、設計かぶり厚さを採用し、最小かぶり厚さを下回ることはないようにする。

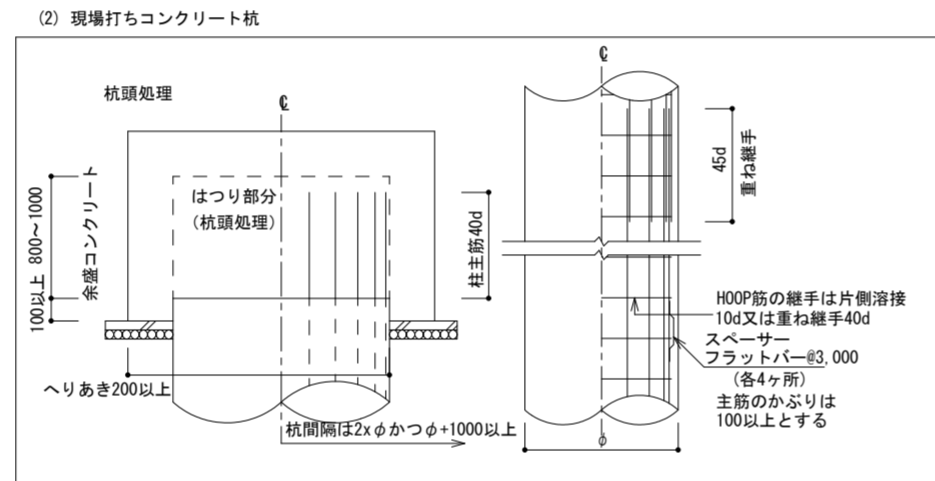
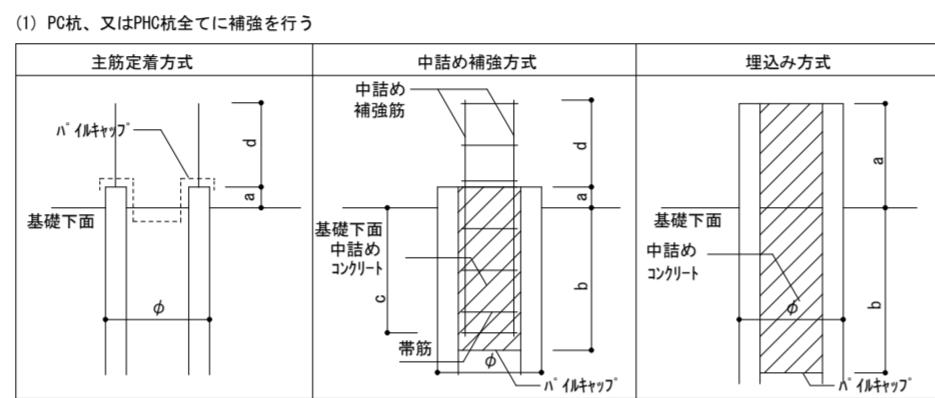
(5) 鉄筋のあき



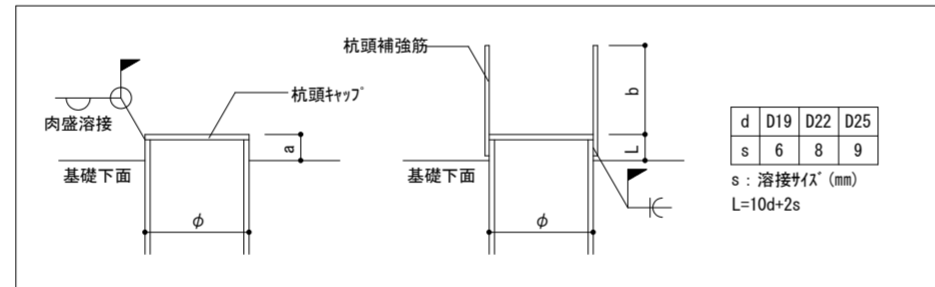
(6) 鉄筋のフック (a-fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

- 丸鋼
- あばら筋、帯筋
- 柱、梁(基礎梁を除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
- 単純梁の下端筋
- その他、本配筋標準図に記載する箇所

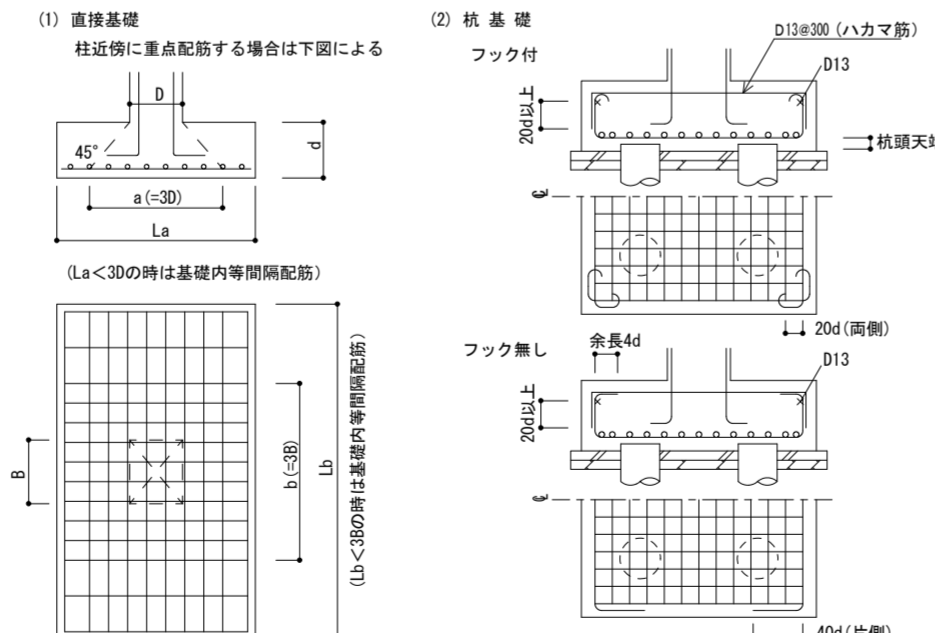
3. 杭 (採用する杭種別を明記し、詳細および下記寸法 a~d は設計図書の特記による。)



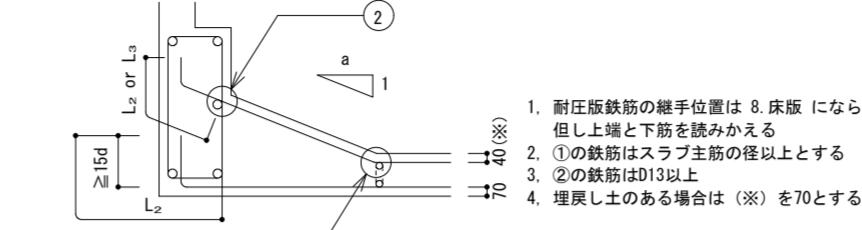
(3) 鋼管杭



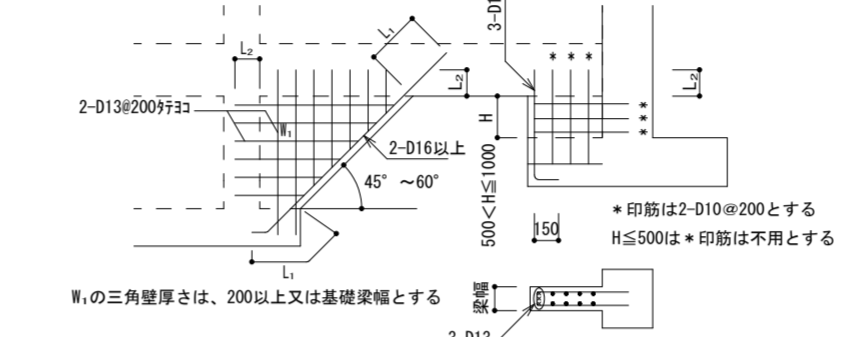
## 4. 基礎



(3) ベタ基礎

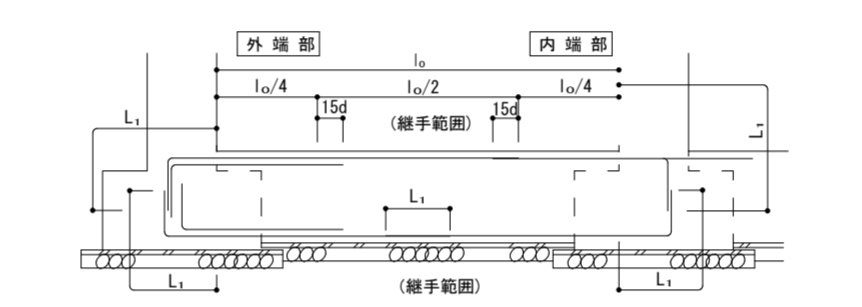


(4) 基礎接合部の補強

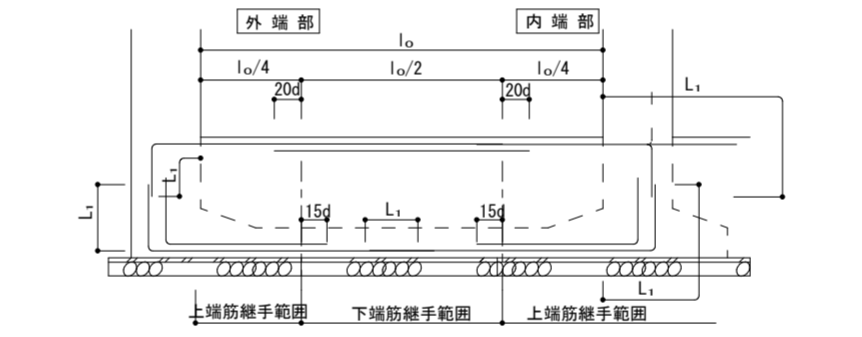


## 5. 基礎梁

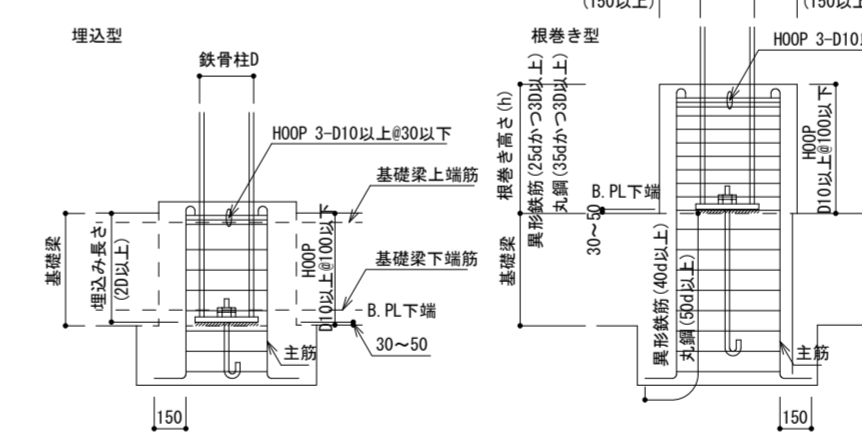
(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



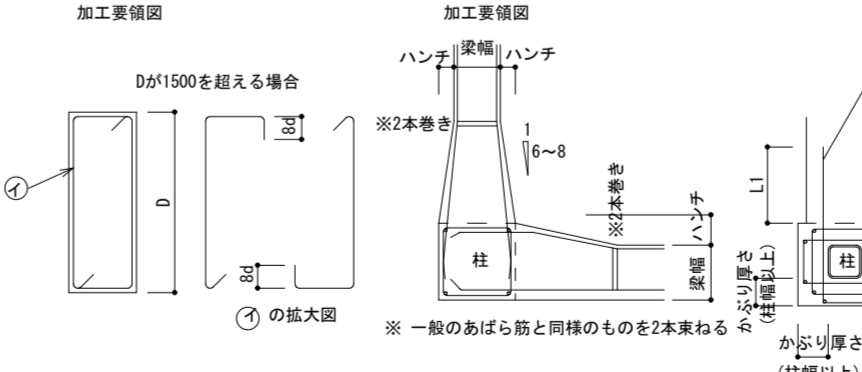
(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



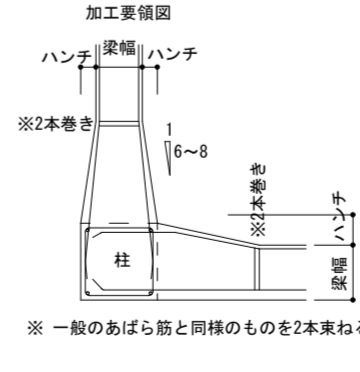
(3) 小規模鉄骨構造の柱脚固定の配筋



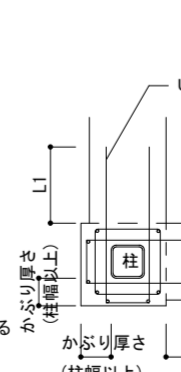
(4) せいの高い梁のあばら筋



(5) 水平ハンチの場合のあばら筋

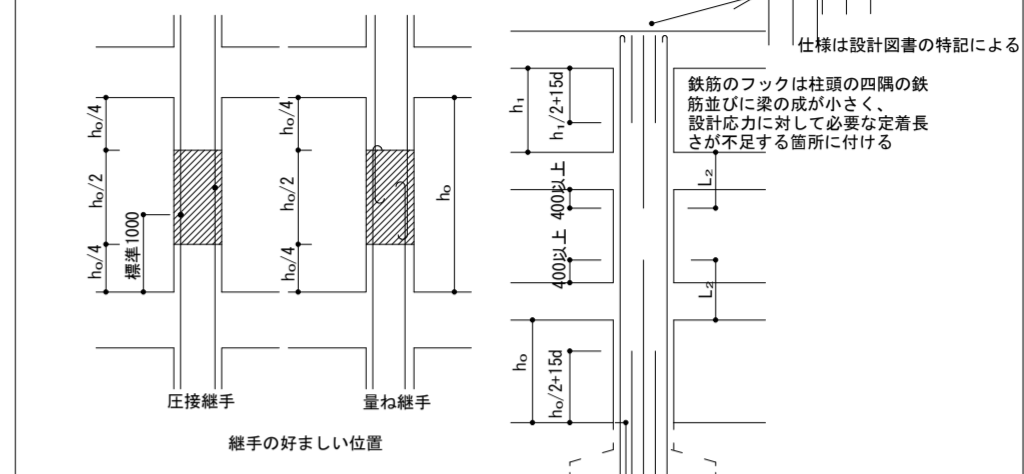


(6) 側柱柱脚の補強

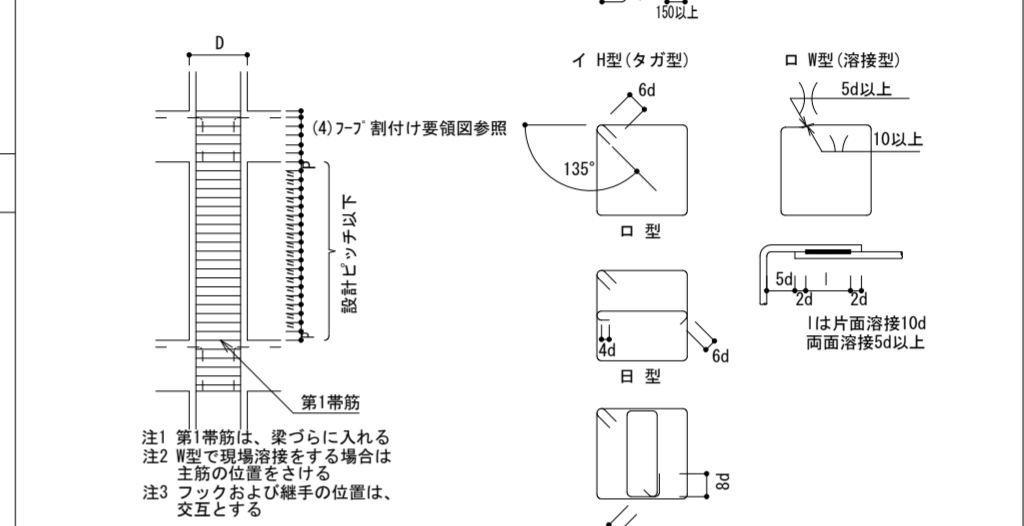


## 6. 柱

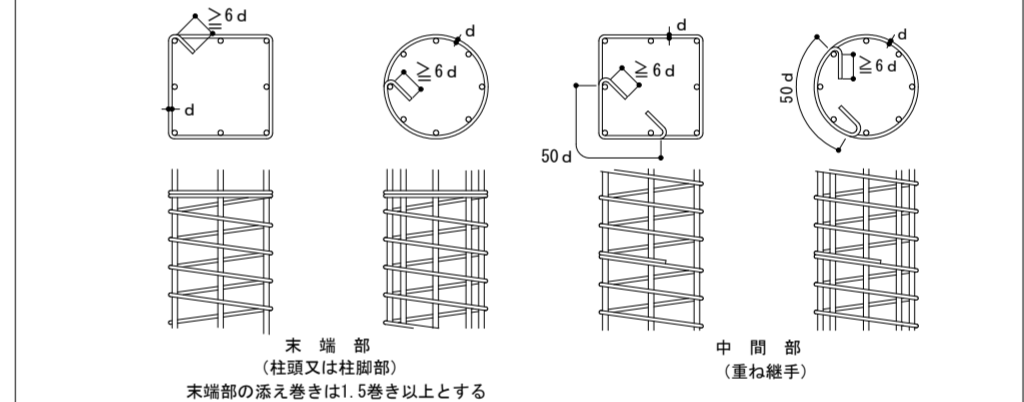
(1) 柱主筋の継手



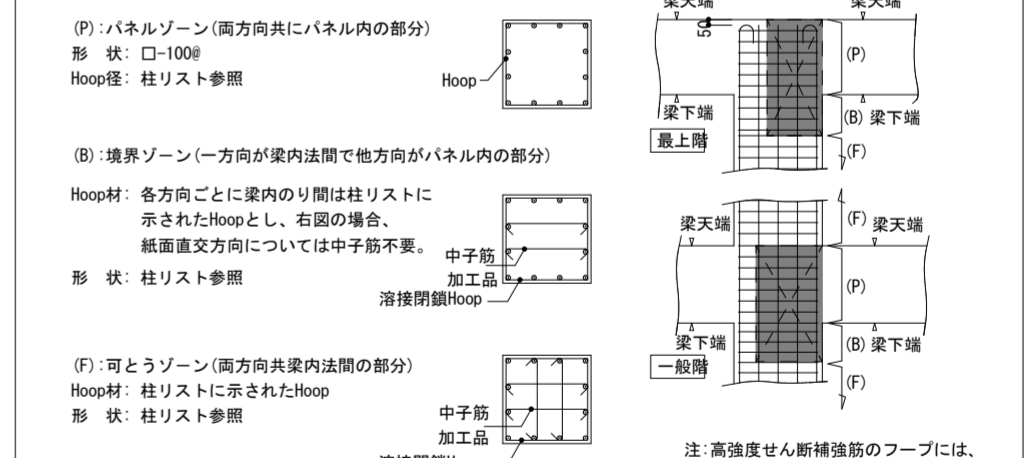
(3) 帯筋



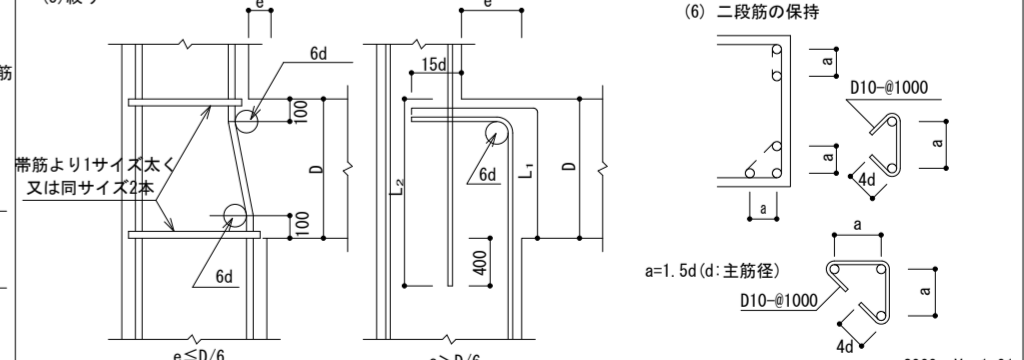
ハS型(スパイラル型)



(4) フープ割付け要領図



(5) 絞り

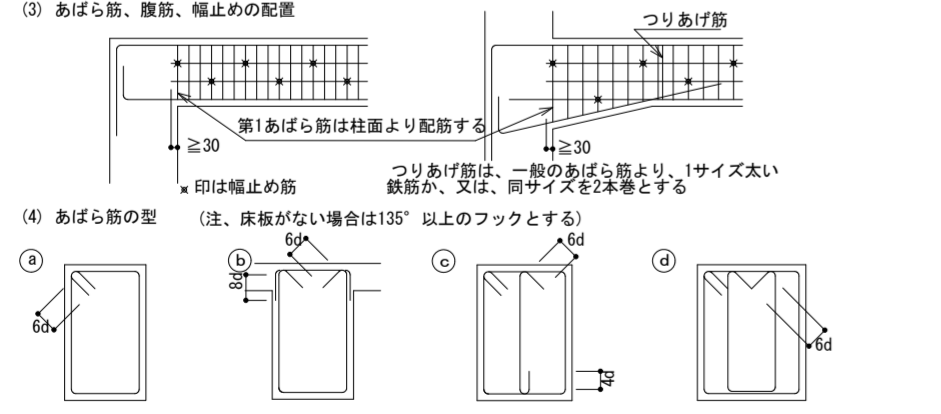
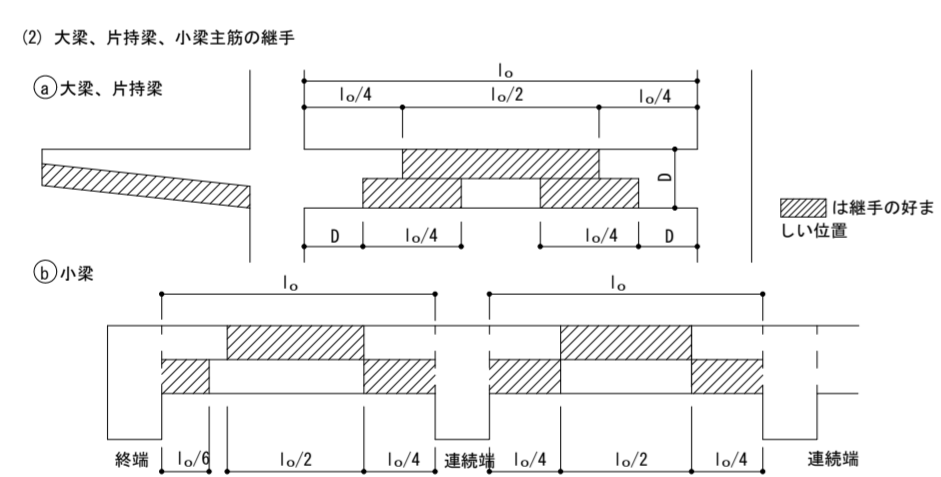
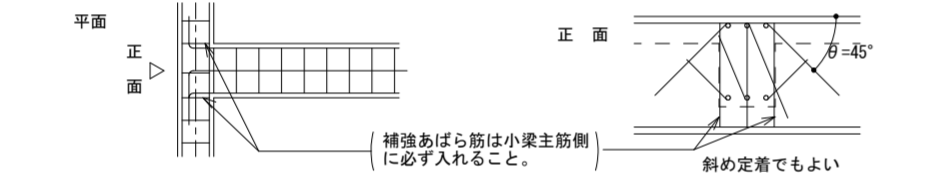
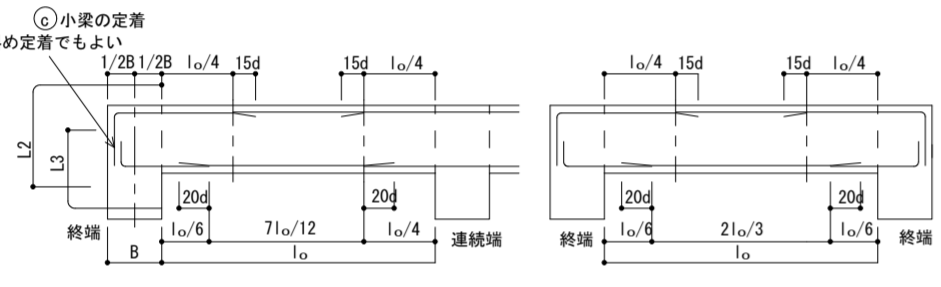
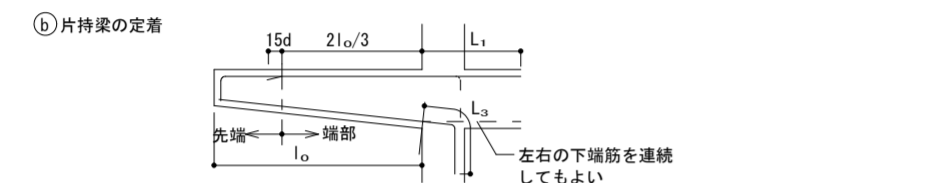
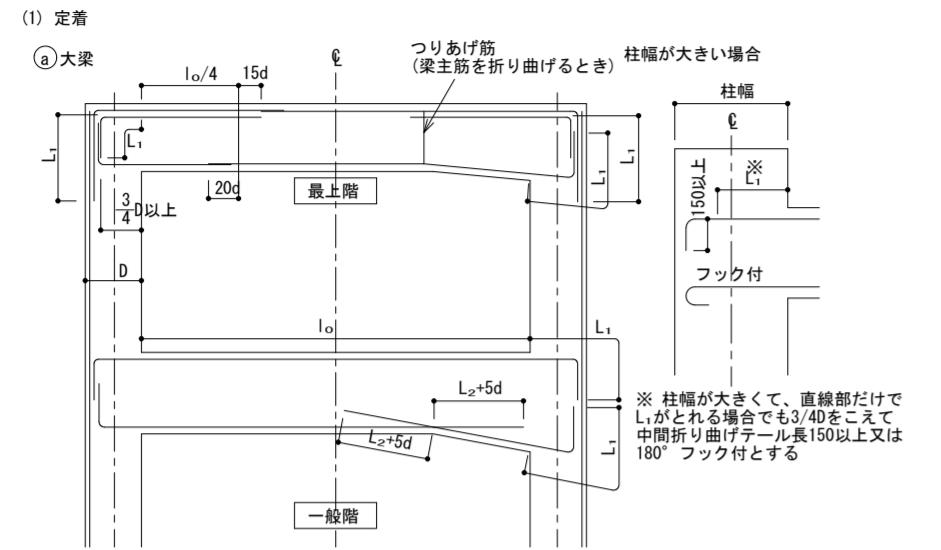


# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

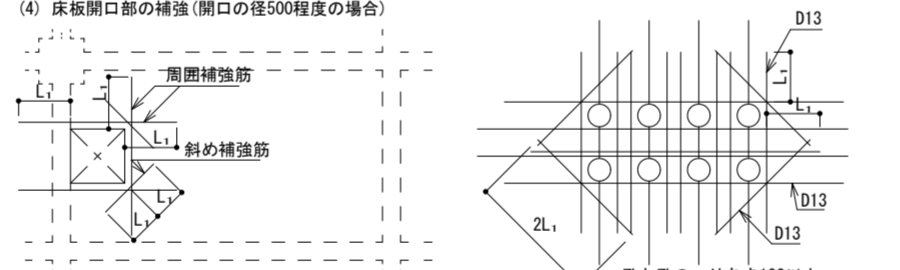
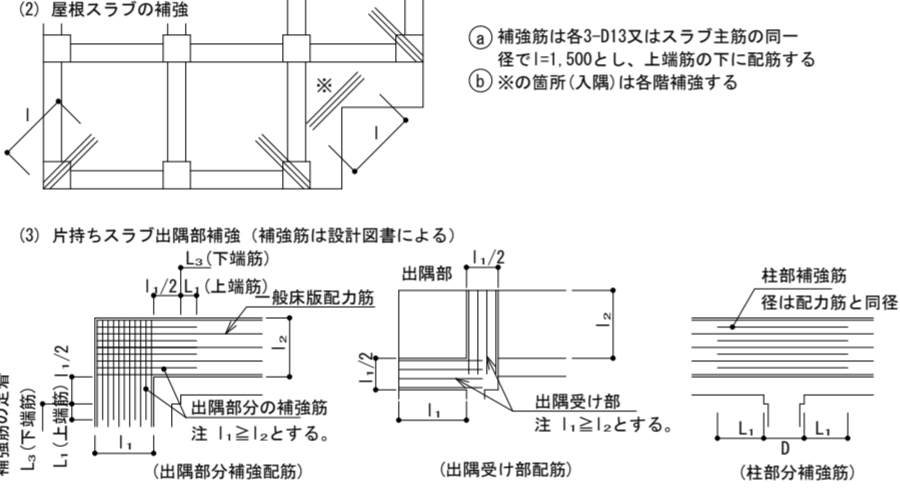
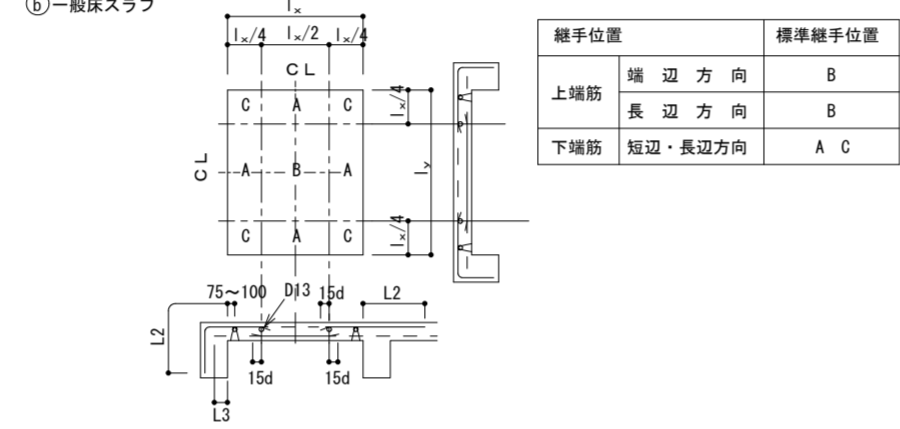
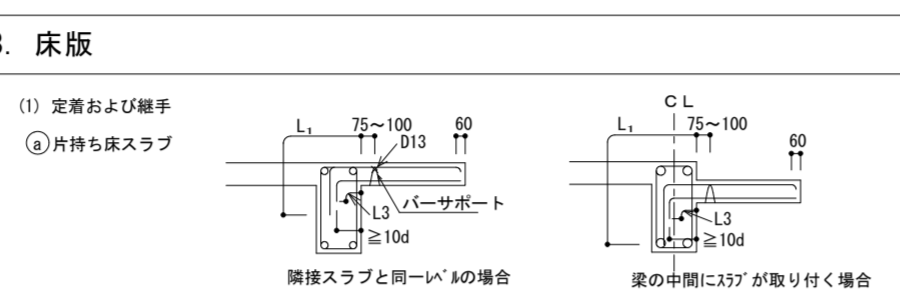
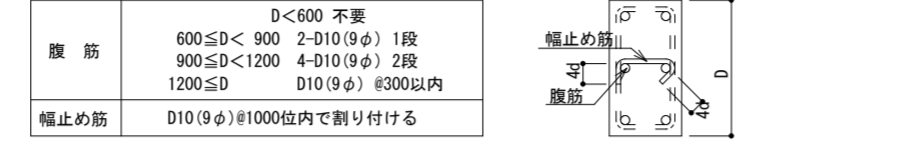
## 7. 大梁、小梁、片持梁

(大梁主筋定着およびカットオフ位置は設計図書の特記による。特記のない場合は下図による。)

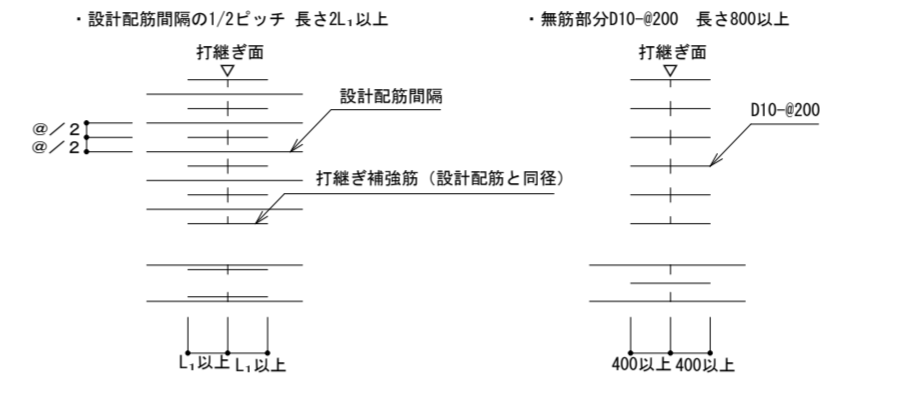
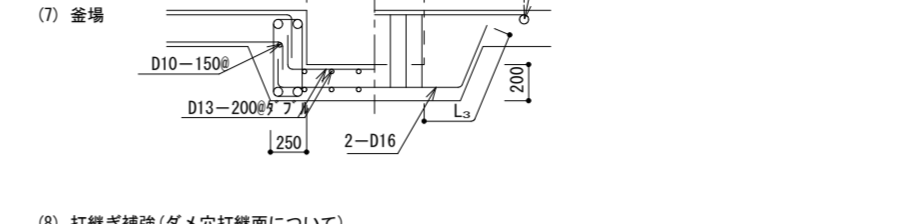
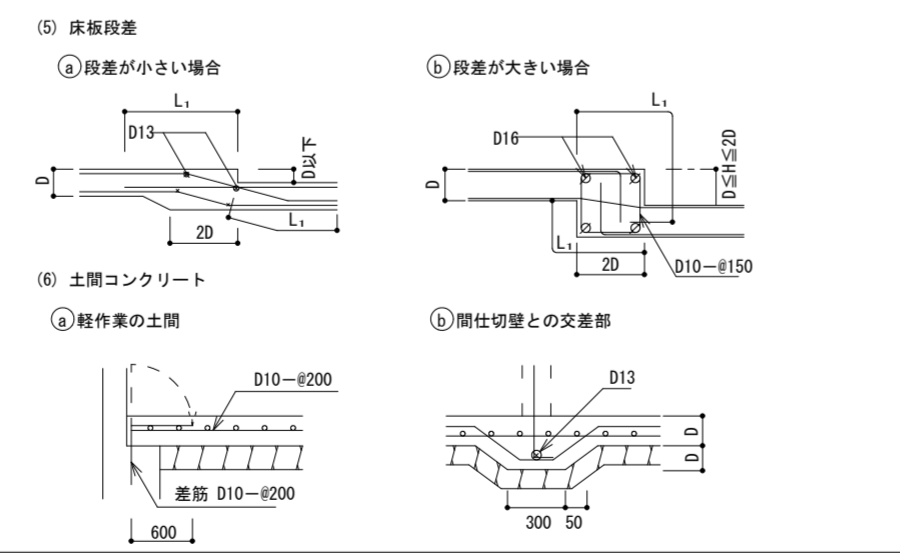


(イ) 原則として (a) のフック先出げとする。両側鉄筋(W型)梁で (b) とすることができる。  
(ロ) フックの位置は (a) にあては交互とする。

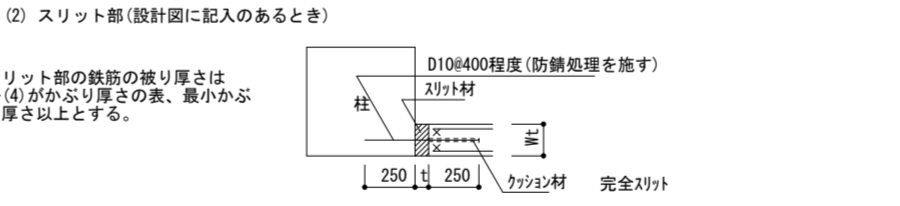
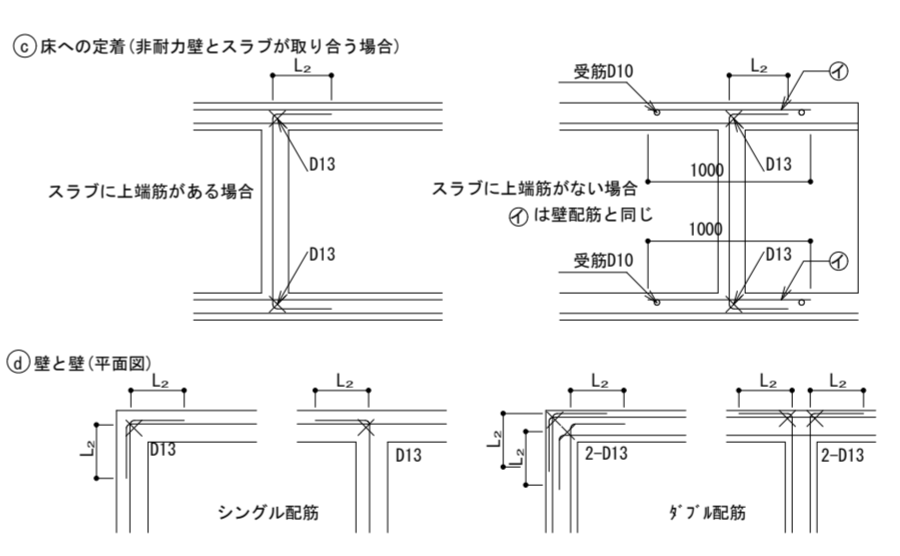
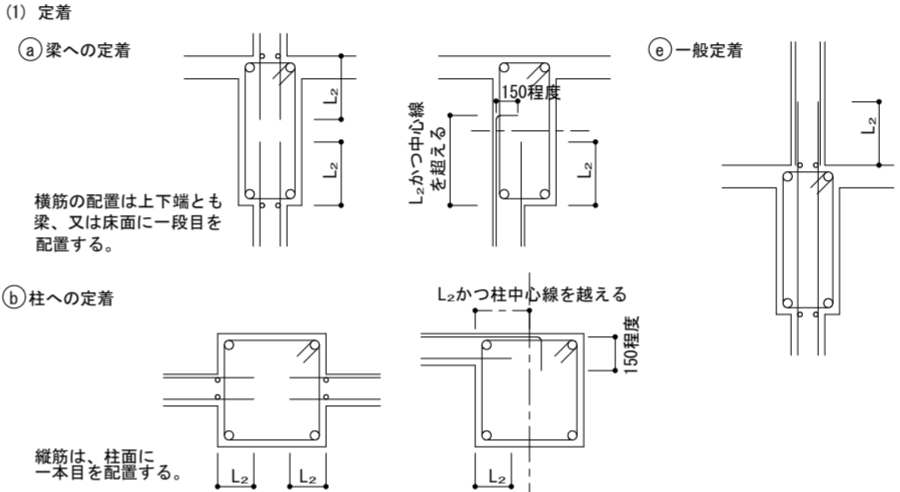
## 8. 床版



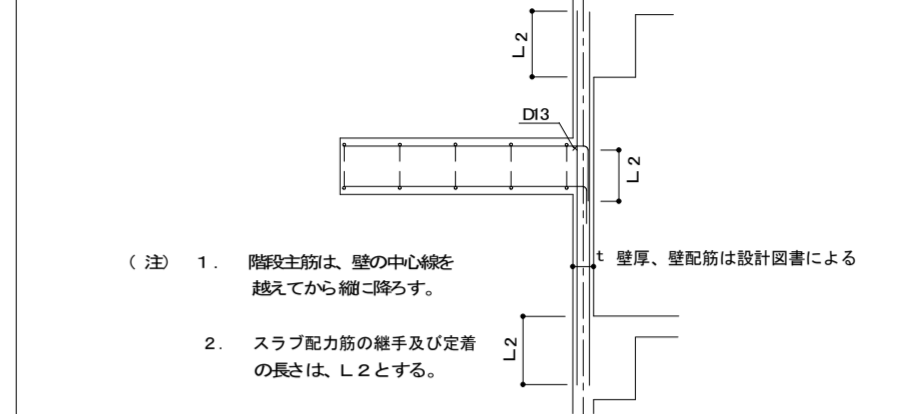
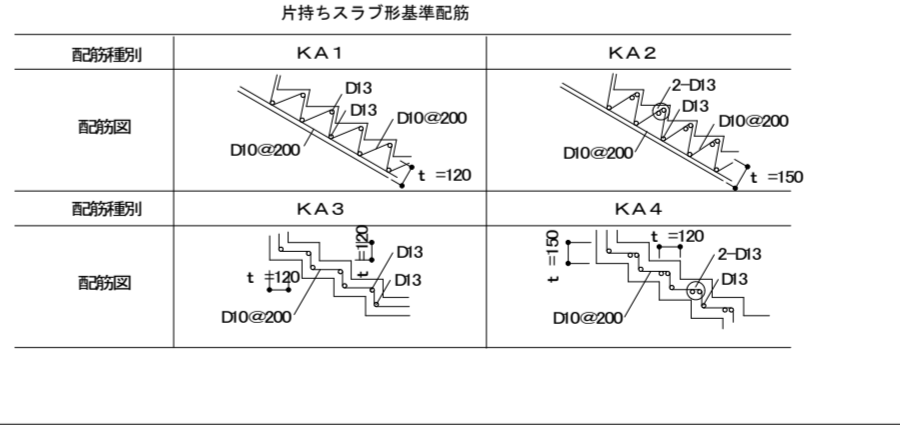
床版厚さD	周囲	斜め
D ≤ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≤ 200	各2-D13	各2-D13
200 < D ≤ 300	各2-D19	各2-D16



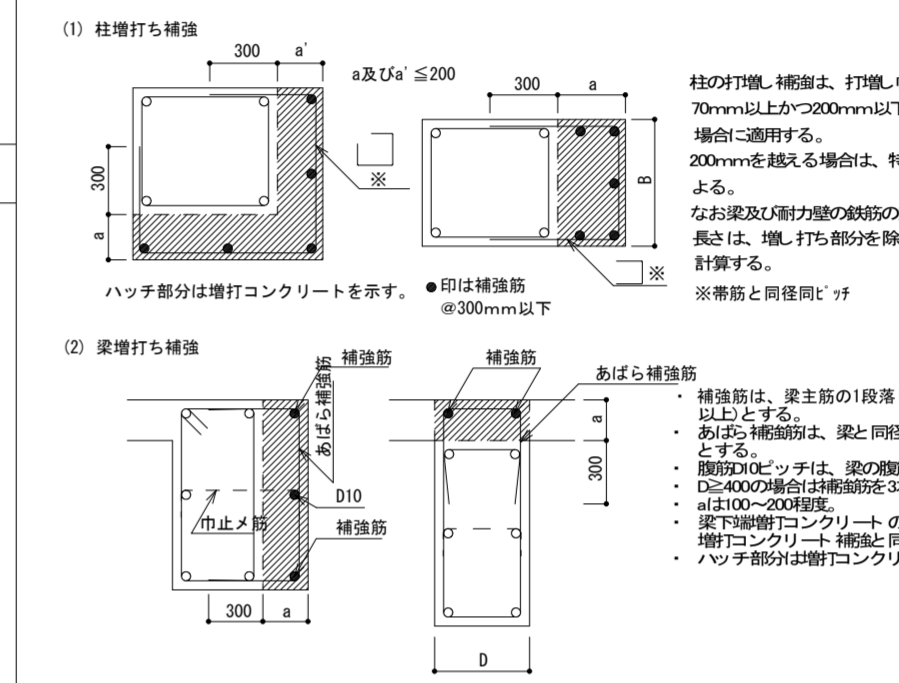
## 9. 壁



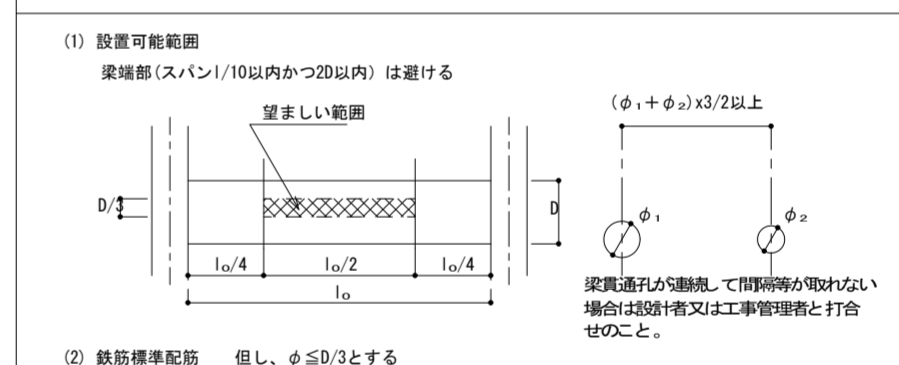
## 10. 階段



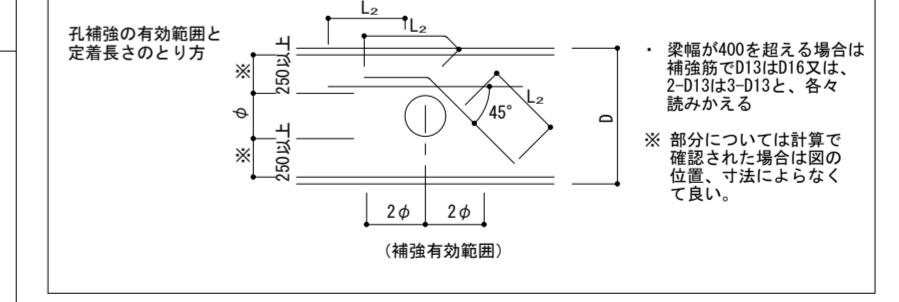
## 11. 柱、梁増打コンクリート補強



## 12. 梁貫通孔補強



80 ≤ φ ≤ 100	100 < φ ≤ 150	150 < φ ≤ 250
折筋 2-(2-D13)	折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13@100 横筋 2-(2-D13)	斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST2-D13@100 横筋 2-(2-D13) 十字筋 ST2-D13



(3) 既製品 (使用する場合は、設計者又は工事管理者と打合せのこと) (既製品の適用範囲を準拠し、承認を得ること)

□ リング型 □ バイブ型 □ 金網型 □ プレート型

# 木躯体工事 標準仕様書 (1)

<p>I. 材料</p> <p>I-1. 木材の品質 I-2. 木材の樹種</p> <p>I-3. 木材の含水率 I-4. 接合金物等</p> <p>II. 指定寸法 ・仕上げ・養生</p> <p>III. 防蟻・防蟻処理</p> <p>III-1. 指定寸法 III-2. 仕上げ</p> <p>III-3. 養生</p> <p>III-1. 防蟻・防蟻処理 III-2. 防蟻・防蟻措置を講ずる部分</p> <p>III-3. 薬剤による現場処理</p> <p>III-4. 薬剤による工場処理</p> <p>IV. 軸組</p> <p>IV-1. 土台</p>	<p>1. 構造用製材及び構造用集成材は、日本農林規格 (JAS) に適合するものとする。すぎ、ひのき、からまつは山梨県産材とする。</p> <p>1. 構造材の樹種は下表による。</p> <table border="1" data-bbox="445 210 875 850"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>部位</th> <th>樹種</th> <th>等級・強度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">軸</td> <td>土台</td> <td>ひのき</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>管柱</td> <td>すぎ</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>管柱</td> <td>からまつ</td> <td>E95-F270</td> <td></td> </tr> <tr> <td>はり</td> <td>すぎ</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>はり</td> <td>からまつ</td> <td>E95-F270</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">組</td> <td>丸太材</td> <td>すぎ又はひのき</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>丸太材</td> <td>まつ類</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">床</td> <td>大引</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>襖太</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>火打ばり</td> <td>すぎ</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">組</td> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">小</td> <td>母屋</td> <td>すぎ</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>棟木</td> <td>すぎ</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小屋束</td> <td>すぎ</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>タル木</td> <td>すぎ</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">各</td> <td>普通合板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐水合板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>構造用合板</td> <td>針葉樹合板</td> <td>2級</td> <td>JAS規格品</td> </tr> <tr> <td>パーティクルボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5908</td> </tr> <tr> <td>ハードボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5905</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">ボード類</td> <td>硬質木毛セメント板</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5404</td> </tr> <tr> <td>せっこうボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 6901</td> </tr> <tr> <td>シーリングボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5905</td> </tr> <tr> <td>ラスシート</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5524</td> </tr> </tbody> </table> <p>1. 構造材及び下張材の工事現場搬入時の含水率は20%以下とする。</p> <p>1. 接合金物の材質は、日本工業規格 (JIS) に適合するものとする。</p> <p>2. 特記なき場合、接合金物は下記による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(財) 日本住宅・木材技術センター「接合金物規格 (Zマーク表示金物)」による。</li> <li>(財) 日本住宅・木材技術センター「枠組壁工法用金物規格 (Cマーク表示金物)」による。</li> <li>(株) タツミ クレテック金物工法による。</li> </ol>	場所	部位	樹種	等級・強度	備考	軸	土台	ひのき	構造用製材		管柱	すぎ	構造用製材		管柱	からまつ	E95-F270		はり	すぎ	構造用製材		はり	からまつ	E95-F270		組	丸太材	すぎ又はひのき	構造用製材		丸太材	まつ類	構造用製材		その他				床	大引				襖太				火打ばり	すぎ	構造用製材		組	その他								小	母屋	すぎ	構造用製材		棟木	すぎ	構造用製材		小屋束	すぎ	構造用製材		タル木	すぎ	構造用製材		その他				各	普通合板				耐水合板				構造用合板	針葉樹合板	2級	JAS規格品	パーティクルボード			JIS A 5908	ハードボード			JIS A 5905	ボード類	硬質木毛セメント板			JIS A 5404	せっこうボード			JIS A 6901	シーリングボード			JIS A 5905	ラスシート			JIS A 5524	<p>IV-2. 火打土台</p> <p>IV-3. 柱</p> <p>IV-4. 間柱</p> <p>IV-5. 横架材</p> <p>IV-6. 通し貫</p> <p>V. 耐力壁</p> <p>V-1. 筋かい</p> <p>V-2. 木ずり</p> <p>V-3. 面材耐力壁</p> <p>VI. 小屋組</p> <p>VI-1. 小屋ばり</p> <p>VI-2. 小屋づか</p> <p>VI-3. むな木・母屋</p>	<p>1. 木材の火打土台とする場合は、次による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>断面寸法は、45mm×90mm以上とする。</li> <li>見つけ平使いとし、土台との仕口は、かたぎ大入れとし、N90釘2本平打ちとする。</li> </ol> <p>2. 鋼製火打とする場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>1. 柱の断面寸法は、次による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>管柱の断面寸法は、105mm×105mm以上とする。ただし多雪地域においては特記による。</li> <li>通し柱の断面寸法は、120mm×120mm以上とする。</li> </ol> <p>2. 柱端部と土台及び横架材の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>3. 筋かい及び面材耐力壁が取り付く柱の端部と土台及び横架材の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>1. 横架材との仕口は、大入れとし、N75釘2本を斜め打ちする。</p> <p>2. 筋かい当りは、間柱を切り欠きN75釘2本を平打ちする。</p> <p>3. 通し貫当りは、添え付けて、N65釘2本を平打ちする。</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態及びスパンを勘案して適切なものとして特記する。</p> <p>2. 継手は、はり及び筋かいを受ける柱間を避け、柱より持ち出し、道掛け大せん継ぎ又は腰掛かま継ぎとし、継手用金物 (ぐし止め) を使用する。</p> <p>3. 通し柱との仕口は、かたぎ大入れ短ほぞ差しとし、金物の補強は次のいづれかによる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>短ざく金物当てM12六角ボルト締め、スクリーナ釘打ちとする。</li> <li>かね折り金物当てM12六角ボルト締め、スクリーナ釘打ちとする。</li> <li>M12羽子板ボルト締めとする。</li> </ol> <p>4. 金物による継手又は仕口は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>5. 耐力壁内で継手を設ける場合の補強金物は、係員の指示による。</p> <p>1. 柱に差し渡し、両面からクサビ締め釘打ちとする。</p> <p>1. 筋かいの耐力倍率による仕様は、次による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>壁倍率1.0             <ul style="list-style-type: none"> <li>断面寸法が15mm×90mm以上の木材を使用する。</li> <li>径9mm以上の鉄筋を使用する。</li> </ul> </li> <li>壁倍率1.5             <ul style="list-style-type: none"> <li>断面寸法が30mm×90mm以上の木材を使用する。</li> </ul> </li> <li>壁倍率2.0             <ul style="list-style-type: none"> <li>断面寸法が45mm×90mm以上の木材を使用する。</li> </ul> </li> <li>壁倍率3.0             <ul style="list-style-type: none"> <li>断面寸法が90mm×90mm以上の木材を使用する。</li> </ul> </li> </ol> <p>2. 筋かい端部の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>3. 筋かいが取り付く柱端部の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>1. 断面寸法は、12mm×75mm以上とする。</p> <p>2. 継手は、柱・間柱で突付け、5枚以上毎に乱継ぎとする。</p> <p>3. 柱・間柱等への留め付けは、板そば20mm程度に目通し張りとし、それぞれN50釘2本を平打ちする。</p> <p>1. 面材耐力壁の仕様は、次による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>構造用合板はJASに適合するもので、接着の程度は特類とし、厚さは7.5mm以上とする。</li> <li>パーティクルボードはJISA5908に適合するもので、種類は曲げ強さの区分が8タイプ以外のものとし、厚さは12mm以上とする。</li> <li>構造パネルは、JASに適合するものとする。</li> <li>ハードボードは、JISA5905に適合するもので、曲げ強さの種類は35タイプ又は45タイプとし、厚さは5mm以上とする。</li> <li>硬質木片セメント板はJISA5417に適合するもので、厚さは12mm以上とする。</li> <li>せっこうボードはJISA6901に適合するもので、厚さは12mm以上とする。</li> <li>シーリングボードはJISA5905に適合するもので、種類はシーリングインシュレーションボードとし、厚さは12mm以上とする。</li> <li>ラスシートはJISA5524に適合するもので、種類はLS4とする。</li> </ol> <p>2. 面材耐力壁の張り付け釘種類及び間隔は、国土交通省告示第1100号による。</p> <p>3. 面材耐力壁の張り付け方法は、次による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>構造用面材は、柱・間柱及び土台・はり・けた・その他の横架材に確実に釘で留め付ける。</li> <li>建物の2階にわたり上下同位置に構造用面材壁を設ける場合は、胴差しにおいて構造用面材相互間に原則として6mm以上の隙間を設ける。</li> <li>柱・梁以外の場所でやむをえず構造用面材を継ぐ場合は、間柱及び胴差等の断面は45mm×65mm以上とする。</li> <li>構造用面材は原則として縦張りとする。</li> </ol> <p>4. 構造用面材の地下に受け材を用いる場合は、次による。(真壁造の面材耐力壁仕様)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>受け材の断面寸法は、40mm×60mm以上とする。</li> <li>受け材は、柱及びはり・けた・土台又はその他の横架材に、N90釘で300mm以上の間隔で平打ちする。</li> </ol> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態、スパン及びびり間隔等を勘案して適切なものとして特記による。</p> <p>2. 末口135mm以上の丸太の継手は、受け材上で台持ち継ぎとし、下木にだぼ2本を補込みかすがい両面打ちとするか又はM12六角ボルト2本締めとする。受け材当りは渡りあごとし、手遣いかすがい打ちとする。</p> <p>3. 末口135mm未満の丸太の継手は、受け材上でやりちがいとし、M12六角ボルト2本締めとする。受け材当りは渡りあごとし手遣いかすがい打ちとする。</p> <p>4. 軒たけ又は敷けたとの仕口は、かぶとあり掛け又は渡りあごとし、いずれもM12羽子板ボルト締めとする。</p> <p>1. 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。ただし多雪地域においては特記による。</p> <p>2. 端部仕口は、短ほぞ差しとし、かすがい両面打ち又はひら金物当て釘打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、次による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>母屋の断面寸法は、90mm×90mm以上とし、たる木当りの欠き込み等がある場合は正味断面として確保する。ただし多雪地域においては特記による。</li> <li>むな木の断面寸法は、母屋の断面寸法以上とし、たる木当りの欠き込み等を考慮して、特記する。</li> <li>継手は、つかの位置を避け、つかより持ち出して、腰掛かま継ぎ又は腰掛あり継ぎとし、N75釘2本打ちとする。</li> <li>T字部の仕口は、大入れあり掛けとし、上部よりかすがい打ちとする。</li> </ol>	<p>VI. 床組</p> <p>VI. 基礎</p> <p>VI. 基礎</p> <p>VI-2. 鉄筋材料及び加工</p> <p>VI-3. アンカーボルト</p> <p>VI-4. ホールダウン専用アンカーボルト</p>	<p>VI-4. 雲筋かい 振れ止め</p> <p>VI-5. たる木</p> <p>VI-6. ころび止め</p> <p>VI-7. 火打ちばり</p> <p>VI-1. 大引</p> <p>VI-2. 床づか</p> <p>VI-3. 根太掛け</p> <p>VI-4. 根太</p> <p>VI-5. 床ばり</p> <p>VI-6. 火打ちばり</p> <p>VI. 基礎</p> <p>VI-1. 一般事項</p> <p>VI-2. 鉄筋材料及び加工</p> <p>VI-3. アンカーボルト</p> <p>VI-4. ホールダウン専用アンカーボルト</p> <p>1. 断面寸法は、15mm×60mm以上とする。</p> <p>2. 留めつけは、つかに添えつけ、N50釘2本を平打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態、軒の出等を勘案し適切なものとして特記による。</p> <p>2. 継手は、乱に配置し、母屋上端でそぎ継ぎとし、N75釘2本打ちとする。</p> <p>3. 軒先以外の留めつけは、受け材当たりN75釘で両面から斜め打ちとする。ただし、たる木のせいが45mm以下の場合はN90釘を縦打ちとすることができる。</p> <p>4. 軒先部の留めつけは、けたにひねり金物、・折り曲げ金物又はくは金物を当て釘打ちとする。</p> <p>1. 垂木と間断面の転び止め材を載せ、転び止め材の側面から軒桁・母屋・棟木の上面にN75釘4本 (表2本と裏2本を千鳥配置) を斜め打ち</p> <p>1. 木材の火打ちばりとする場合は、次による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>断面寸法は、90mm×90mm以上とする。</li> <li>横架材との仕口は、かたぎ大入れとし、M12六角ボルト引きとする。</li> </ol> <p>2. 鋼製の火打ちばりとする場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>1. 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 継手は、床づか心から150mm程度持ち出し、相欠き継ぎのうえN75釘2本打ちとするか、腰掛あり継ぎとする。</p> <p>3. 土台との仕口は、大入れあり掛け、腰掛け又は兼せ掛けとし、いずれもN75釘2本斜め打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 大引との仕口は、突付けとしN75釘を斜め打ちのうえ、ひら金物を当て釘打ち又はかすがい打ちとする。</p> <p>3. 下部は、つか石・土間コンクリートに突付けとし、根がらみを添えつけ釘打ちとする。又床づかが浮き上がらないような措置を講ずること。</p> <p>4. 鋼製床づかを使用する場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>1. 断面寸法は、24mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 継ぎ手は、柱心で突付け継ぎとしN75釘2本を平打ちとする。</p> <p>3. 留めつけは、柱・間柱当りにN75釘2本を平打ちする。</p> <p>1. 断面寸法は、45mm×60mm以上とする。ただし地下大引間隔が900mmを超えるときは45mm×105mm以上とする。ただし地下大引間隔は1.800mmを最大とする。</p> <p>2. 根太間隔は、畳床の場合は450mm内外とし、その他の場合は300mm内外とする。</p> <p>3. 継手は、受材心で突付け継ぎとしN90釘打ちとする。</p> <p>4. はり又は大引との仕口は、掛渡しとしN75釘2本斜め打ちとする。ただし、根太のせいが90mm以上の場合は大入れ渡りあご掛けとし、N75釘2本斜め打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態、スパン、はり間隔等を勘案して適切なものとし、特記による。</p> <p>2. 継手は、次のいづれかによる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>受材上で大材を下にして台持ち継ぎとしてM12六角ボルト2本締めとする。</li> <li>受材より150mm内外持出し、道掛け大せん継ぎとする。</li> <li>はりせいが120mm程度のものは、大材を受材より150mm内外持出し上端をそろえ、腰掛けかま継ぎ又は腰掛けあり継ぎとし、短ざく金物両面当てM12六角ボルト締め釘打ちとする。</li> </ol> <p>3. 仕口は、次のいづれかによる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>柱との仕口は、かたぎ大入れ短ほぞ差しとし、羽子板ボルト締め又は箱金物ボルト締めとする。</li> <li>T字取合は、大入れあり掛けとし、羽子板ボルト締めとする。</li> <li>受材が横架材の場合は、渡りあご掛けとする。</li> </ol> <p>4. 継手及び仕口に既製品の金物を使用する場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>1. 火打ちばりは前項 VI. 小屋組 VI-6. 火打ちばりに準ずる。</p> <p>1. 基礎は、1階の外周部及び内部耐力壁の直下に設ける。</p> <p>2. 基礎の構造は、次のいづれかとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>布基礎</li> <li>腰壁と一体となった布基礎</li> <li>ベタ基礎</li> </ol> <p>3. 構造体は、一体の鉄筋コンクリート造とする。</p> <p>4. 基礎の深さは、設計耐力の地盤まで掘り下げるとともに、建設地域の凍結深度より深くする。</p> <p>5. 立上り部分の高さは、地盤面より300mm以上高くする。</p> <p>6. 立上り部分の巾は、120mm以上かつ土台幅より大きくする。</p> <p>7. 基礎の寸法及び配筋は特記による。</p> <p>1. 鉄筋は、JISG3112又はJISG3117のJISマーク表示品とし、その種類及び径は特記による。</p> <p>2. 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。</p> <p>3. 鉄筋の継手は、D16以下では重ね継手、D19以上はガス圧接継手とする。</p> <p>4. 有害な曲がり、ひび割れ、ささくれ等の損傷のある鉄筋を使用してはならない。</p> <p>5. 鉄筋の最小ふり厚さは、基礎の立上り部分においては50mm以上、座盤においては70mm以上とする。</p> <p>1. アンカーボルト及び座金は、Zマーク表示金物のM12アンカーボルト、座金とする。</p> <p>2. アンカーボルトの埋設位置は、次による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>構造耐力壁の部分は、その両端の柱心から200mm内外の位置に埋設する。</li> <li>土台の切れ箇所、土台の継手及び仕口箇所の土台端部</li> <li>上記以外の部分においては、間隔200mm以内の位置に埋設する。</li> </ol> <p>3. アンカーボルトのコンクリートへの定着長さは240mm以上とし、ボルトネジ部の先端は、土台の上端においてネットの外にネジ山が3山以上出るようにする。</p> <p>4. アンカーボルトの保持及び埋込み工法は、特記が無ければアンカーボルトを鉄筋等を用いて組み立て、適切な補助材で型枠に固定しコンクリートの打込みを行うものとする。</p> <p>1. ホールダウン専用アンカーボルト及び座金は、Zマーク表示金物のM16アンカーボルト、座金とする。</p> <p>2. ホールダウン専用アンカーボルトの埋設位置は設計図書の特記による。</p> <p>3. ホールダウン専用アンカーボルトのコンクリートへの定着長さは360mm以上とする。</p> <p>4. ホールダウン専用アンカーボルトの埋設方法は、取り付く柱の位置に専用治具を用い正確に埋め込むこと。</p>
場所	部位	樹種	等級・強度	備考																																																																																																																									
軸	土台	ひのき	構造用製材																																																																																																																										
	管柱	すぎ	構造用製材																																																																																																																										
	管柱	からまつ	E95-F270																																																																																																																										
	はり	すぎ	構造用製材																																																																																																																										
	はり	からまつ	E95-F270																																																																																																																										
組	丸太材	すぎ又はひのき	構造用製材																																																																																																																										
	丸太材	まつ類	構造用製材																																																																																																																										
	その他																																																																																																																												
床	大引																																																																																																																												
	襖太																																																																																																																												
	火打ばり	すぎ	構造用製材																																																																																																																										
組	その他																																																																																																																												
小	母屋	すぎ	構造用製材																																																																																																																										
	棟木	すぎ	構造用製材																																																																																																																										
	小屋束	すぎ	構造用製材																																																																																																																										
	タル木	すぎ	構造用製材																																																																																																																										
	その他																																																																																																																												
各	普通合板																																																																																																																												
	耐水合板																																																																																																																												
	構造用合板	針葉樹合板	2級	JAS規格品																																																																																																																									
	パーティクルボード			JIS A 5908																																																																																																																									
	ハードボード			JIS A 5905																																																																																																																									
ボード類	硬質木毛セメント板			JIS A 5404																																																																																																																									
	せっこうボード			JIS A 6901																																																																																																																									
	シーリングボード			JIS A 5905																																																																																																																									
	ラスシート			JIS A 5524																																																																																																																									



# 木躯体工事 標準仕様書 (2)

<p>国土交通省告示 第1460号</p> <p>壁筋かい端部仕口例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1号-I 9mm以上の鉄筋</li> <li>1号-ロ 1.5×9.0cm以上の木材</li> <li>1号-ハ 3.0×9.0cm以上の木材</li> <li>1号-ニ 4.5×9.0cm以上の木材</li> <li>1号-ホ 9.0×9.0cm以上の木材</li> </ul>	<p>①勾配座金を使用する場合</p> <p>②仕口プレートを使用する場合</p> <p>①釘を平打ちする場合</p> <p>①BPプレートを使用する場合</p> <p>②BOX金物を使用する場合</p> <p>①BP-2プレートを使用する場合</p> <p>②BOX金物を使用する場合</p> <p>①M1.2ボルトを使用する場合</p>	<p>国土交通省告示 第1460号</p> <p>柱と横架材との仕口</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表三-イ</li> <li>表三-ロ</li> <li>表三-ハ</li> <li>表三-ニ</li> </ul> <p>柱と横架材との仕口</p>	<p>①かすがいを使用する場合</p> <p>②かすがいを使用する場合</p> <p>①短ぼさし込み釘打ちの場合</p> <p>②CP-L金物を使用する場合</p> <p>①CP-T金物を使用する場合</p> <p>②山形プレート (VP) 金物を使用する場合</p> <p>①羽子板ボルトを使用する場合 スクリュー釘 (ZS50) 無し</p> <p>②短ざく金物を使用する場合 (※2、3階階差仕口ノミ使用可) スクリュー釘 (ZS50) 無し</p>	<p>国土交通省告示 第1460号</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表三-ホ</li> <li>表三-ヘ</li> <li>表三-ト (15KN用)</li> <li>表三-チ (20KN用)</li> <li>表三-リ (25KN用)</li> <li>表三-ニ</li> <li>表三-三</li> </ul>	<p>①羽子板ボルトを使用する場合 スクリュー釘 (ZS50) 有り</p> <p>②短ざく金物を使用する場合 (※2、3階階差仕口ノミ使用可) スクリュー釘 (ZS50) 有り</p> <p>①ホールダウン・引き寄せ金物 (10KN用) を使用する場合 ※ホールダウン・引き寄せ金物は製造メーカーの仕様を確認して使用すること。</p> <p>①ホールダウン・引き寄せ金物 (15KN用) を使用する場合 ※ホールダウン・引き寄せ金物は製造メーカーの仕様を確認して使用すること。</p> <p>①ホールダウン・引き寄せ金物 (20KN用) を使用する場合 ※ホールダウン・引き寄せ金物は製造メーカーの仕様を確認して使用すること。</p> <p>①ホールダウン・引き寄せ金物 (25KN用) を使用する場合 ※ホールダウン・引き寄せ金物は製造メーカーの仕様を確認して使用すること。</p>
--	--	--	--	--	---



株式会社 馬場設計  
山梨県知事登録(梨)第1-30888号  
一級建築士 大臣登録第267504号 管理建築士 代田 一郎

管理技術者 宮澤 昌文  
一級建築士 第225432号  
主任技術者 鬼頭 繁樹  
一級建築士 第225730号

担当作者 渡邊 須美樹  
一級建築士 第238035号  
株式会社木構堂  
一級建築士事務所登録 岐阜県12343号

設計年月 2023.3  
縮尺 A2 : A4 : 上記の50%

縮尺 A2 : A4 : 上記の50%

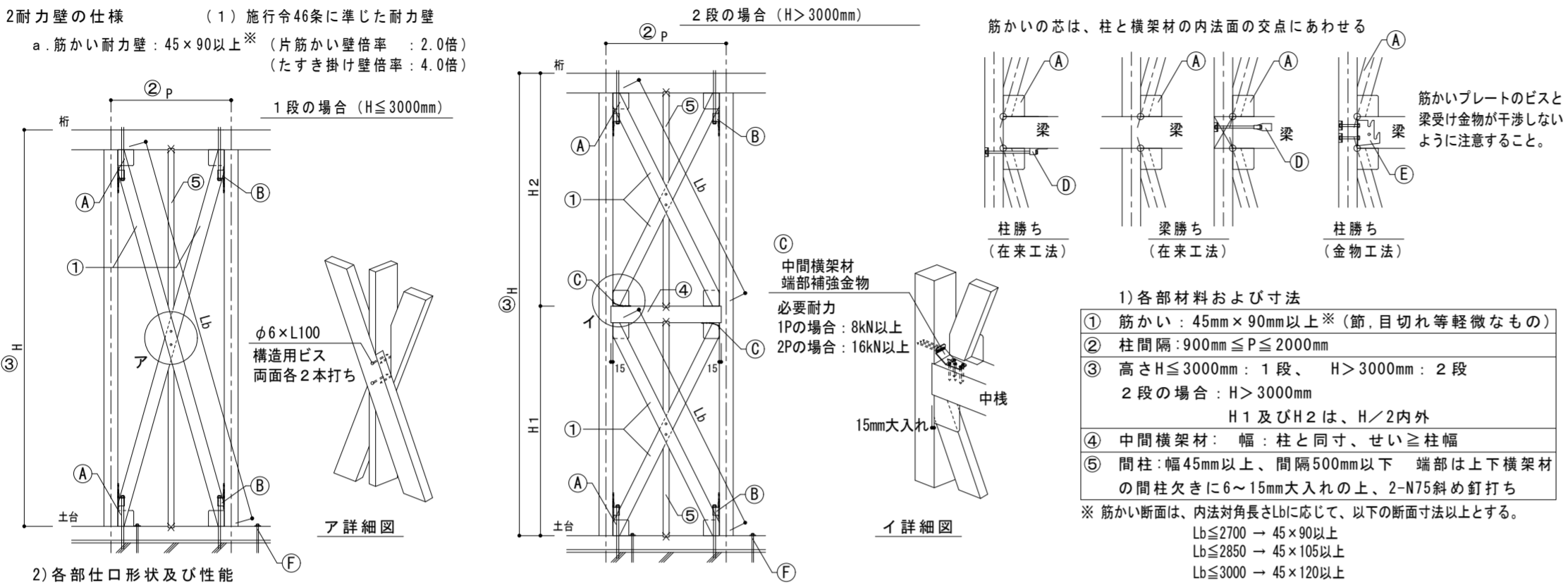
甲府城周辺歴史文化交流施設建設(建築主体)工事  
木躯体工事 標準仕様書(2)

区分 建築構造  
No. 05

# 木躯体工事 標準仕様書 (3)

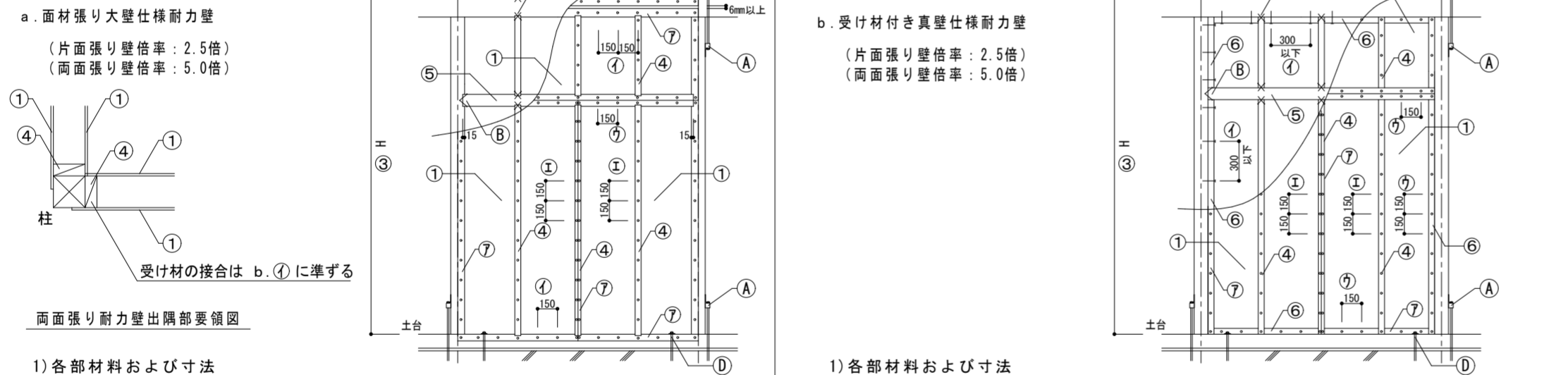
## 3-1 耐力壁

1 共通事項  
 各部仕口形状は、(3)高耐力仕様構造用合板張り耐力壁を除き、木造軸組接合部標準図(2)5.軸組標準接合部に準ずる。  
 耐力壁の面材に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする。2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること。  
 耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐久力を持つスペーサー材を挿入し隙間を埋めること。  
 柱の有効細長比(断面の最小二次半径に対する座屈長さの比)は、150以下とすること。



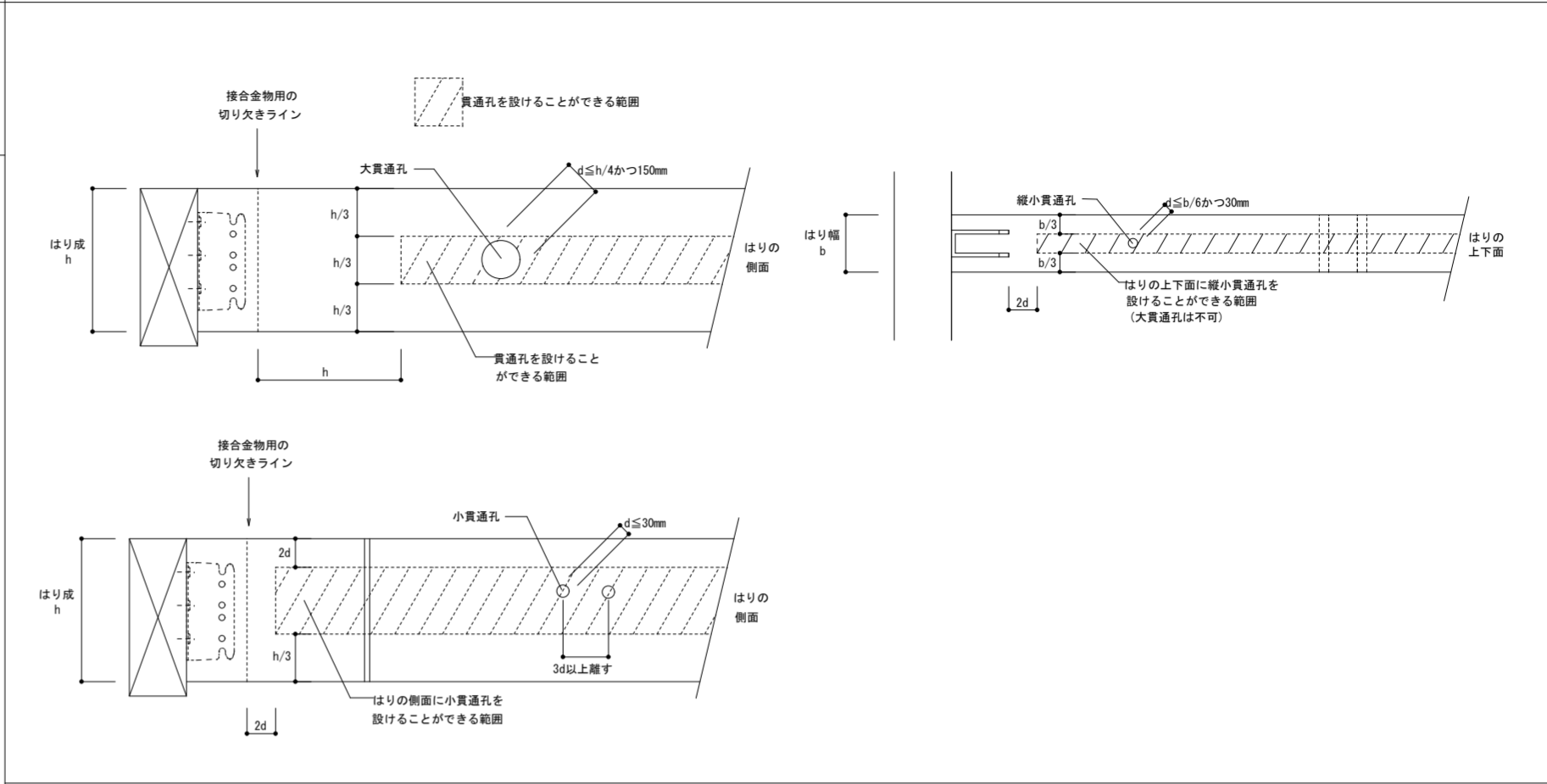
- 2) 各部仕口形状及び性能
- Ⓐ 筋かい端部: 突き付けの上 筋かいプレート(2倍用)を使用 在来工法及び金物工法とも柱梁ビスどめタイプを基本とする
  - Ⓑ 各階の柱頭柱脚部: ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
  - Ⓒ 中間横架材端部: 15mm大入れの上、必要耐力以上の金物を横向きに使用 必要耐力: 1Pの場合→8kN以上、2Pの場合→16kN以上
  - Ⓓ 梁端部在来仕口部補強金物: 耐力壁の許容せん断力以上の引張耐力を有するものとする Ⓔ 梁端部金物工法梁受け金物: 耐力壁の許容せん断力以上の引張耐力を有するものとする
  - Ⓕ 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設置

## (2) 昭56建告1100号に準じた耐力壁

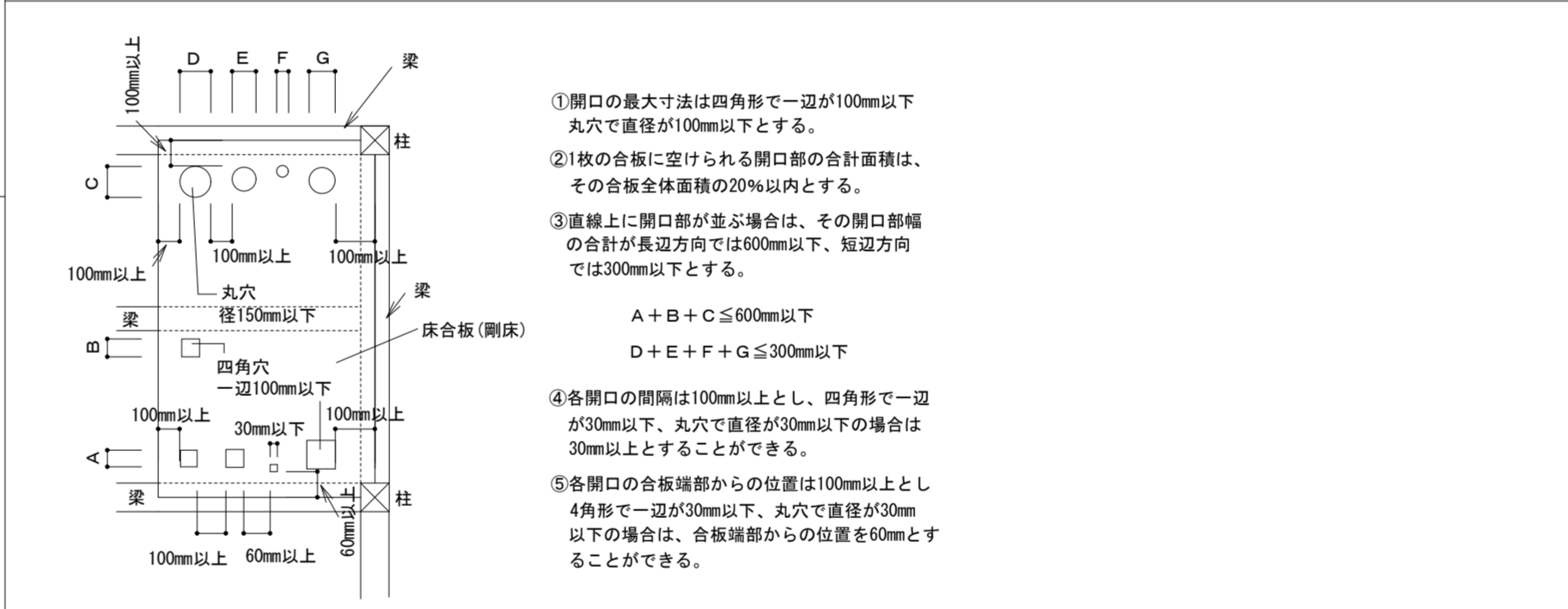


- 3) 構造用合板の釘打ち方法
- 構造用合板(又はOSB)の4周を釘打ちする  
 柱及びはりに対するかかり寸法: 22.5mm 以上  
 合板に対するへり空き: 10mm 以上  
 柱はりのへり空き: 12.5mm 以上  
 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
- ① 横架材・柱: N50@150mm 以下 ② 間柱: N50@150mm 以下

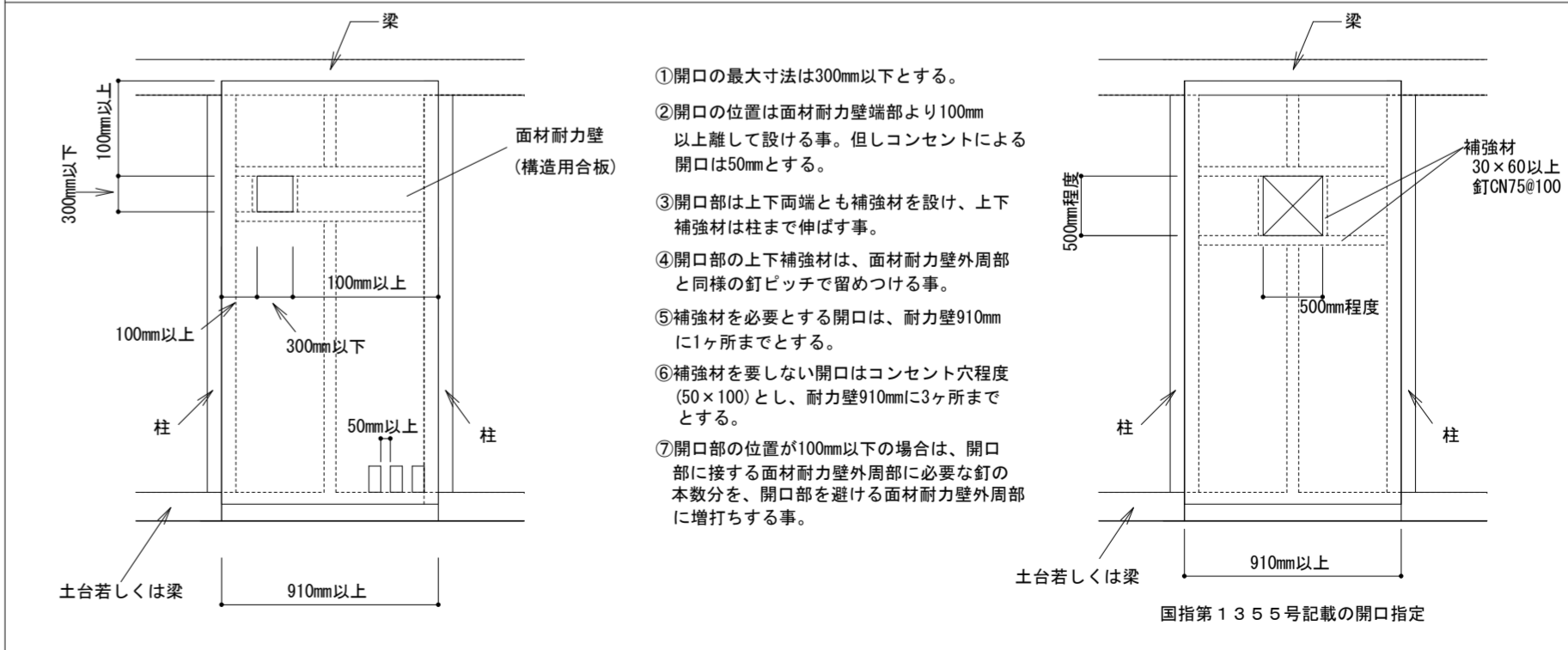
## 3-2 梁の貫通穴の基準



## 3-3 剛床の開口補強



## 3-4 耐力壁の開口補強



# 構造用集成材躯体木工事仕様書

## 1 共通事項

1.1 本仕様書は構造用集成材を主要構造部に用いた木工事に適用する。

1.2 一般事項  
 a. 集成材や接合金物等の部材の製作にあたっては製作要領書を提出し、係員の承認を受けるものとする。

1.3 準拠規準  
 a. 大断面木造建築物設計施工マニュアル（日本建築センター）1988年版  
 b. 木質構造設計規準・同解説（日本建築学会）2006年版  
 c. 農林水産省「構造用集成材の日本農林規格」第683号

## 2 材料一般

2.1 集成材  
 a. 集成材はISO認証取得工場の製造品と同等のものとする。  
 b. 集成材の品質は、「構造用集成材の日本農林規格」（農林水産省告示683号）とする。

c. ラミナの縦継ぎは、フィンガージョイント（フィンガー長さ15mm以上）とし、ラミナ厚は4.0mm以下を標準とする。  
 d. 樹種  
 ■ カラマツ  
 □ RW  
 □ スギ

e. 等級（対称異等級構成構造用集成材）  
 □ E135 - F375  
 □ E105 - F300（施行令第4.6条2項適合材料）  
 ■ E95 - F270  
 □ E85 - F255  
 □ E75 - F240  
 □ LVL 120E-385F 55V-47H（施行令第4.6条2項適合材料）

2.2 製材  
 ■ 製材（ヒノキ 一等材以上）  
 ■ 製材（スギ 一等材以上）

2.3 接合金物  
 a. 接合金物の品質は、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）等を準用し、材質はSS400または、これと同等品とする。  
 b. 使用する鋼材の品質については、規格証明書を提出する。

2.4 ボルトおよびナット  
 a. 規格  
 ボルトおよびナットの規格は特記なき限り下記による。  
 ・JIS B 1180（六角ボルト）  
 ・JIS B 1181（六角ナット）  
 ・JIS B 0205（メートル並目ねじ）

b. 品質  
 ボルトおよびナットの品質は、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）等を準用し、材質はSS400または、これと同等品とする。

2.5 ドリフトピン・ラグスクリューボルト  
 形状および品質に関しては、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）等を準用し、材質はSS400または、これと同等品とする。

2.6 丸座金  
 ・ボルトに使用する座金の寸法・厚さは下記による。

（単位：mm）					
ボルト径	12	16	20	22	24
座金の厚さ	3.2	4.5	6	6	6
丸座金の直径	40	60	70	80	80

・引張りボルトに使用される座金の寸法および厚さは、別途計算する。  
 ・計算によって安全を確保できた場合はこの限りではない。

2.7 アンカーボルト  
 a. 規格・形状  
 アンカーボルトの形状および寸法は特記による。特記がない場合は、JIS B 1178（基礎ボルト）によるL型またはJ型とし、ねじの特級は2級以上とする。  
 b. 品質  
 アンカーボルトの品質は特記による。特記がない場合、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）による。材質はSS400または、これと同等品とする。

## 3 工作一般

3.1 施工図（承認図）  
 施工図は設計図書をもとに、全体の納まりや詳細などについて十分検討した上で作成し、係員の承認をうける。

3.2 現寸図  
 a. 加工図及びCAD寸法図を原則とする。  
 b. 部材製作が著しく困難な場合は、必要に応じて現寸図模型を製作する。

3.3 鋼製巻尺の確認  
 a. 鋼製巻尺は、JIS B 7512（鋼製巻尺）による1級品を用いる。同一工事に用いる巻尺は、それら相互の誤差の少ないものを使用する。  
 b. 工場製作用巻尺と現場作業用巻尺とを照合して、その誤差を確認する。照合に関して、巻尺に対する張力は50Nとする。

3.4 墨付け  
 墨付けは加工図にしたがって、定規・型板および鋼製巻尺を用いておこなう。

3.5 集成材部材の寸法精度  
 製品の寸法精度は下記による。  
 a. せ い ±1.5%以内または±2.0mm以内  
 b. 幅 ±1.5%以内または±2.0mm以内  
 c. 長 さ ±3.0mm以内  
 d. 断面直角度 ±1/100以内 かつ ±2.0mm以内

3.6 ボルト穴  
 a. 穴径  
 ボルトの公称軸径dに対する穴径は下記による。  
 ・ボルト d+1.0mm以内（M16未満） d+2.0mm以内（M16以上）  
 ・ドリフトピン d±0mm  
 b. 精度  
 穴あけの許容差は下記による。  
 ・穴の心ずれ ±2.0mm以内  
 ・穴間隔のずれ ±2.0mm以内  
 c. スリット加工  
 スリット加工の巾は下記による。  
 ・挿入鋼板 4.5mmの場合 6mm  
 ・挿入鋼板 6mmの場合 8mm  
 ・挿入鋼板 9mmの場合 11mm  
 ・挿入鋼板 12mmの場合 14mm

3.7 表面仕上げ  
 面取り形状、表面仕上げの程度は、要求に応じた仕様とする。

3.8 集成材部材の工場塗装  
 a. 素地調整  
 塗装前に塗装面のよごれ、付着物を撤去する。  
 b. 養生塗装として、パトンLVL（大谷塗料）F☆☆☆☆同等品以上の木材保護塗料を1回塗りとし、塗装膜に十分乾燥するまで養生する。

3.9 接合金物の寸法  
 a. 製品の寸法精度  
 ・幅、長さ ±2mm以内  
 ・ボルト穴径及び穴心距離 ±1mm以内  
 b. ボルト穴  
 ・ボルト、ドリフトピン、ラグスクリュー M12：D+1.0mm、M16以上：D+1.5mm

3.10 接合金物の溶接  
 a. 溶接工は下記による技量を有する者とする。  
 ・手溶接 JIS Z 3801（溶接技術検定試験における試験方法および判定基準）  
 ・半自動溶接 JIS Z 3841（半自動溶接技術検定試験における試験方法および判定基準）

3.11 接合金物の防錆処理（塗装については、工場塗装範囲を記す）  
 a. 屋内  
 ■ JIS K5621（一般錆止めペイント）1種 1回  
 □ JIS H8641（溶融亜鉛メッキ）2種  
 b. 屋外  
 □ JIS K5621（一般錆止めペイント）1種 1回  
 ■ JIS H8641（溶融亜鉛メッキ）2種  
 c. ボルト・ナット・座金  
 ■ JIS H8610（電気亜鉛メッキ）  
 □ JIS H8641（溶融亜鉛メッキ）2種 ※屋外のみ

## 4 製品検査

4.1 一般事項  
 a. 製品は、工場製作完了後部材の検査をおこない検査記録を提出して、係員の確認を受ける。  
 b. 製品検査の検査項目および検査要領は、あらかじめ定められた方法によりおこなう。

4.2 検査の項目  
 a. 形状、寸法  
 部材長さ、断面寸法、曲り、ねじれ、湾曲の角度、断面直角度などの基本寸法を計測する。  
 b. 取合い部  
 現場建方に支障がないよう、接合部の角度、ボルト穴径、ボルト穴相互位置、接合金物の取付け具合などを計測または確認する。  
 c. 外傷  
 部材表面のきず、接合金物の外傷などを計測または確認する。

## 5 搬入及び運搬時養生

5.1 輸送計画  
 製品の輸送にあたっては、建方計画に支障の生じないように道路状況、現場の作業の手順などを考慮し、十分な検討をおこなう。

5.2 組立て符号  
 部材はすべて、加工図（部材番号、取合い符号などを記入）により符号をつける。

5.3 輸送  
 積み込み、荷降ろしまたは輸送中に製品がひずみ・変形などを生じないように荷台を調整し、長尺物、異形物などは適切な養生方法を講ずる。

## 6 建方

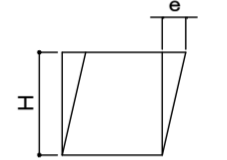
6.1 一般事項  
 a. 現場建方については、予め建方計画書を提出し係員の承認を受けるものとする。  
 b. 建方計画にあたっては、建方精度に規定する諸寸法を保持するよう部材の組立て順序を立案し、あわせて作業期間中の安全を考慮する。  
 c. 建方に用いる機械は、最大吊荷重、作業半径および建物の規模・形状により最適機種を選定しその機械の特性に適した使用方法を計画するとともに、不慮の衝撃などに対しても安全であるようにする。  
 d. 建方中における仮設用の機械、資材の仮置きおよび強風時に、各部材・接合部に生ずる応力に対しては、短期許容応力度を超えないようにし、倒壊防止に有効な措置をほどこす。

6.2 搬入および仕分け  
 a. 製品の受入れにあたっては、工場からの送り状と照合し、数量を確認する。  
 b. 製品は、建方順序に従い仕分けして集積する。  
 c. 集積の際、部材は適当な受台の上に置き、材に曲がり・ねじれなどの損傷を与えないよう注意する。  
 d. 部材の曲がり・ねじれなどを発見した場合は、建方に先立ちこれを修正する。

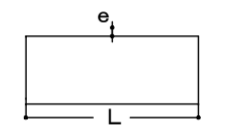
6.3 地組  
 建方に先立って地組をおこなう場合は、寸法精度を保持するために有効な架台・治具などを用いておこなう。

6.4 建方  
 a. 建方計画にもとづき、順次建方をおこなう。この際原則として、筋かい、方づえなどの斜材を同時に取付けながら進める。  
 b. 必要に応じて仮設支柱を立てて架構を保持する。この仮設支柱は本接合が完了するまで保持する。  
 c. 建方完了後または定められた工程の建方が完了した場合は、建方の検査を行う。ただし、検査記録により、その一部または全部を省略することがある。  
 d. 本接合は、建入れひずみを修正したのち、あらかじめ定められた順序、工法にもとづいておこなう。  
 e. 建て方の作業中、風圧力その他の荷重に対しては、必要に応じ臨時の筋かいその他の支持材で補強する。  
 f. トラス、その他の吊上げまたは建方にあたっては、適切な補強をおこなう。  
 g. 建方の作業中、横架材上に材料または機械などの重量物を積載し、あるいは柱に大きな引張力を与える場合は、係員の承認をうけ、かつ必要な補強をおこなう。  
 h. 建方の精度基準は特記による。特記がない場合は下記による。

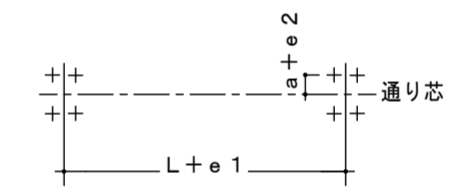
① 建物の倒れ  
 $e \leq H/2,500 + 10\text{mm}$   
 かつ  
 $e \leq 30\text{mm}$



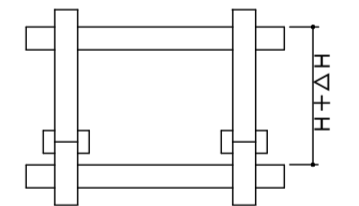
② 建物の湾曲  
 $e \leq L/2,500$   
 かつ  
 $e \leq 25\text{mm}$



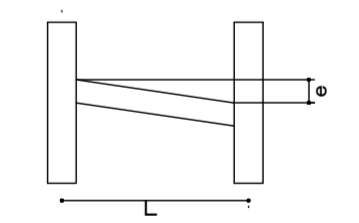
③ 柱据付け面の高さおよびアンカーボルトの位置  
 ・柱据付け面の基準高さからの誤差は±3mm以下  
 ・柱間接間中心距離の誤差  $e1 \leq \pm 1\text{mm}$   
 ・通り芯からの誤差  $e2 \leq \pm 3\text{mm}$



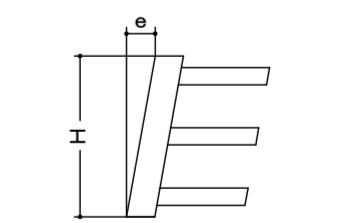
④ 階高  
 $-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$



⑤ はりの水平度  
 $e \leq L/1,000 + 3\text{mm}$   
 かつ  
 $e \leq 10\text{mm}$



⑥ 柱の倒れ  
 $e \leq H/1,000$   
 かつ  
 $e \leq 10\text{mm}$



## 7 防腐・防蟻処理

GL+1.0mまでの木材の部分には、防腐防蟻処理を行う。

# スリーエスG-cube工法 特記仕様書

## 1. 工事概要

本地業は、セメントスラリーを用いたスラリー系機械攪拌式深層混合処理工法による地盤改良地業である。  
この工法は、セメント系固化材を原地盤と攪拌混合し、現地盤をコラム状に固化する地盤改良を行うものである。

## 2. 一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（平成14年11月30日 財団法人 日本建築センター、以下指針という）による。

## 3. 特記事項

- コラムの径、掘削深度（改良長+空掘長）、本数配置等は設計図書による。但し、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。
- コラム設計基準強度は $F_c=750\text{kN/m}^2$ とする
- 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。
- セメントスラリーを用いた機械攪拌式深層混合処理工法のスリーエスG工法協会に所属する会員とする。
- 工法の選定は、(財)日本建築総合試験所において下記の性能証明を有する工法を選定する。
  - 変動係数25%が砂質土、粘性土、ローム地盤で採用できること。
  - 小規模建築物に対する品質管理が規定されていること。
  - 材齢7日強度で合否判定が可能であると認定されていること。
- 品質及び施工管理は、スリーエスG工法品質・施工管理マニュアルに基づいて行うものとする。

## 4. 施工計画

工事に先立ち、施工計画書を監査員に提出する。施工計画書は次の事項を明記する。

- |                                      |                       |
|--------------------------------------|-----------------------|
| (1) 地盤概要                             | (5) 施工機器及び仮設備と配置      |
| (2) 工事内容（コラム径・コラム長・空掘り長・コラム数・設計基準強度） | (6) 配合管理・施工管理・品質管理の方法 |
| (3) 工事期間及び工程                         | (7) 建築技術性能証明書         |
| (4) 工事要領（使用固化材・配合・攪拌翼の昇降速度・吐出量等）     | (8) その他、必要事項          |

## 5. 施工機械

- 攪拌翼はセメントスラリーと原位置土を確実に攪拌混合するための共回り現象を防止する攪拌装置を装備すること
- 攪拌翼は上下にセメントスラリー吐出口を設け、掘削時に下吐出口から引上げ時に上吐出口からセメントスラリーを吐出可能な吐出切替構造であること
- 所定の施工管理項目の計測及び記録ができる管理装置を用いること
- 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したものでリーダー付及び自走式タイプであること
- ミキシングプラントは所定吐出量を十分供給できる能力を有していること

## 6. 配合試験

- 本工事に先立ち現場から試料土を採取して、所定の室内配合試験を実施し、所要の強度が得られるよう配合条件を決定する。

試験名	室内配合試験
試料箇所数	1箇所

## 7. 配合管理

- セメントスラリーに使用する固化材は、セメント及び、セメント系固化材とする。
- 配合強度

配合強度  $X_f$  は設計基準強度  $F_c$  の1.7倍に設定する。

$$X_f = F_c \times 1.7$$

$X_f$  : 配合強度 (kN/m<sup>2</sup>)

$F_c$  : 設計基準強度 (kN/m<sup>2</sup>)

- 配合量（固化材量とW/C）

室内配合試験の結果あるいは過去の工事実績に基づいて、配合強度を満足するように決定する。

$$X_{128} = X_f / \alpha_f$$

$X_{128}$  : 室内配合強度 (28日強度) (kN/m<sup>2</sup>)

$X_f$  : 配合強度 (kN/m<sup>2</sup>)

$\alpha_f$  : 現場/室内強度比 (強度比0.65; 実績より)

$$X_{17} = (X_f / \alpha_f) / \sigma_\gamma$$

$X_{17}$  : 室内配合強度 (7日強度) (kN/m<sup>2</sup>)

$X_f$  : 配合強度 (kN/m<sup>2</sup>)

$\alpha_f$  : 現場/室内強度比 (強度比0.65; 実績より)

$\sigma_\gamma$  : 材齢28日/材齢7日強度比

室内配合試験 (3日強度:  $X_{13}$ ) により決定する場合は、 $X_{17}$  を材齢7日/材齢3日強度比で割った配合強度とする。

暫定配合量 350 (kg/m<sup>3</sup>)、W/C = 70% 【最終的には配合試験により決定する。】

## 8. 品質検査

- 設計対象層及び調査箇所数。
  - 設計対象層は最弱層とし、砂質土、粘性土、ロームの土質区分では（粘土）とする。
  - 設計対象層（最弱層）の深度は、GL- (2.10 ~ 4.48m) 付近とする。

表 1. 調査箇所数

項目	採取部位	採取箇所数	備考
小規模建築物における品質検査	頭部モールドコア	2箇所	材齢 7日
	深部モールドコア	1箇所	材齢 7日

注) 深部モールドコアにおいて、 $X_{i7} < F_c$  の場合は、材齢28日強度を確認する。  
頭部モールドコアの抜き取り数は、改良体100本に1箇所以上とする。

- メーターサンプラーによる品質管理

設計対象層に対しメーターサンプラーにてサンプリングを行う。

改良部の連続性、土塊混入状況、及び不良率の確認をフェノール試験、指圧試験により行う。

でサンプリングすることによりメーターサンプラーの代用を行う。

高温養生 (60℃) による材齢1日圧縮試験を行う。

これらにより、健全な品質を確認しモールドコア試験を実施する。

- 合否の判定（小規模建築物における品質検査）

- 抜き取り 1 箇所にに対して 3 個の供試体を採取する。
- 合否の判定はn個（コアの個数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。

$$X_i \geq F_c$$

$X_i$  : 検査対象層より採取した個々のコアの一軸圧縮強さ (材齢7日) ( $1 \leq i \leq n$ ) (kN/m<sup>2</sup>)、  
(もし  $X_{i7} < F_c$  の場合は、 $X_{i28} \geq F_c$  を確認する。)

$F_c$  : 設計基準強度 (kN/m<sup>2</sup>)


n : コアの抜き取り個数

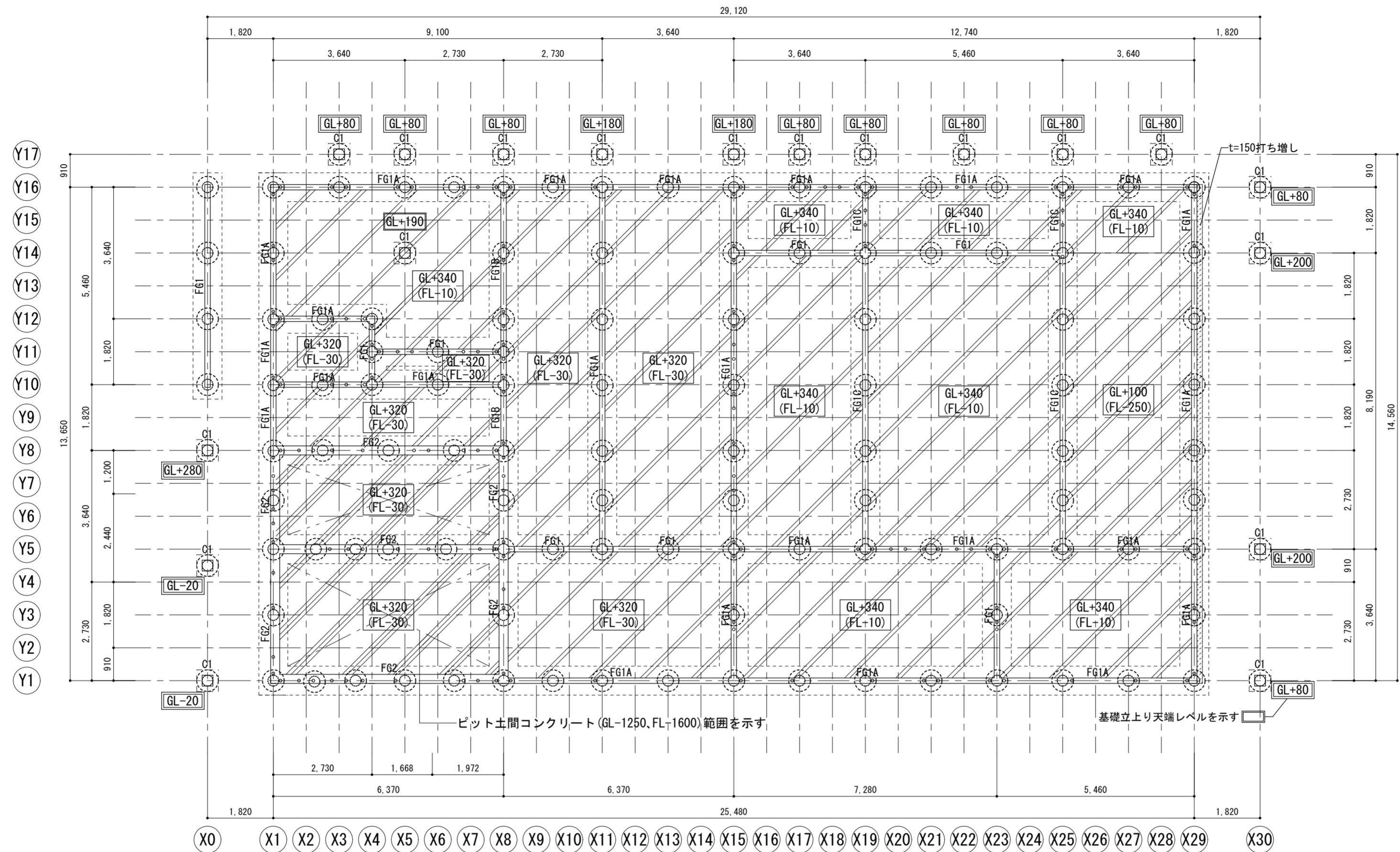
i : 個々の供試体

## 9. 工事報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。

- コラム伏図及び番号
- コラムの施工日
- コラムの径及び改良長
- 掘削深度
- 固化材の配合と使用量
- モールドコア圧縮強度試験結果

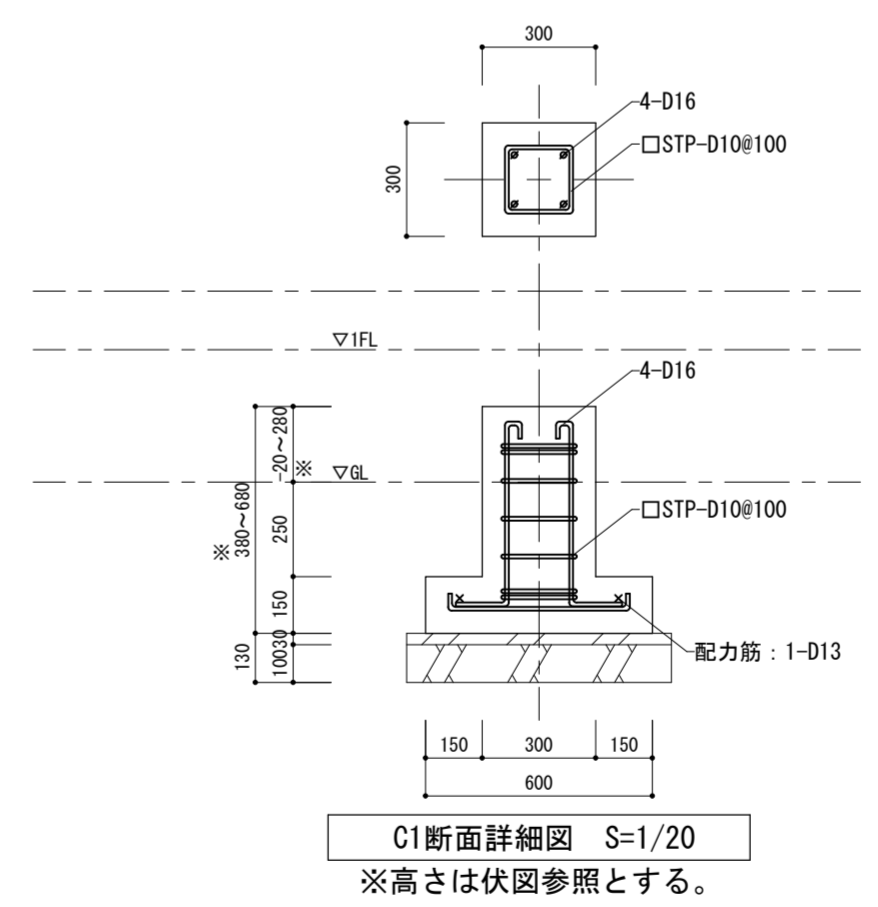
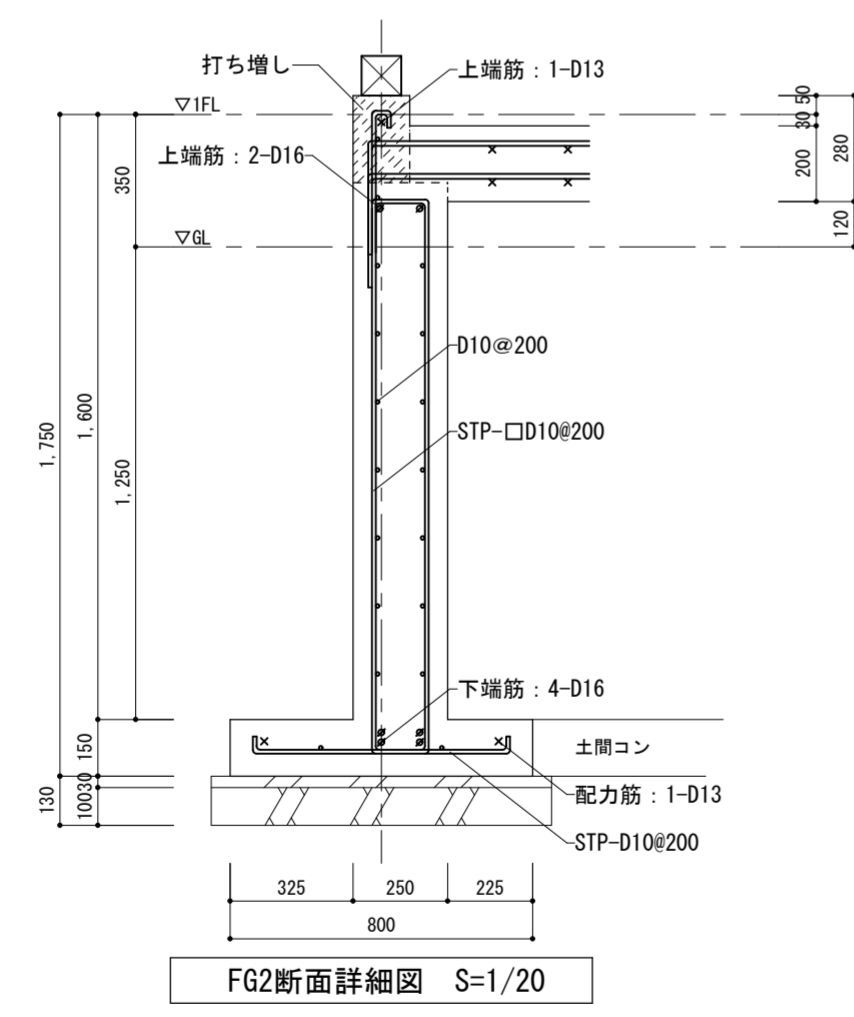
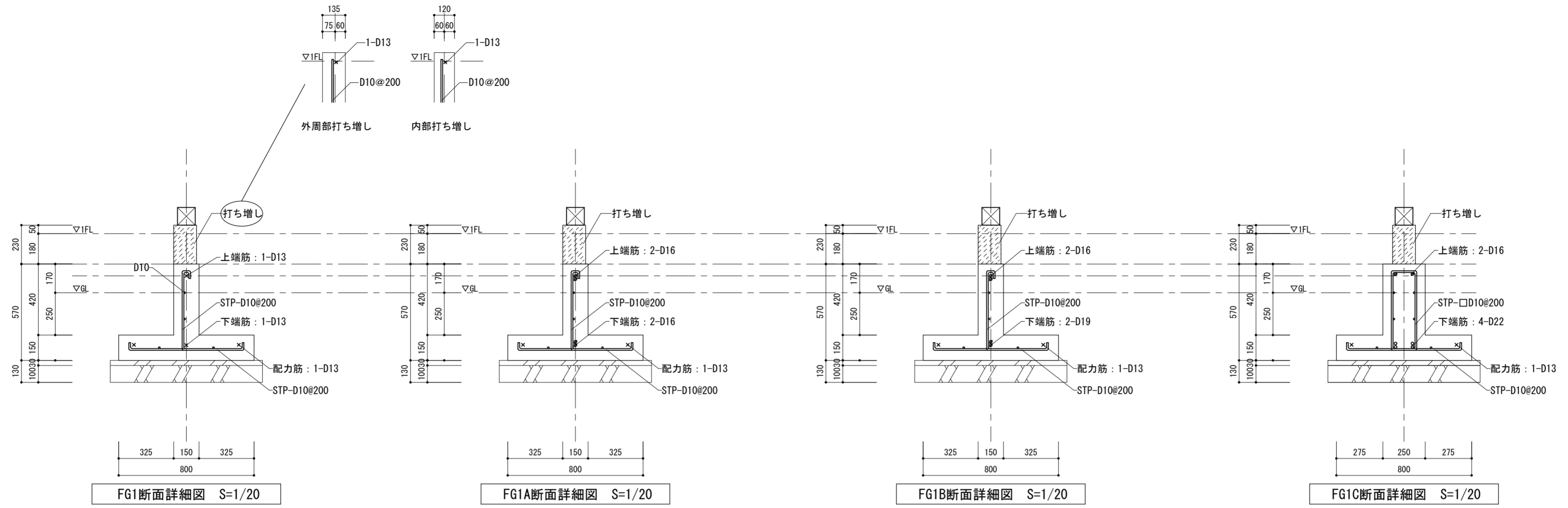
 株式会社 馬場設計 山梨県知事登録(梨)第1-30888号 一級建築士 大臣登録第267504号 管理建築士 代田 一郎	管理技術者 宮澤 昌文 一級建築士 第225432号	担当作者 渡邊 須美樹 一級建築士 第238035号 株式会社木構堂	設計年月 2023.3	縮尺 A2: 1:1 A4: 上記の50%	甲府城周辺歴史文化交流施設建設(建築主体)工事	区分 建築構造
	主任技術者 鬼頭 繁樹 一級建築士 第225730号	一級建築士事務所登録 岐阜県12343号	52-022		スリーエスG-cube工法特記仕様書	No. 08

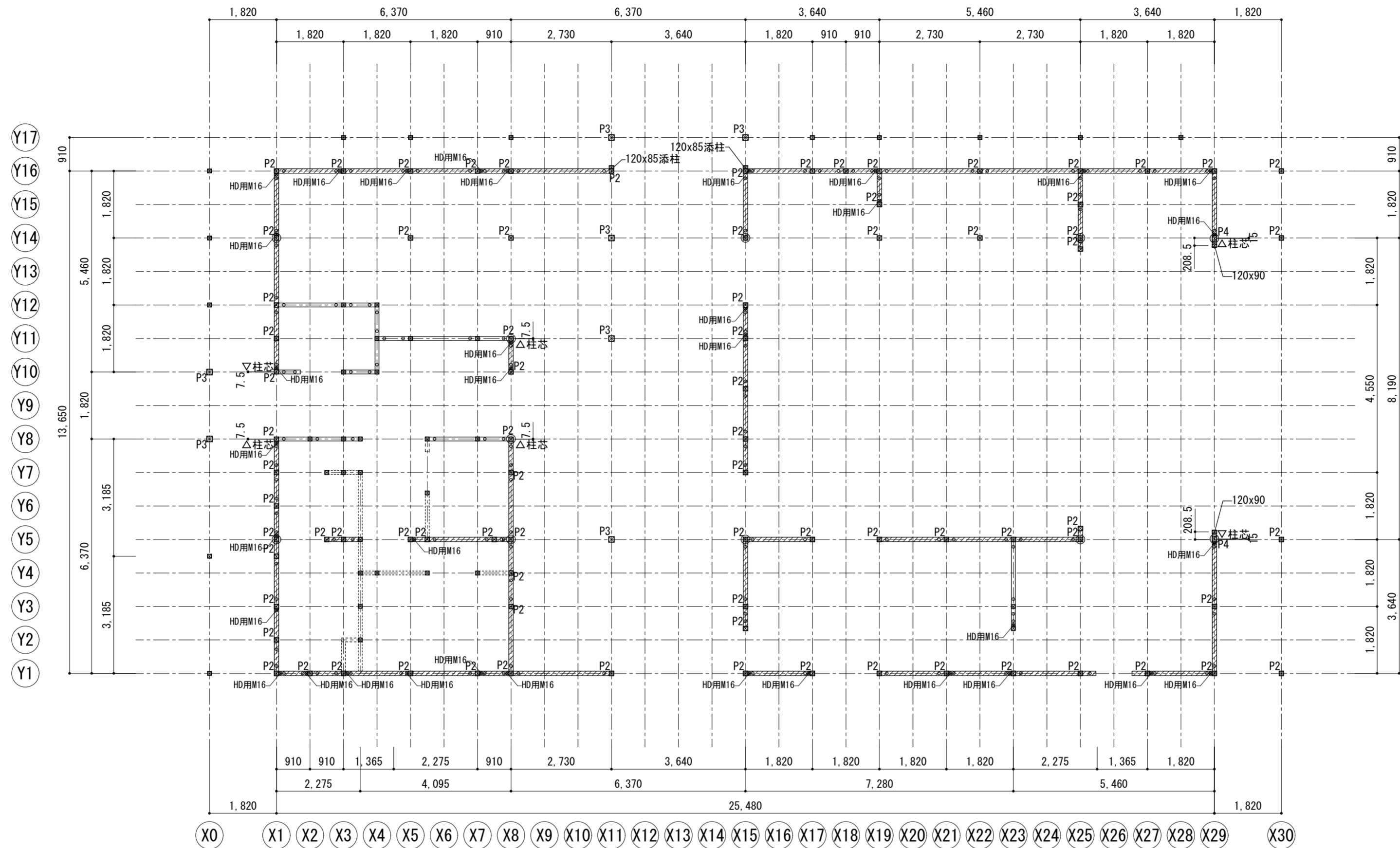


材料強度	
捨コンクリート	Fc=18N/mm <sup>2</sup>
基礎コンクリート	Fc=21N/mm <sup>2</sup>
土間コンクリート	Fc=18N/mm <sup>2</sup>
鉄筋	D16以下 : SD295 D19以上 : SD345

地盤	
地業	柱状地盤改良 (スリーエスG-cubu工法) 同等
地耐力	40kN/m <sup>2</sup> (長期)
土間コンクリート	t=150 配筋 : D13@200 シングル (タテ・ヨコ共)
構造スラブ	t=200 配筋 : D13@200 ダブル (タテ・ヨコ共)

○ 柱状改良φ600 L=8.5m





部位	記号	寸法	樹種	構造材	強度	備考
土台		105x105	ひのき	構造用製材		
		120x105	ひのき	構造用製材		
大引き		105x105	ひのき	構造用製材		
柱	P1	105x105	すぎ	構造用製材		
	P2	120x120	すぎ	構造用製材		
	P3	150x150	すぎ	構造用製材		
	P4	120x150	からまつ	構造用集成材	E95-F270	
	120x85	120x85	すぎ	構造用製材		添柱
	120x90	120x90	すぎ	構造用製材		

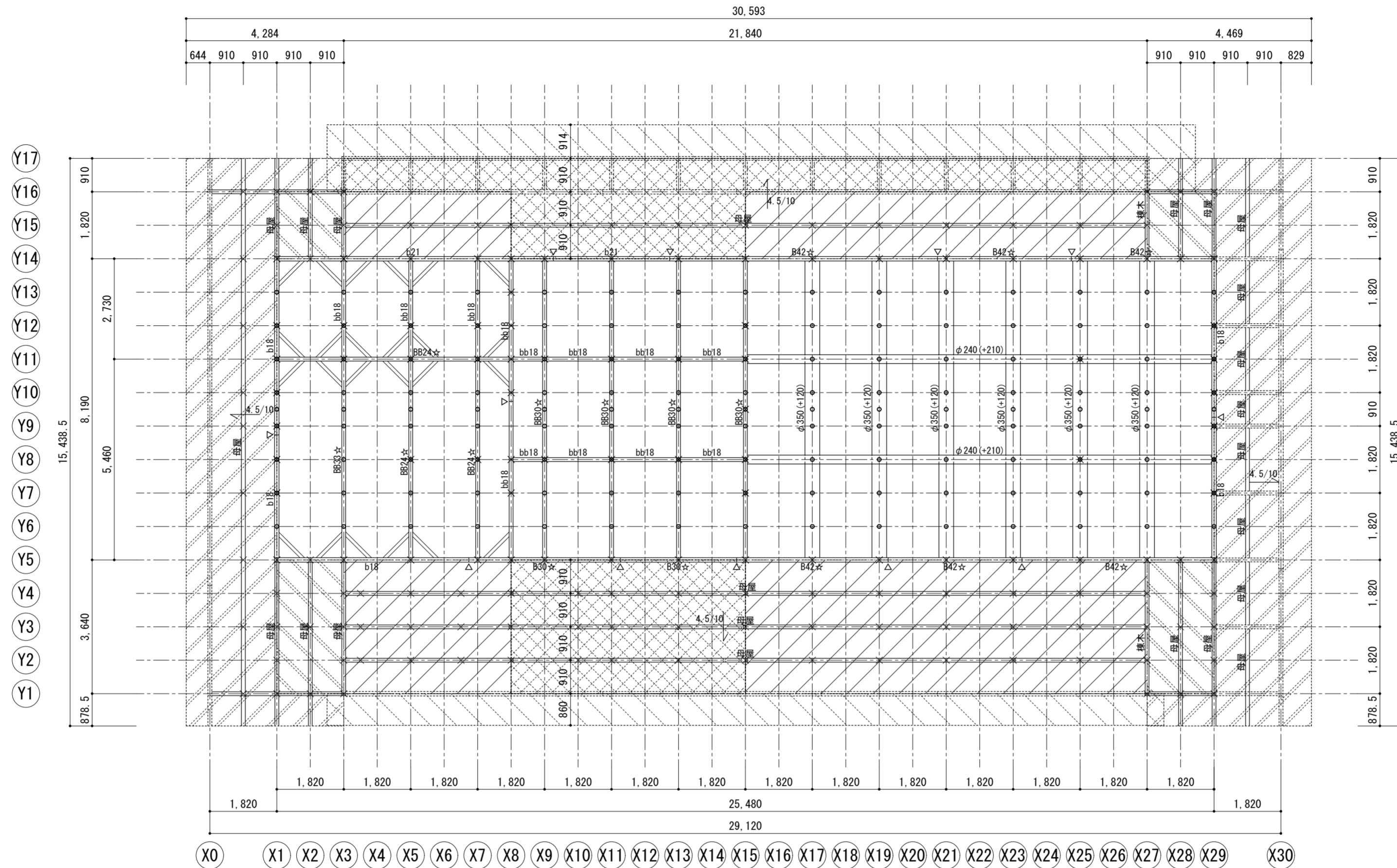
土台用 アンカーボルト	○ M12 埋込み長さ=250mm以上 土台端部、土台継ぎ手、筋かい端部に配置 その他@2000mm以内
柱脚用 アンカーボルト	⊗ M16 埋込み長さ=360mm以上 HD金物15~25kN用 その他メーカー仕様による

<凡例>  
○ : 1~2階通し柱

※特記なき柱はP1 (105x105) とする。  
 ※土台標準天端高さは設計GL+505とする。  
 ※土台用アンカーボルトは、土台端部、土台継ぎ手、耐力壁端部、その他2m以内に設置する。  
 ※HD用アンカーボルトは、金物耐力を考慮し適切な耐力の金物とすること。  
 ※120x85添柱はP2柱にボルト等で緊結させること。



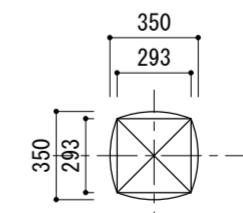
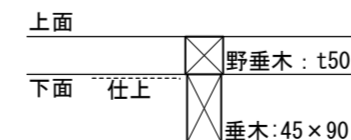




部位	記号	寸法	樹種	構造材	強度	備考
梁	bb18	105x180	すぎ	構造用製材		
	bb21	105x210	すぎ	構造用製材		
	BB24☆	105x240	からまつ	構造用集成材	E95-F270	
	BB30☆	105x300	からまつ	構造用集成材	E95-F270	
	b18	120x180	すぎ	構造用製材		
	b21	120x210	すぎ	構造用製材		
	B24☆	120x240	からまつ	構造用集成材	E95-F270	
B42☆	120x420	からまつ	構造用集成材	E95-F270		
丸太材	Φ350	Φ350	まつ類	構造用製材	サイズは左記参照	
小屋束	○	105x105	すぎ	構造用製材		
火打ち	///	90x90	すぎ	構造用製材		
母屋	母屋	105x105	すぎ	構造用製材		

- : 垂木 45×90@303 + 構造用合板t12 + 野垂木t50 + 構造用合板t12 (ラフターロック 転び止めあり)
- : 垂木 45×90@303 + 構造用合板t12 + 野垂木t50 + 構造用合板t12 + 【杉化粧野地板t12】 (ラフターロック 転び止めあり)
- : 垂木 45×90@303 + 構造用合板t12 + 野垂木t50 + 杉化粧野地板t12
- : 垂木 45×90@303 + 構造用合板t12
- : 垂木 45×90@303 + 杉化粧野地板t12

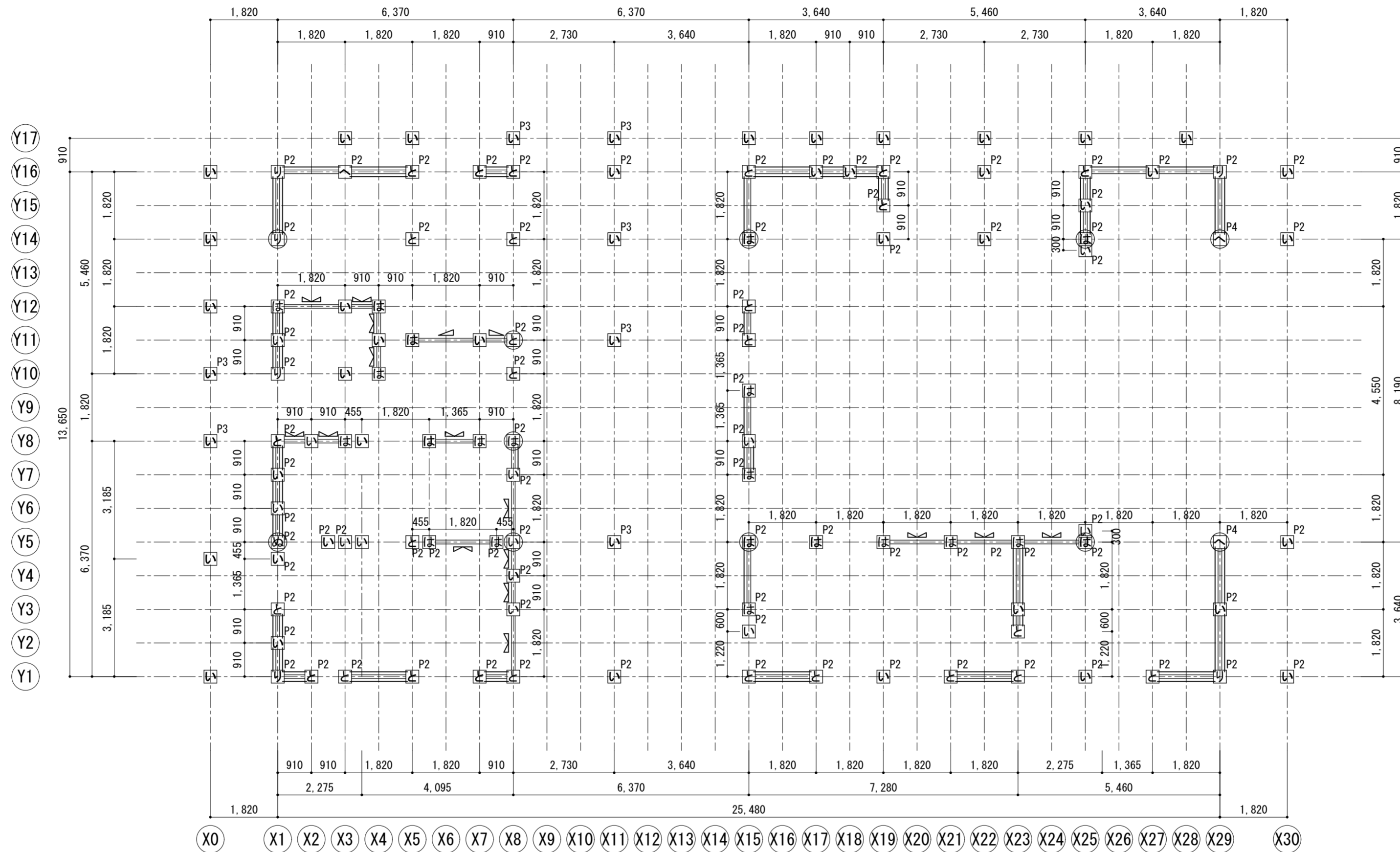
※上記は、上面 + 下面 + 【軒天・天井仕上】の順に示す。  
 ※構造用合板t12は釘N50@150とする。



※上記サイズ以上とする

- ※特記なき梁天端はGL+6050とする。(基準梁天端)
  - ※小屋裏にはXY方向共くも筋かいを設けること。
  - ≒13x90@3000以内 釘50-2本止め
  - ※梁仕口、継手部は羽子板ボルト又は短冊金物で補強すること。
  - 梁せい300未満-1本引き、300以上-2本引き
  - ※小屋束は、かすがい2本打ちとする
  - ※垂木取り付け金物ST-12を使用
  - ※梁に継ぎ手を設ける場合は極力耐力壁内を避けること。
  - 否応なく耐力壁内に設ける場合は、短冊金物等の引き寄せ金物を両側2段に設けること。
- <凡例>  
 × : 下階柱・母屋下束  
 -◇ : 横架材継ぎ手



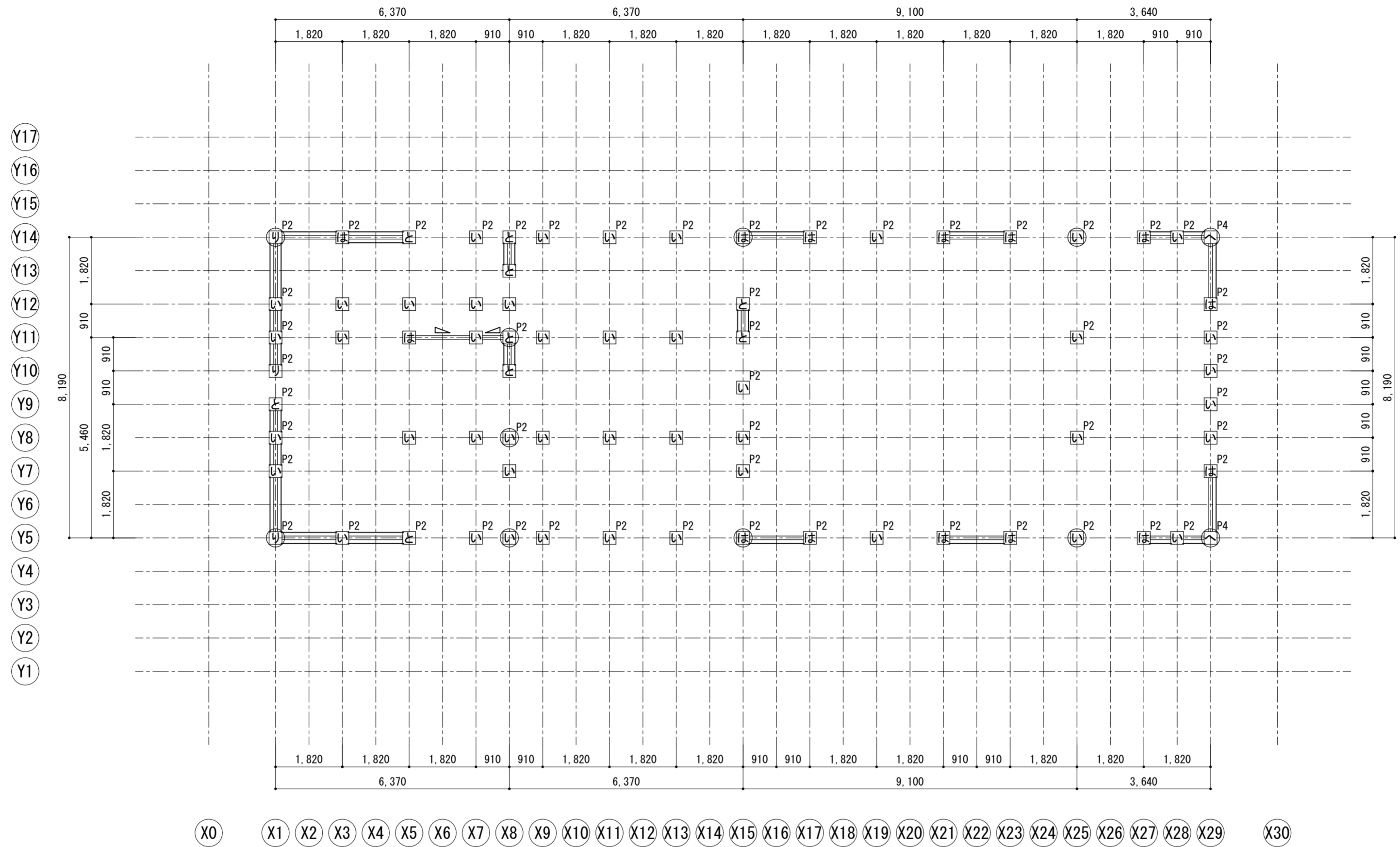


部位	記号	寸法	樹種	構造材	強度	備考
柱	P1	105x105	すぎ	構造用製材		
	P2	120x120	すぎ	構造用製材		
	P3	150x150	すぎ	構造用製材		
	P4	120x150	からまつ	構造用集成材	E95-F270	

耐力壁	
	筋かい 45x90 両筋かい 端部金物 BP-2 材種：すぎ 構造用製材 壁倍率4.0倍
	筋かい 45x90 片筋かい 端部金物 BP-2 材種：すぎ 構造用製材 壁倍率2.0倍
	構造用合板 t=9 片面張り 釘N50@150打ち 壁倍率2.5倍
	構造用合板 t=9 両面張り 釘N50@150打ち 壁倍率5.0倍

柱脚・柱頭金物	
い	かすがい打ち 又は 込み栓打込み
は	山形金物 同等品
へ	10kN用引寄せ金物(柱脚10kN用HD金物)
と	15kN用引寄せ金物(柱脚15kN用HD金物)
ち	20kN用引寄せ金物(柱脚20kN用HD金物)

<凡例>  
 : 1~2階通し柱

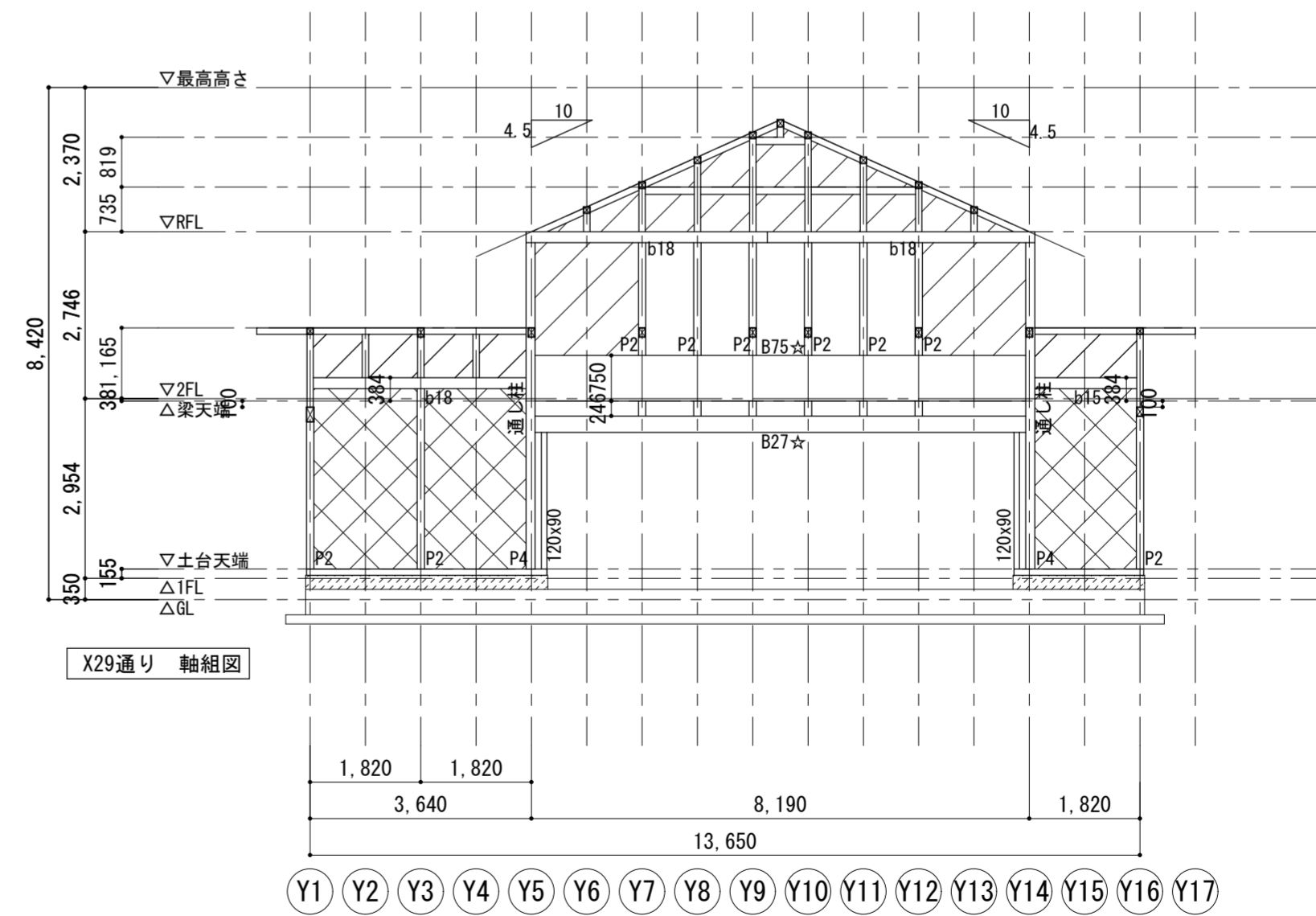
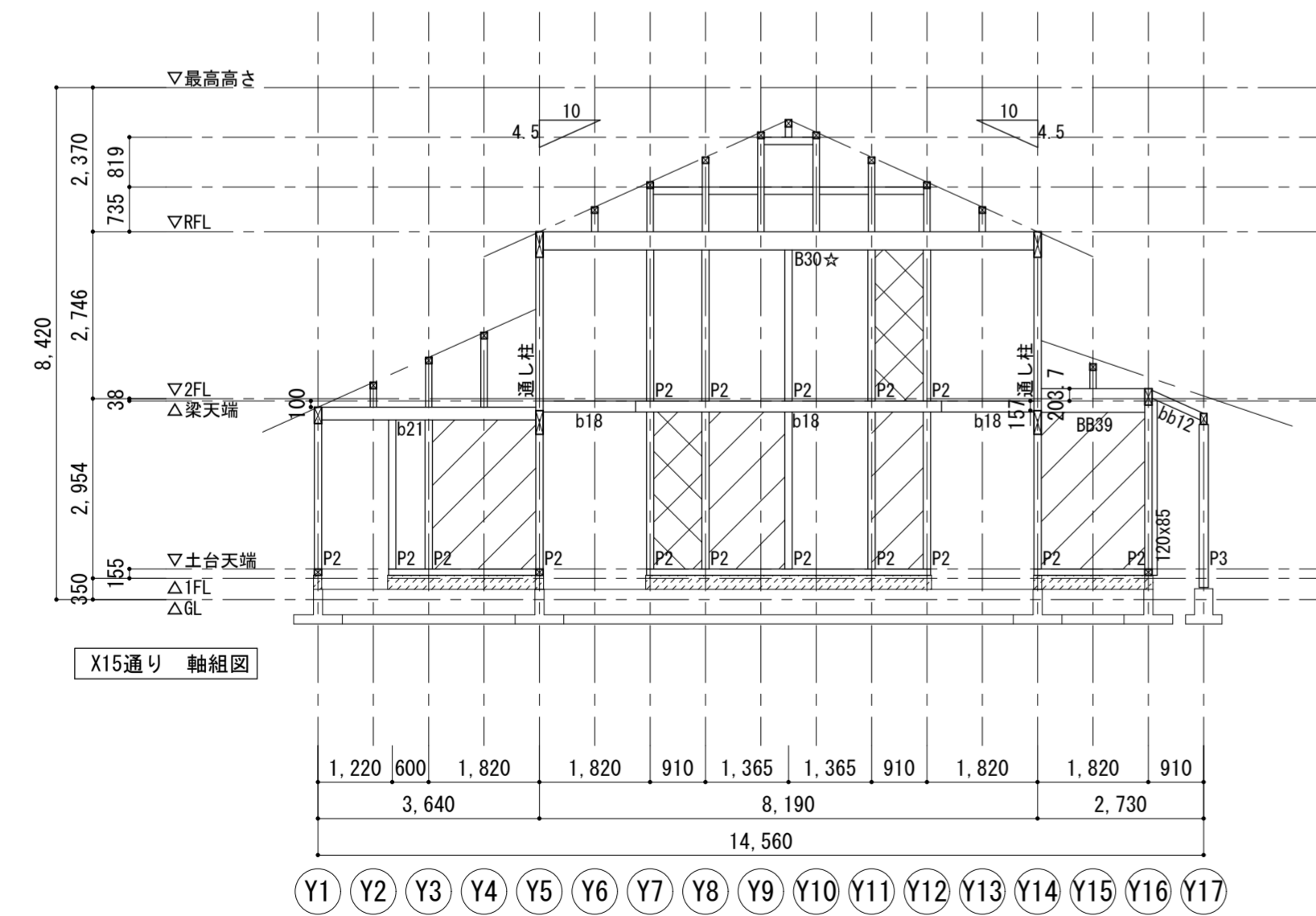
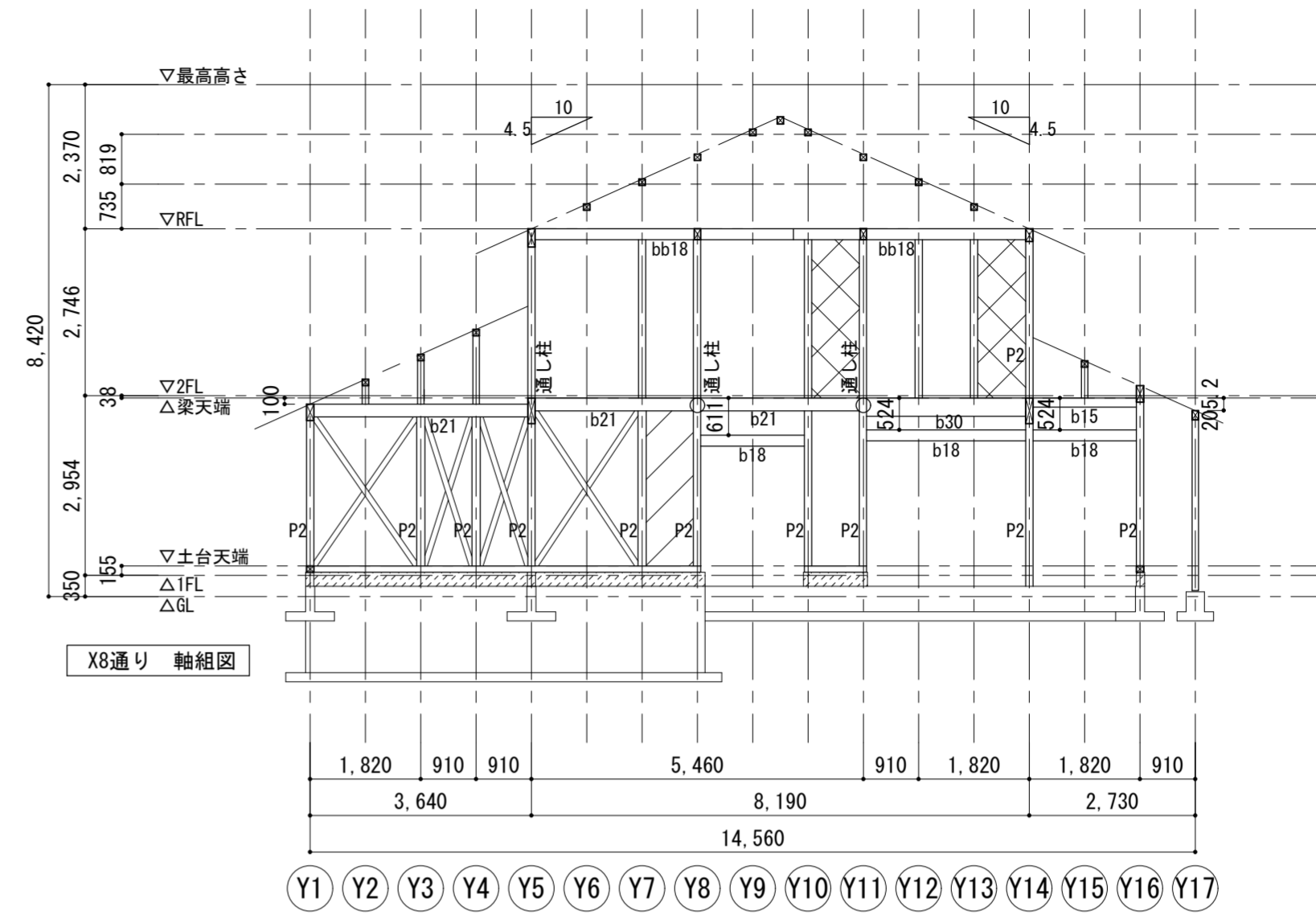
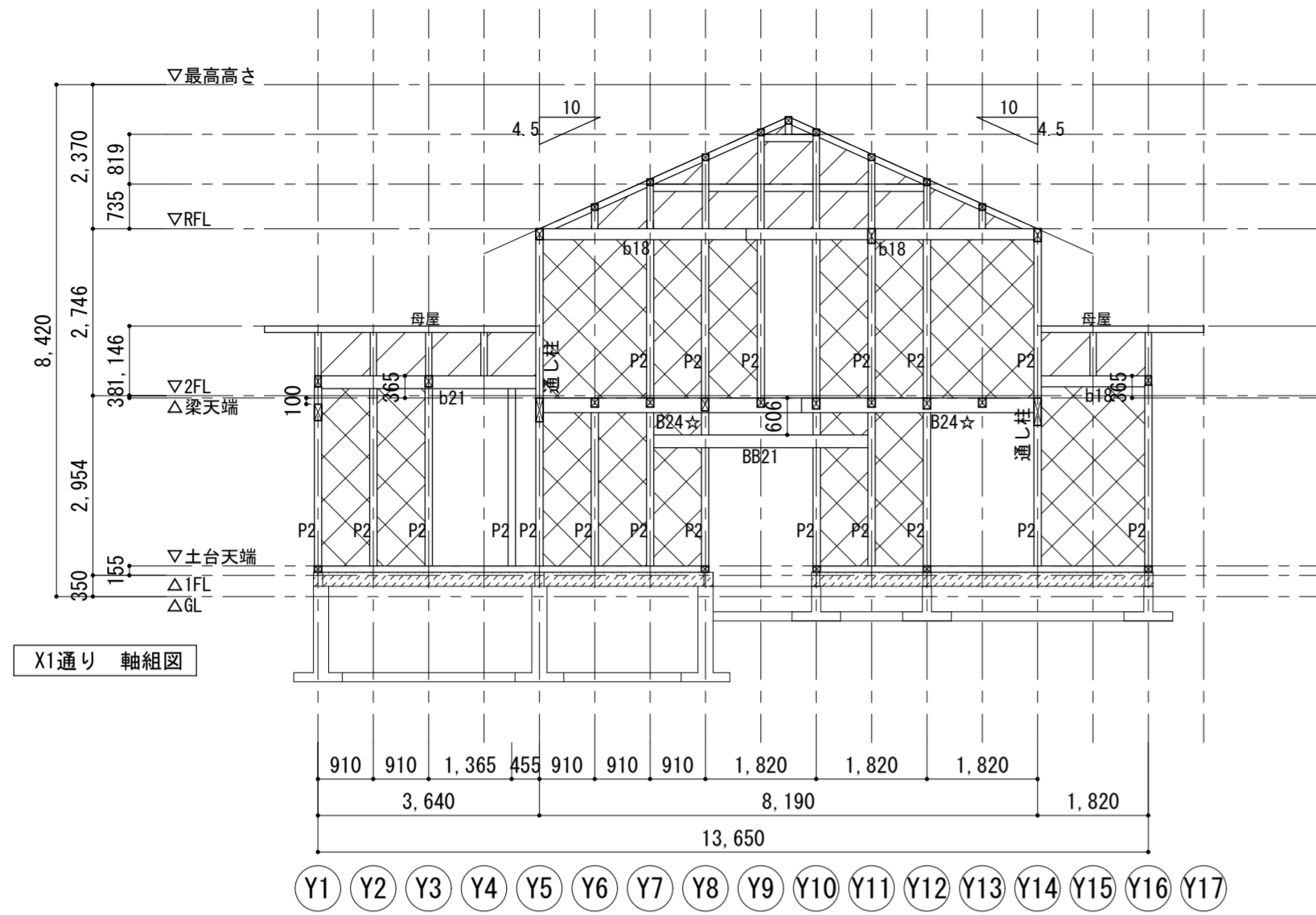


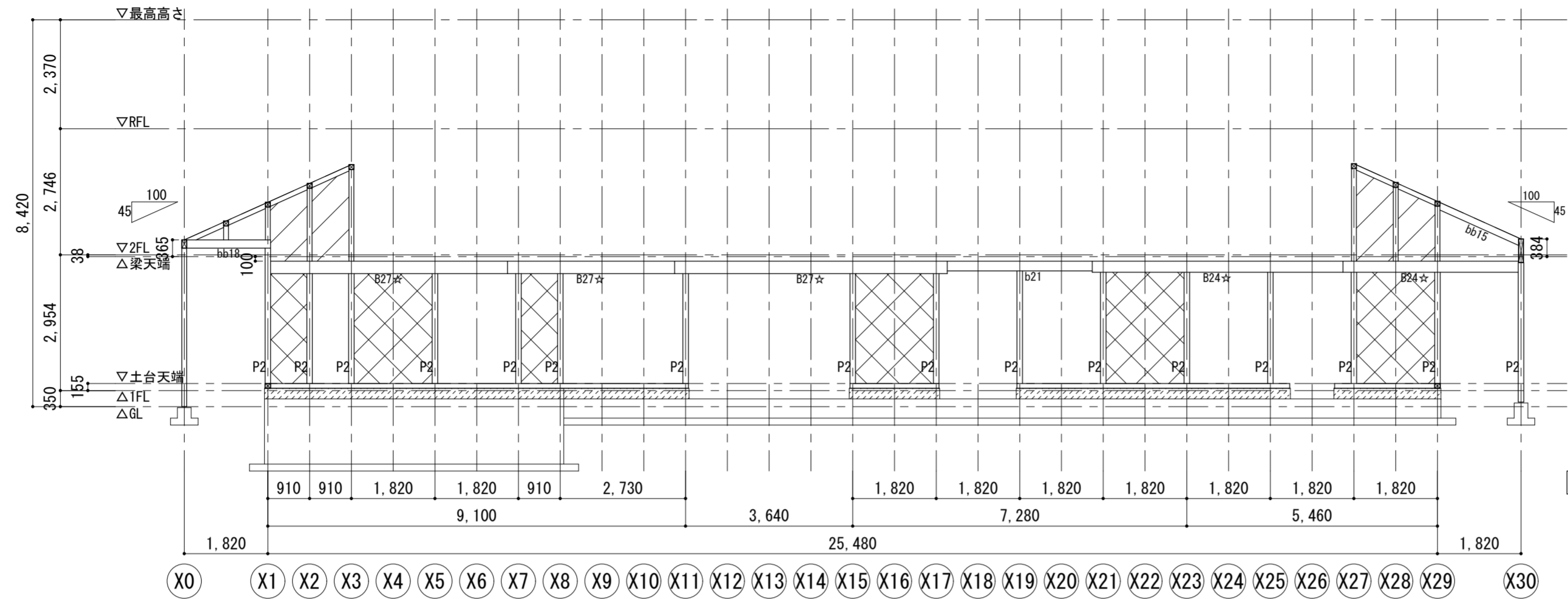
部 位	記 号	寸 法	樹 種	構 造 材	強 度	備 考
柱	P1	105x105	すぎ	構造用製材		
	P2	120x120	すぎ	構造用製材		
	P3	150x150	すぎ	構造用製材		
	P4	120x150	からまつ	構造用集成材	E95-F270	

耐力壁	
	筋かい 45x90 両筋かい 端部金物 BP-2 材種：すぎ 構造用製材 壁倍率4.0倍
	筋かい 45x90 片筋かい 端部金物 BP-2 材種：すぎ 構造用製材 壁倍率2.0倍
	構造用合板 t=9 片面張り 釘N50@150打ち 壁倍率2.5倍
	構造用合板 t=9 両面張り 釘N50@150打ち 壁倍率5.0倍

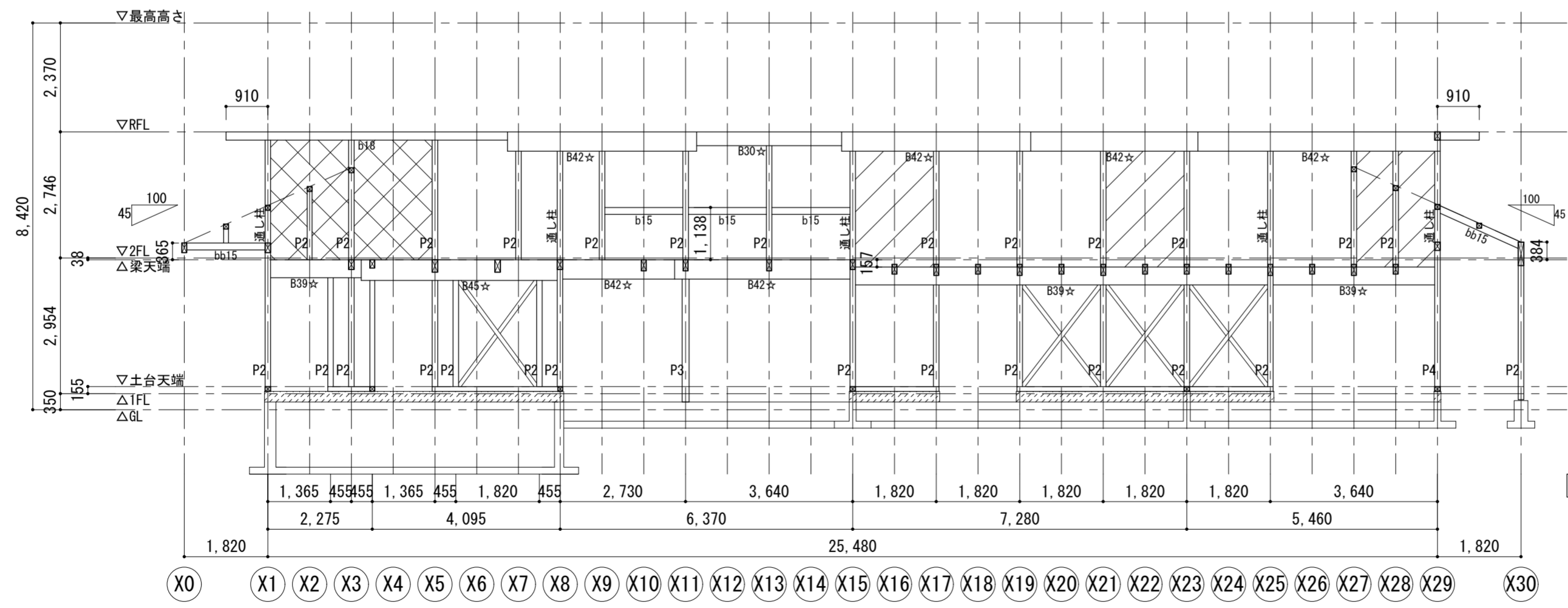
柱脚・柱頭金物	
い	かすがい打ち 又は 込み栓打込み
は	山形金物 同等品
へ	10kN用引寄せ金物(柱脚10kN用HD金物)
と	15kN用引寄せ金物(柱脚15kN用HD金物)
ち	20kN用引寄せ金物(柱脚20kN用HD金物)

<凡例>  
 : 1~2階通し柱



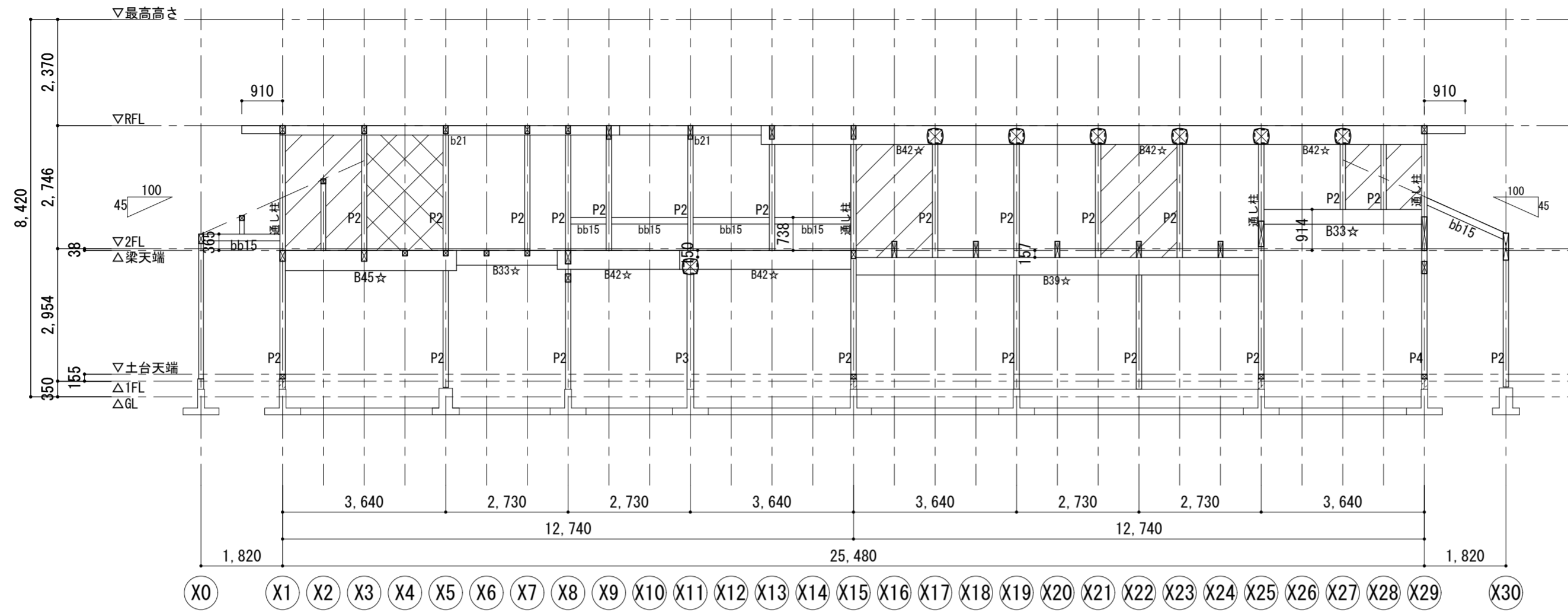


Y1通り 軸組図

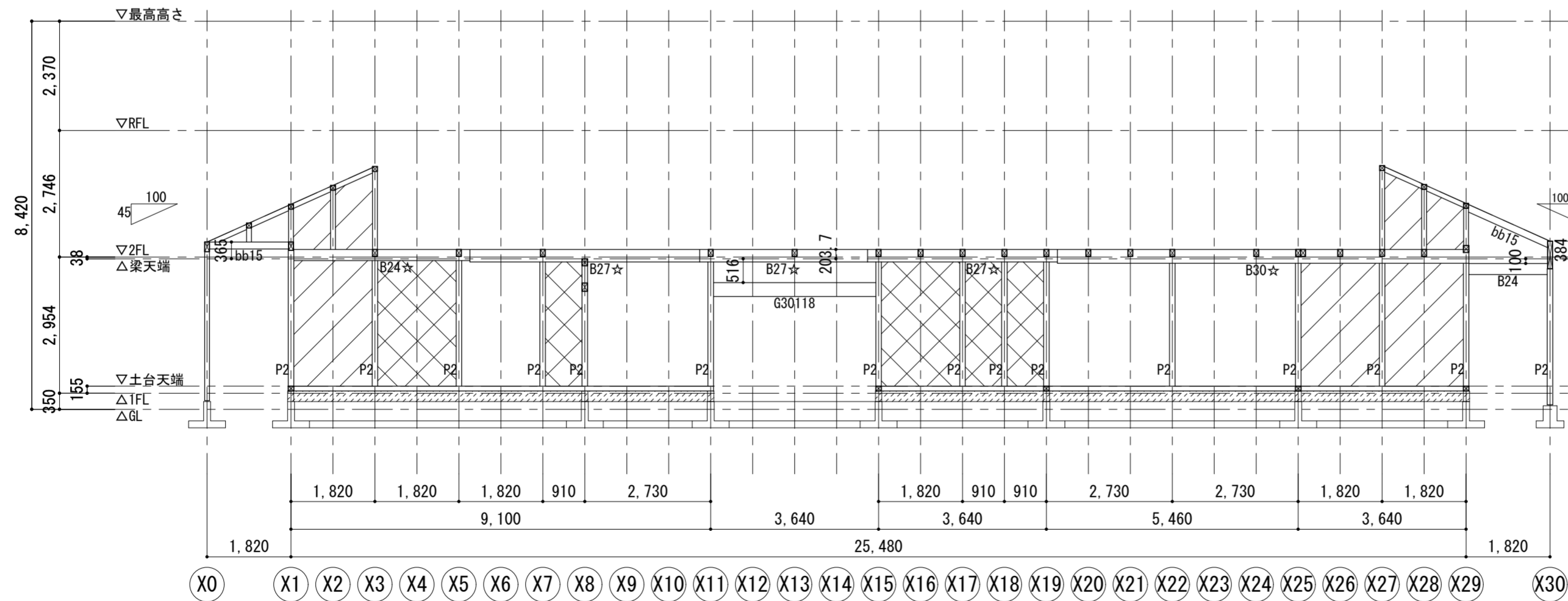


Y5通り 軸組図

耐力壁	
	筋かい 45x90 片筋かい 端部金物 BP-2 材種：すぎ 構造用製材 壁倍率2.0倍
	筋かい 45x90 両筋かい 端部金物 BP-2 材種：すぎ 構造用製材 壁倍率4.0倍
	構造用合板 t=9 片面張り 釘N50@150打ち 壁倍率2.5倍
	構造用合板 t=9 両面張り 釘N50@150打ち 壁倍率5.0倍



Y14通り 軸組図



Y16通り 軸組図

耐力壁	
	筋かい 45x90 片筋かい 端部金物 BP-2 材種: すぎ 構造用製材 壁倍率2.0倍
	筋かい 45x90 両筋かい 端部金物 BP-2 材種: すぎ 構造用製材 壁倍率4.0倍
	構造用合板 t=9 片面張り 釘N50@150打ち 壁倍率2.5倍
	構造用合板 t=9 両面張り 釘N50@150打ち 壁倍率5.0倍



株式会社 馬場設計  
山梨県知事登録(梨)第1-30888号  
一級建築士 大臣登録第267504号 管理建築士 代田 一郎

管理技術者 宮澤 昌文  
一級建築士 第225432号  
主任技術者 鬼頭 繁樹  
一級建築士 第225730号

担当作者 渡邊 須美樹  
一級建築士 第238035号  
株式会社木構堂  
一級建築士事務所登録 岐阜県12343号

設計年月  
2023.3  
縮尺  
A2: 1:100  
A4: 上記の50%

縮尺  
A2: 1:100  
A4: 上記の50%

甲府城周辺歴史文化交流施設建設(建築主体)工事  
軸組図(3)

区分  
建築構造  
No.  
19